

5. 「男女共同参画社会」に関する調査結果の総括

福岡市では平成 16 年 4 月に「福岡市男女共同参画を推進する条例」が施行され、条例に基づいて平成 18 年に「福岡市男女共同参画基本計画」が策定された。その後改定を重ね、平成 28 年には「福岡市男女共同参画基本計画（第 3 次）」（以下「基本計画（第 3 次）」という）が策定された。

基本計画（第 3 次）策定以降の市の男女共同参画の現状と課題を的確に把握し、今後の取り組みを効果的なものにするための基礎資料とすることを目的に、本調査は平成 30 年度に実施された。この間、「育児・介護休業法」や「DV防止法」が改正され、新たに「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」（以下、「女性活躍推進法」という）が施行されるなど、国の男女共同参画行政に関わる動きが進展する中、福岡市民の行政に対するニーズも多様に変化している。市では、平成 20 年度、平成 25 年度にも今回と同様の調査を行っているため、今回の結果を 5 年前、10 年前のものと比較することができる。経年変化をみながら、最近の市民の実態や意識、要望の特徴を把握していく。

（1）男女平等に関する考え方（問 22）

女性と男性の地位の平等に関して（問 22）は、社会全体で『男性が優遇されている』と考える人は、女性は約 7 割強、男性は 6 割と高い。分野ごとに『男性が優遇されている』の回答をみると、女性も男性もともに、「社会通念・習慣・しきたりなど」（女性 74.0%，男性 67.6%）、「政治の場」（女性 76.2%，男性 64.2%）の 2 つの分野が特に高く、次いで「職場」（女性 60.6%，男性 53.2%）が高くなっている。一方、平等感をみると、「法律や制度」と「家庭生活」の 2 つの分野では男性の「平等」は約 4 割と高いが、女性では 2 割強にとどまり、女性と男性の意識の開きは大きい。平成 28 年に「女性活躍推進法」が施行され、男性には法や制度上で男女平等が進んでいると認識されているが、女性にとっては実感が伴っていない状況がうかがえる。「学校教育の場」は、女性も男性も「平等」は 5 割前後と高い分野であったが、「わからない」も約 3 割と他の分野より高く、学校現場に対しては直接関わる機会が少ないためか判断を留保する人は多い。すべての分野で『男性が優遇されている』は女性の方が男性より割合は高く、多様な分野で女性の方が不平等感を抱いていることがわかる。ただし、ほとんどの分野で「わからない」が、男女の 18～29 歳の若年層と女性の 70 歳以上で高くなっており、これらの年齢層では男女の地位が平等かどうかに対する関心がやや低い傾向もうかがえる。

経年変化をみると、ほとんどの分野で、女性も男性も『男性が優遇されている』が平成 20 年度調査から平成 25 年度調査で増加していたのが、今回調査で減少しており、一方で「わからない」が増加している。特に「家庭生活」「職場」「社会通念・慣習・しきたりなど」の分野では、『男性が優遇されている』が 8 ポイント前後低下している一方、「わからない」が増加しており、これらの生活に身近な分野では男性優位という認識が低くなりつつも、平等になっているとも感じられていない状況がうかがえる。

慣習等を変えていくためには、持続的な啓発活動が重要である。若年層に対しては、無意識に慣習を受け入れることのないよう、男女共同参画の理解を進める必要がある。家庭生活の不

平等感の要因の一つとして、男性の長時間労働に起因して家事分担等、家庭での役割分担への不平等感があると推測されるため、事業主に対しては、長時間労働などの働き方を見直す働き方改革推進の啓発が求められる。

(2) 就業状況と仕事以外の活動（問 23～29）

ア. 女性が職業を持つこと

女性が職業を持つことについての考え方（問 23）を全体でみると、「子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再び持つ方がよい」というM字型就労と「ずっと職業を持っている方がよい」という就労継続の2つの働き方が約4割で拮抗している。ここでいうM字型就労は、子育て期に就労中断した後、子どもに手がかからなくなると再就労するという、子育てを優先する女性の働き方を示す。このM字型就労への賛成は男性（45.7%）が女性（41.3%）を上回り、就労継続は女性（44.6%）が男性（36.3%）を上回り、男女で意識の違いがある。ただし、共働きの場合には、女性も男性も就労継続の支持は約5割と高く、意識の違いは小さい。一方、未婚者では就労継続の支持は女性が約5割で男性を11.8ポイント上回っており、独身の男女で女性の職業観のミスマッチが生じている傾向がうかがえる。また、離婚した女性で就労継続の支持は約6割と高く、離婚を経験した女性の就労継続が重視されることがわかる。経年でみると、就労継続の支持は増加しており、女性では平成20年度調査からの10年で10ポイント以上伸びている。

現在、職業を持っている女性は5割半ばで男性を12.9ポイント下回っている（問 24）。

職業を持っている人に仕事内容や待遇面で女性は男性に比べ不当に差別されているか（問 24-1）尋ねたところ、「不当に差別されているとは思わない」は男女とも4割を超えているが、女性（41.2%）は男性（46.1%）を4.9ポイント下回り、当事者である女性の方が差別を感じている傾向がうかがえる。差別されている内容について、女性で最も高い項目は「結婚したり子どもが生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある」が約2割で、特に40代以下の子育て世代の年齢層で高くなっていった。男性も40代以下の子育て世代での割合が高いものの、30代以下で男女を比べると女性は男性を10ポイント以上上回り、女性の方がより切実に感じているといえる。「昇進・昇格に差別がある」は女性の30代と40代で2割を超えている。また、女性の40代は「賃金に差別がある」「能力を正当に評価しない」などほとんどの項目で他の年代より高くなっており、女性の非正規雇用の比率が高い年代では不平等感が高いといえる。

経年でみると、この10年で「不当に差別されているとは思わない」は男女とも増加し、各項目の不当に差別されていると思う割合はほとんどが減少し、仕事内容や待遇面の男女平等は進んでいることが推測される。なお、平成25年度調査で増加していた「結婚したり子どもが生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある」も男女とも減少していた。また、内閣府男女共同参画局「平成30年度男女共同参画白書」によると、昭和60年から平成21年までの25年間の推移では、第1子を出産した就業女性が就労を継続する割合の増加がみられなかったが、平成22年から平成26年までの5年間では増加して5割を超え、育児休業を利用して就労継続している女性も約9ポイント増加している。その背景には、今回調査の結果からもうかがえるように、以前より女性が出産後も就労継続しやすい職場環境が整いつつあることがいえる。それはまた、

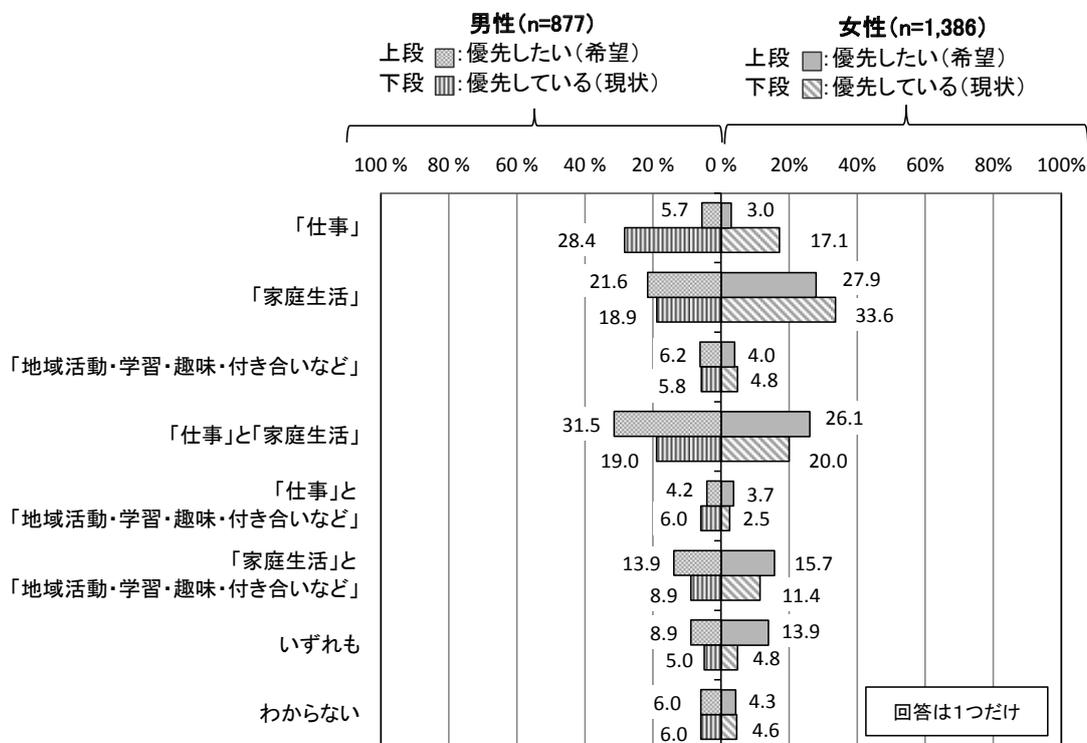
今回調査で、女性が職業を持つことについて就労継続への支持が上昇した理由の1つでもあろう。

イ. 仕事とそれ以外の活動の優先度

仕事とそれ以外の活動の優先度の希望（問25）を尋ねたところ、「家庭生活を優先したい」（女性27.9%、男性21.6%）は女性の1位で男性を6.3ポイント上回り、「仕事と家庭生活を優先したい」（女性26.1%、男性31.5%）は男性の1位で女性を5.4ポイント上回った。性・配偶関係別では、女性も男性も、共働き家庭の人や離婚した人では、他の配偶関係よりも「仕事と家庭生活を優先したい」という割合は高かった。

現実の生活の中での優先度（問26）をみると、女性では「家庭生活を優先」（33.6%）が最も高く、男性では「仕事を優先」（28.4%）が高く、性別で異なる状況にある。希望と比べると、「仕事を優先」は男性では22.7ポイント、女性では14.1ポイント上回り、「仕事と家庭生活を優先」は男性では12.5ポイント、女性では6.1ポイント下回った（図表1）。特に男性では、「仕事を優先」は30代～50代が4割を超えて高く、現実の生活では仕事を優先せざるを得ない人が多いことがうかがえ、男性の現役世代ではその傾向が強いといえる。共働きの場合、「仕事と家庭生活を優先」は女性では約4割で男性では約3割、「仕事を優先」は女性が2割弱で男性が4割弱で、男性の方が仕事優先の生活となっている。離婚した女性では、「仕事を優先」が3割半ばで共働きの女性より18.9ポイント高く、家庭生活との両立が困難な状況がうかがえる。

図表1 生活の中での優先度の希望と現状【性別】



経年でみると、女性も男性も現実生活の「仕事を優先」が下がっており、男性では「家庭生活を優先」、女性では「仕事と家庭生活を優先」がやや増加し、仕事から家庭へ優先する生活状況に変わりつつあることがわかる。

ウ. 男性の育児休業・子の看護休暇・介護休業の取得

仕事と子育てを両立するために育児休業・子の看護休暇を取得する制度があるが、男性がこれらの制度を活用すること（問 27）については、女性も男性も「男性も育児・子の看護休暇を取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う」が約 6 割と高く、「男性も育児・子の看護休暇を積極的に取るべきである」は約 3 割で性別による違いはなかった。さらに、女性が職業を持つことに対する考え方別にみると、女性の就労継続を支持する人では M 字型就労を支持する人よりも「積極的に取るべきである」という回答の割合が男女とも高くなっており、女性の就労継続の支持と男性の育児休業等の取得への支持は相関している。

「男性も育児・子の看護休暇を取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う」人にその理由（問 27-1）を尋ねたところ、女性は「職場に取りやすい雰囲気がないから」（30.7%）が最も高く、男性は「取ると仕事上周圍の人に迷惑がかかるから」（32.4%）が最も高かった。また、管理職世代の男性 50 代では「仕事が忙しいから」が 2 割で他の年代よりも高かった。

男性が介護休業制度を取得すること（問 28）については、女性も男性も「男性も介護休業を取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う」が 5 割半ば、「男性も介護休業を積極的に取るべきである」は 3 割半ばとなっている。育児休業・子の看護休暇と比べると「積極的に取るべき」は 10 ポイント程度高く、介護休業の取得の方が支持は高い。また、男女とも女性の就労継続を支持する人では M 字型就労を支持する人よりも「積極的に取るべきである」という回答の割合が高く、育児休業制度等と同じ傾向がみられた。女性の就労継続の支持と、男性が育児や介護のケア役割を担うことへの支持は相関している。

「男性も介護休業を取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う」理由（問 28-1）については、「取ると仕事上周圍の人に迷惑がかかるから」が女性も男性も 3 割を超えて最も高かった。育児休業等と同じく管理職世代の男性 50 代では「仕事が忙しいから」が他の年代に比べて高かった。

男性が育児休業や介護休業を取得することは、当事者世代では周囲の気兼ねが障壁となっており、今後は、管理職世代がこの状況を理解し、職場全体で男性がケア役割を担える環境整備を促進することが重要である。

エ. 男性が女性とともに家事や子育てなどを担っていくために必要なこと

男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと（問 29）については、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」（59.5%）、「男性が家事・子育てなどを担うことに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」（56.0%）、「労働時間短縮や休暇制度を普及させることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」（47.0%）の 3 項目が高かった。ほとんどの項目で女性の割合は男性を上回り、当事者の男性よりも女性の方が、男性の家庭や地域への参画を実現するための多様な取り組みを求めている。

「年長者や周りの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」では女性(38.5%)は男性(24.5%)より14.0ポイント高く、「男性が家事・子育てなどを担うことに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」「社会の中で男性が家事・子育てなどを担うことに対する評価を高めること」も、女性は40代以下の年齢の低い層を中心に高くなっており、子育て世代の女性では性別役割分担意識の社会的な変革をより求めている。「労働時間短縮や休暇制度を普及させることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が、男女とも年齢の低い層ほど高くなっており、男性が仕事以外の活動に参加するためには、意識変革のみならず、男性の労働以外の時間を確保することが若い年齢層で重視されている。

これらの結果から、この5年間で女性も男性もワーク・ライフ・バランスが実現できる方向へ進みつつあることがわかる。とはいえ、依然として、女性は家庭優先、男性は仕事優先の生活は解消されていない。職場の男女共同参画を実現する意識啓発を管理職中心に進め、働き方改革への努力はさらに継続されなくてはならない。

(3) 結婚や家庭生活(問30~問31)

家庭生活での役割分担(問30-1)をみると、女性の「主に自分」、男性の「主に配偶者(パートナー)」という回答の割合は「炊事、掃除、洗濯などの家事」が約8割、「家計支出の管理」が約6割と高く、日々の細かな家事は女性が担っていることがわかる。また「育児や子どものしつけ」を例にとると、女性の「主に自分」(50.8%)が男性の「主に配偶者(パートナー)」(42.4%)を上回る一方、男性の「自分と配偶者が同じくらい」(23.3%)は女性(18.5%)を上回っている。これは、女性は「主に自分」が担っていると思う一方、男性は「同じくらい」と思っているという認識のずれを示唆しており、同様のことが「炊事、掃除、洗濯などの家事」「親や家族の介護」「町内会、自治会、PTAなどの会合への参加」にもいうことができる。共働きの場合では「炊事、掃除、洗濯などの家事」「育児や子どものしつけ」の「自分と配偶者が同じくらい」は、共働きでない場合よりも女性と男性のポイント差があり、共働きの場合ではずれがやや大きくなる傾向がある。

一方、「将来の生活設計を立てる」「子どもの教育方針や進学目標を決める」「高額な商品や土地、家屋の購入」では、「自分と配偶者が同じくらい」が最も高く、さらに「高額な商品や土地、家屋の購入」では他の項目に比べて男性の割合が高い。重要な決定に関することには男性が関与する傾向がうかがえる。男女の平等について第1節でみたように、家庭の分野では女性の方に不平等感が高かった。家庭内の重大な決定の場には男性が参画する一方で、炊事・育児・介護などは依然として女性が主に担っている、という実態に対して女性の不満は高いと推測される。

「男は仕事、女は家庭を守るべきである」という固定的な性別役割分担意識(問31)に対しては、女性では『そう思わない』否定派が6割半ば、『そう思う』肯定派が約3割で、否定が肯定派の2倍に上った。男性では否定派が約5割、肯定派が4割半ばで、否定派が肯定派を7.1ポイント上回った。男女とも18~29歳で否定派が他の年代よりも高く、特に女性では4分の3にも上った。

これを経年変化でみると、平成20年度調査から平成25年度調査にかけて男女とも肯定派が

大幅に増加し、固定的性別役割分担意識の解消への反動がみられたが、今回調査においては平成 20 年度調査の水準に戻った。同様の傾向は全国調査（内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」）にもみられ、平成 21 年調査まで否定派が増加し続けて 55.1%となったが、平成 24 年調査で肯定派が否定派を逆転し、意識の後退が問題となった。しかし、平成 26 年以降は否定派が増加し、さらに平成 28 年調査で否定派の割合が 54.3%と平成 21 年調査並みに戻った。否定派の理由は「固定的な役割分担意識を押し付けるべきではない」が 52.8%、「妻が働いた方が、個人や社会にとって良い」が 46.8%となっている。就労継続する女性が増加している実態があり、これが意識へ影響を与えているともいえる。

（４）子どもの教育（問 32）

子どものしつけや教育についての考え方（問 32）をみると、女の子が経済的に自立できる育て方については、『賛成』は 9 割を超え、圧倒的に支持されている。男の子が生活的に自立できる育て方についても、『賛成』は 9 割を超えているが、積極的な賛成をみると、男性では年齢の高い層を中心に低くなり、男の子が生活自立能力を身につけることに对しやや抵抗感があることがうかがえる。

学校教育の場で、男女の別をなくした混合名簿の使用については、男女とも賛成の割合は約 6 割で、反対は 1 割を超える程度にとどまるが、「わからない」と判断を留保する人も男女とも約 2～3 割程度あった。

「進路は、理系、文系を性別にとらわれることなく選択する方がよい」について、全体では『賛成』する人は約 9 割で男女の差はあまりなく、性別にとらわれない進路選択に対する支持は高い。

しかし、「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる方がよい」という考え方への『賛成』は、女性では約 5 割、男性で 6 割半ばと高い。ふるまいについては性別の違いを認める人が多いことがうかがえるが、子どもの育て方や進路選択については固定的な性別役割分担の解消を認めているといえる。

社会での考え方は子どもの性別役割を解消する育て方を支持していても、実際の家庭生活では家事を担うのは女性を中心となっており、子どもへの意識形成への影響が懸念される。性別役割分担に関する意識が子どもへ再生産され、次世代に継承されていく可能性がないよう、家庭や学校で男女共同参画の実現を進めることが必要である。

（５）DV（恋人、配偶者、パートナーからの暴力）と人権（問 33～問 35）

恋人、配偶者、パートナーから暴力を受けた経験（問 33）について、精神的な暴力、身体的な暴力、性的な暴力など 14 項目にわたって尋ねた。『受けた経験がある』人の割合が高い上位は精神的暴力で、「大声で怒鳴る」は 3 人に 1 人が、「話しかけても長い間無視する」は 3 割弱に被害経験があった。1 割前後に上った暴力は、「誰のおかげで生活できるんだ、かい性なしなどと言う」という精神的暴力、「意に反して性行為を強要する」という性暴力、「命の危険を感じる程ではないが何らかの暴力をふるう」という身体的暴力であった。「外出先や携帯電話、メール、郵便物などを細かくチェックする」「社会活動や仕事をするをいやがる（させない）」

という社会関係を遮断する社会的暴力、「大切にしている物を捨てたり、壊したりする」精神的暴力、「生活費を渡さない」という経済的暴力などは7%を超えていた。多岐にわたる種類の暴力を一定程度の人が受けていることがわかる。

性・年代別にみると、ほとんどの項目で女性の方が『受けた経験がある』の割合が男性よりも高かった。命の危険を感じるぐらいの暴力を受けている女性を実数でみると「何度も」は20人(1.4%)、「1, 2度」は44人(3.2%)にも上り、看過できない数値である。「命の危険を感じるほどの暴力」「命の危険を感じる程ではないが何らかの暴力」を振るわれた人では高校生以下の子どもたちが同居している場合もあり、子どもたちの面前でのDVは心理的な児童虐待になるため、事態は重大である。女性18~29歳では、「避妊に協力しない」「中絶の強要」の性暴力が他の世代よりも高い傾向にあり、未婚者も多いこの年代ではデートDVが起きていることも推測される。

暴力を受けた際の対処について、考えた内容(問33-1)と実際の行動(問33-2)を尋ねた。考えた内容として男女ともに最も多いのは「がまんするしかないと思った」が約4割だが、実際に「がまんした」のは女性は4割半ば、男性は5割で、考えた場合の割合よりやや高かった。なんらかの方法を考えたものの現実にはがまんするしかなかった人がある程度あり、男性により多い。がまん以外にとった対処方法についてみると、男性は「相手と話し合う」が最も高く、考えた内容・実際の行動ともに約3割であった。女性では、考えた対処方法と実際に取った行動との差は大きく、「離婚や別居、交際の解消」を考えた割合では最も高く3割半ばだが、実際に行動したのは1割半ばにとどまっており、20.0ポイントの差がある。他にも「経済的に困らないように仕事を働きたいと思った」「人生や生き方について考え直した」も考えた割合より実際に行動した割合が下回った。女性にとって、離婚や就職は実行するにはハードルが高いといえる。一方、女性の「誰かに相談したいと思った」は16.8%だが、実際に「身近な人に相談した」女性は23.8%、行政や民間の相談機関に相談したのは4.0%と、相談に関しては考えた割合を上回っている。

DVの相談窓口についての認知(問34)については、男女とも「警察」が6割を超えて最も高く、次いで「区役所(保健福祉センター)」が約3割、3番目は「アミカス」で女性の方が男性より高くなっていた。「アミカス」は男性では18~29歳で最も高いが、女性では年齢の低い層の認知は低く、40代~60代で高くなっていた。

セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)の認知(問35)については、「受けた女性を知っている」は全体で15.1%、女性は「自分が直接受けたことがある」が14.1%あった。また、「受けた男性を知っている」は全体で1.7%、男性は「自分が直接受けたことがある」が2.3%であった。女性の被害経験者が多いが、男性でも被害を受けていることがわかる。男女とも年代による特徴は明確にはみられず、セクシュアル・ハラスメントは年代に関わらず被害を受けることもうかがえる。

当市において、DVやセクシュアル・ハラスメントの被害を受けている人が一定数存在する。苦しむ状況をうまく解決できず、我慢せざるを得ない人も多い。被害者を救済し支援するための制度の徹底と、暴力を撤廃するための啓発活動が今後とも求められる。また、身近な相談窓口の周知を高める必要がある。

(6) 女性の地域リーダーと災害時における男女共同参画の視点（問 36～問 38）

自治協議会、自治会・町内会、PTAなど地域の諸団体での過去5年間における活動（問 36）について、「参加していない」は女性では約5割、男性では約6割で、男性の方が参加していない状況にある。「団体に所属し、活動に参加した」は女性の40代、50代が4割前後と高いが、男性では60代、70歳以上が3割前後で高く、活動の主体となる年齢層は男性の方が高い。

地域において女性のリーダーが少ない理由（問 37）については、「女性は家事や仕事で忙しいから」は女性で最も多く3割半ばであった。特に、女性の30代では約4割、男性も30代と40代で高く、当事者の女性や子育て世代では女性が地域活動のリーダーを担う余裕はないと感じている人は多い。「これまでの慣習で、リーダーには、男性が就任してきたから」は男性が3割半ばと最も高く、女性も2番目に高く、慣習が女性リーダー出現の壁と考える人も多い。「男性中心の組織運営になっているから」は、男性では50代以下、女性では30代以下の年齢層で3割を超え高くなっていた。

経年でみると、平成25年度調査と比べ男女とも「女性は家事や仕事で忙しいから」が増加しており、「男性がリーダーという慣習」や「男性中心の組織運営」は減少している。

大規模災害時などにおける男女共同参画の視点による対策に必要なこと（問 38）は、「避難所で女性や子どもが安全に過ごすことができるようにすること」が4割半ばで最も高く、女性ではほとんどの年代、男性では40代以下の年代で他の項目より高い。「避難所の運営、運営方針の決定などにおいて、女性が男性とともに参加できるようにすること」は男性の50代以上で最も高くなっている。

地域活動の意思決定の場に女性が参画することは、防災分野のみならず多様な分野を活性化する。地域活動で女性のリーダーが少ない理由には、男性中心の組織運営や慣習があるが、第2節でみたように出産後も就労継続する女性の増加を背景に女性の多忙化が課題となってきており、現状のように女性の40代・50代が地域を支えることが今後は難しくなることが推測される。年代、就労の有無に関わらず女性がリーダーとして関わられるよう、防災など明確な地域課題をテーマに女性も男性とともにリーダーとして参画することの必要性を認識できるような啓発を進めるとともに、地域活動の時間帯の見直しやリーダーの負担の削減なども必要である。

(7) 福岡市の男女共同参画推進の取り組み（問 39～問 41）

男女共同参画に係る用語等の認知（問 39）については、「マタニティ・ハラスメント」という言葉の認知（聞いたことがある）は8割半ばと最も高く、特に女性で「内容を知っている」は6割半ばと高い。次いで「DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律）」が約8割、「男女共同参画社会」も7割半ばで高かった。一方、福岡市の取り組みについて、福岡市の条例は4割半ば、基本計画は約4割にとどまった。「みんなで参画ウィーク（福岡市男女共同参画週間）」については、約3割の認知にとどまっている。福岡市男女共同参画推進センター・アミカスの認知については、男性に比べ女性のほうが高くなっている。

男女が社会のあらゆる分野で平等になるために重要なこと（問 40）は、男女とも「女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が約3分の1を占めて最も高い。また、「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力

の向上を図ること」は女性が約2割と男性よりも割合が高い。経年でみると、男女とも「女性の就業、社会参画を支援する施設やサービスの充実を図ること」は平成25年度調査から大きく減少し、一方「女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が増加しており、女性が社会参画するための支援サービスが評価される一方で、第1節でもみた根深い慣習への問題意識が高まっている状況が推測される。

男女共同参画社会を実現するために、福岡市が力を入れていくべきこと（問41）としては、「保育の施設・サービスを充実し、子育て中でも働き続けられるよう支援する」「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」「仕事と家庭や地域活動の両立ができるよう企業に働きかける」の両立支援に関する3項目は男女とも高く、特に女性の30代以下の子育て世代で約3分の2を占める。「介護の施設・サービスを充実し、介護をしながらでも働き続けられるよう支援する」も男女ともに高いが、特に女性の50代と60代の介護世代で約3分の2となっている。

これまでみてきたように、女性の就労継続が進む傾向にあるが、それだけに家事・育児が女性中心という現状で女性の負担はさらに重くなってきており、仕事と育児や介護との両立支援への要望が高いといえる。男性では「学校や職場、地域などで、男女平等と相互の理解についての学習機会を充実する」が女性より高く、職場などでの学習機会が重視されている。このような行政への要望を踏まえ、両立支援策の充実や女性活躍の取り組みを推進するような啓発を事業所や地域、年齢層など対象ごとの課題解決に沿って展開していくことが求められる。

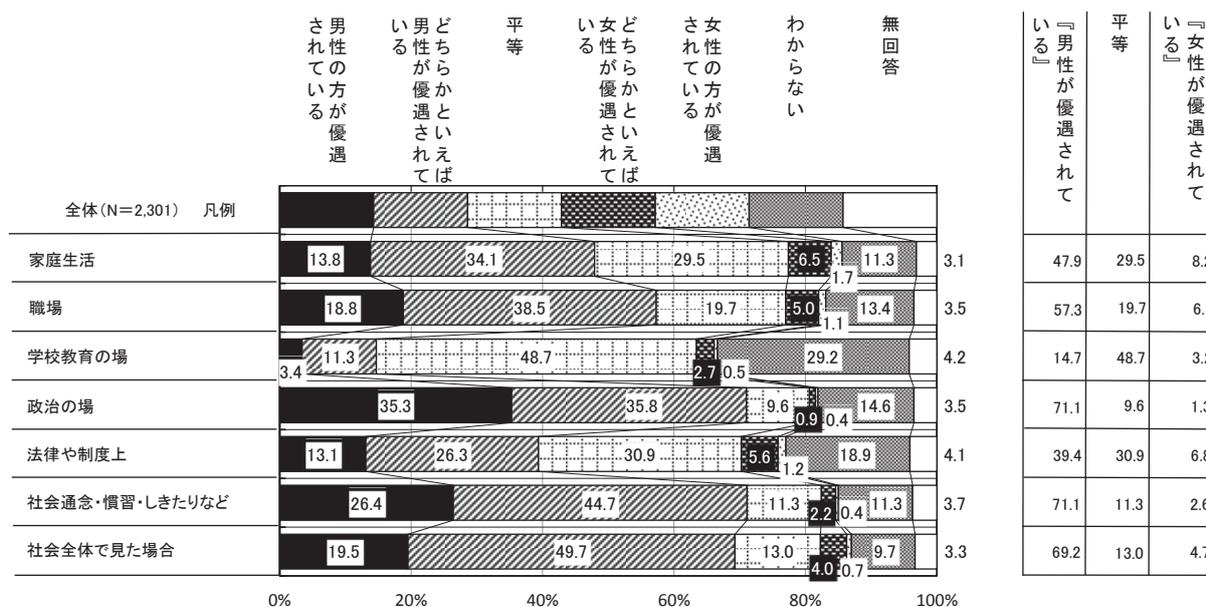
6. 「男女共同参画社会」に関する調査結果

(1) さまざまな分野における男女の地位の平等感

問22 あなたは、下表の(1)～(7)の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(1)～(7)のそれぞれの項目について、あなたの考えに最も近いものを**1つつ**選び、番号に○をつけてください。

さまざまな分野における男女の地位の平等感について聞いたところ、『男性が優遇されている』(=「男性の方が優遇されている」+「どちらかといえば男性が優遇されている」)と回答した人の割合は、「政治の場」「社会通念・慣習・しきたりなど」が71.1%と最も高く、次いで「社会全体で見た場合」(69.2%)、「職場」(57.3%)となっている。また、「学校教育の場」では「平等」の割合が48.7%となっており、他の項目に比べて高くなっている。

図表 さまざまな分野における男女の地位の平等感【全体】



①家庭生活

性別にみると、女性では『男性が優遇されている』（54.9%）の割合が男性（37.0%）に比べて17.9ポイント高くなっている。また、男性では「平等」（38.4%）の割合が女性（23.8%）に比べて14.6ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、女性50代・60代では『男性が優遇されている』の割合が6割を超えており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 さまざまな分野における男女の地位の平等感 (1) 家庭生活【性・年代別】

単位：%

	調査数	平等感							優遇感		
		男性の方が優遇されている	優どちらかといえれば男性が	平等	優どちらかといえれば女性が	女性の方が優遇されている	わからない	無回答	『男性が優遇されている』	平等	『女性が優遇されている』
全体	2,301	13.8	34.1	29.5	6.5	1.7	11.3	3.1	47.9	29.5	8.2
女性計	1,386	18.1	36.8	23.8	5.4	1.1	12.3	2.5	54.9	23.8	6.5
18～29歳	141	13.5	29.8	27.7	10.6	2.1	16.3	-	43.3	27.7	12.7
30代	216	20.8	33.8	21.3	10.2	1.9	10.6	1.4	54.6	21.3	12.1
40代	269	19.7	32.7	28.3	2.6	0.4	14.9	1.5	52.4	28.3	3.0
50代	229	19.7	43.7	21.0	3.5	1.7	9.6	0.9	63.4	21.0	5.2
60代	244	20.1	47.1	18.4	2.9	0.8	9.4	1.2	67.2	18.4	3.7
70歳以上	271	14.0	32.8	25.5	5.9	0.4	12.9	8.5	46.8	25.5	6.3
男性計	877	7.0	30.0	38.4	8.3	2.7	10.0	3.5	37.0	38.4	11.0
18～29歳	86	12.8	16.3	31.4	15.1	3.5	18.6	2.3	29.1	31.4	18.6
30代	123	3.3	28.5	38.2	11.4	5.7	10.6	2.4	31.8	38.2	17.1
40代	147	9.5	29.3	41.5	8.2	3.4	7.5	0.7	38.8	41.5	11.6
50代	129	8.5	32.6	34.9	7.8	1.6	13.2	1.6	41.1	34.9	9.4
60代	178	4.5	36.5	40.4	7.3	0.6	9.0	1.7	41.0	40.4	7.9
70歳以上	187	5.3	32.1	40.1	5.3	2.7	4.3	10.2	37.4	40.1	8.0

②職場

性別にみると、女性では『男性が優遇されている』（60.6%）の割合が男性（53.2%）に比べて7.4ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、女性40代～60代、男性60代では『男性が優遇されている』の割合が6割台となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。また、男性30代・40代では『女性が優遇されている』の割合が1割台後半となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。さらに、女性18～29歳、男性40代・50代では「平等」の割合が2割台後半から3割台半ばとなっており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 さまざまな分野における男女の地位の平等感 （2）職場【性・年代別】

単位：%

	調査数	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等	どちらかといえば女性が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答	平等感		
									『男性が優遇されている』	平等	『女性が優遇されている』
全体	2,301	18.8	38.5	19.7	5.0	1.1	13.4	3.5	57.3	19.7	6.1
女性計	1,386	22.1	38.5	17.3	3.2	0.6	15.4	3.0	60.6	17.3	3.8
18～29歳	141	18.4	31.9	28.4	6.4	1.4	13.5	-	50.3	28.4	7.8
30代	216	19.0	40.7	21.3	5.6	0.9	11.6	0.9	59.7	21.3	6.5
40代	269	26.4	40.9	18.6	3.0	0.4	9.7	1.1	67.3	18.6	3.4
50代	229	25.8	43.2	19.2	2.6	0.4	7.0	1.7	69.0	19.2	3.0
60代	244	28.3	38.9	12.7	1.6	0.8	16.4	1.2	67.2	12.7	2.4
70歳以上	271	13.3	33.2	9.6	1.8	-	31.7	10.3	46.5	9.6	1.8
男性計	877	14.3	38.9	23.5	7.9	2.1	10.0	3.4	53.2	23.5	10.0
18～29歳	86	20.9	27.9	22.1	8.1	3.5	15.1	2.3	48.8	22.1	11.6
30代	123	12.2	35.8	22.0	14.6	4.1	8.1	3.3	48.0	22.0	18.7
40代	147	14.3	32.7	30.6	11.6	5.4	4.8	0.7	47.0	30.6	17.0
50代	129	12.4	33.3	34.1	8.5	-	10.9	0.8	45.7	34.1	8.5
60代	178	12.4	51.7	20.8	5.1	0.6	9.0	0.6	64.1	20.8	5.7
70歳以上	187	16.6	41.2	15.5	3.2	0.5	12.8	10.2	57.8	15.5	3.7

③学校教育の場

性別にみると、男性では「平等」(53.1%)の割合が女性(46.5%)に比べて6.6ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、女性60代では『男性が優遇されている』の割合が23.4%となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。また、女性18～29歳では「平等」の割合が62.4%となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 さまざまな分野における男女の地位の平等感 (3) 学校教育の場【性・年代別】

単位：%

	調査数	平等感						『男性が優遇されている』			
		男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等	どちらかといえば女性が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答	『男性が優遇されている』	平等	『女性が優遇されている』
全体	2,301	3.4	11.3	48.7	2.7	0.5	29.2	4.2	14.7	48.7	3.2
女性計	1,386	4.3	12.8	46.5	1.9	0.3	30.3	3.8	17.1	46.5	2.2
18～29歳	141	2.8	6.4	62.4	1.4	0.7	24.8	1.4	9.2	62.4	2.1
30代	216	4.2	15.3	46.8	3.7	0.5	28.2	1.4	19.5	46.8	4.2
40代	269	3.7	11.2	50.2	2.6	-	30.5	1.9	14.9	50.2	2.6
50代	229	5.7	13.1	48.9	1.3	-	29.3	1.7	18.8	48.9	1.3
60代	244	6.6	16.8	41.8	0.8	0.4	31.6	2.0	23.4	41.8	1.2
70歳以上	271	2.6	11.1	37.3	1.8	0.4	34.7	12.2	13.7	37.3	2.2
男性計	877	2.1	8.9	53.1	3.8	0.9	27.4	3.9	11.0	53.1	4.7
18～29歳	86	3.5	5.8	53.5	8.1	2.3	23.3	3.5	9.3	53.5	10.4
30代	123	-	11.4	52.8	4.1	1.6	27.6	2.4	11.4	52.8	5.7
40代	147	1.4	7.5	51.0	7.5	2.0	29.3	1.4	8.9	51.0	9.5
50代	129	2.3	8.5	58.9	0.8	0.8	27.1	1.6	10.8	58.9	1.6
60代	178	0.6	9.0	57.3	2.2	-	30.3	0.6	9.6	57.3	2.2
70歳以上	187	3.2	10.7	47.6	1.6	-	25.1	11.8	13.9	47.6	1.6

④政治の場

性別にみると、女性では『男性が優遇されている』（76.2%）の割合が男性（64.2%）に比べて12.0ポイント高くなっている。また、男性では「平等」（16.1%）の割合が女性（5.5%）に比べて10.6ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、女性30代～60代では『男性が優遇されている』の割合が8割前後となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 さまざまな分野における男女の地位の平等感 （4）政治の場【性・年代別】

単位：%

	調査数	平等感						性別別			
		男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等	どちらかといえば女性が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答	『男性が優遇されている』	平等	『女性が優遇されている』
全体	2,301	35.3	35.8	9.6	0.9	0.4	14.6	3.5	71.1	9.6	1.3
女性計	1,386	40.8	35.4	5.5	0.2	0.1	15.3	2.8	76.2	5.5	0.3
18～29歳	141	40.4	26.2	8.5	-	-	24.8	-	66.6	8.5	-
30代	216	47.2	32.4	3.7	0.9	-	14.4	1.4	79.6	3.7	0.9
40代	269	41.3	38.7	5.9	-	-	13.4	0.7	80.0	5.9	-
50代	229	42.8	39.7	4.8	-	-	11.4	1.3	82.5	4.8	-
60代	244	48.0	34.0	4.9	-	-	11.9	1.2	82.0	4.9	-
70歳以上	271	26.6	37.3	5.9	0.4	0.4	19.9	9.6	63.9	5.9	0.8
男性計	877	27.1	37.1	16.1	2.1	0.8	13.2	3.6	64.2	16.1	2.9
18～29歳	86	27.9	33.7	12.8	1.2	-	22.1	2.3	61.6	12.8	1.2
30代	123	34.1	29.3	13.8	2.4	0.8	17.1	2.4	63.4	13.8	3.2
40代	147	32.7	35.4	15.6	2.0	2.0	11.6	0.7	68.1	15.6	4.0
50代	129	24.0	41.1	15.5	2.3	0.8	15.5	0.8	65.1	15.5	3.1
60代	178	30.3	43.8	16.9	0.6	-	7.3	1.1	74.1	16.9	0.6
70歳以上	187	18.7	36.4	19.3	3.2	0.5	10.2	11.8	55.1	19.3	3.7

⑤法律や制度上

性別にみると、女性では『男性が優遇されている』（46.6%）の割合が男性（29.1%）に比べて17.5ポイント高くなっている。また、男性では「平等」（41.7%）の割合が女性（23.9%）に比べて17.8ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、男性50代以上では「平等」の割合が4割台半ばから後半となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 さまざまな分野における男女の地位の平等感 （5）法律や制度上【性・年代別】

単位：%

	調査数	男性の方が優遇されている	優どちらかといえは男性が	平等	優どちらかといえは女性が	女性の方が優遇されている	わからない	無回答	性別別		
									『男性が優遇されている』	平等	『女性が優遇されている』
全体	2,301	13.1	26.3	30.9	5.6	1.2	18.9	4.1	39.4	30.9	6.8
女性計	1,386	16.7	29.9	23.9	3.8	0.3	21.9	3.5	46.6	23.9	4.1
18～29歳	141	12.8	21.3	26.2	8.5	0.7	30.5	-	34.1	26.2	9.2
30代	216	23.6	31.0	19.0	5.6	0.5	19.0	1.4	54.6	19.0	6.1
40代	269	19.0	27.9	24.9	4.8	-	22.7	0.7	46.9	24.9	4.8
50代	229	14.0	36.2	26.2	3.1	0.4	18.3	1.7	50.2	26.2	3.5
60代	244	20.9	35.7	20.9	2.0	0.4	18.4	1.6	56.6	20.9	2.4
70歳以上	271	8.9	25.5	26.6	1.1	-	25.8	12.2	34.4	26.6	1.1
男性計	877	7.9	21.2	41.7	8.7	2.7	13.7	4.1	29.1	41.7	11.4
18～29歳	86	8.1	24.4	32.6	10.5	3.5	18.6	2.3	32.5	32.6	14.0
30代	123	5.7	17.1	37.4	13.8	7.3	16.3	2.4	22.8	37.4	21.1
40代	147	12.9	16.3	37.4	13.6	5.4	13.6	0.7	29.2	37.4	19.0
50代	129	10.9	18.6	45.0	9.3	0.8	14.7	0.8	29.5	45.0	10.1
60代	178	5.1	30.3	47.2	4.5	1.7	9.0	2.2	35.4	47.2	6.2
70歳以上	187	5.9	20.3	45.5	3.7	-	12.3	12.3	26.2	45.5	3.7

⑥社会通念・慣習・しきたりなど

性別にみると、女性では「男性の方が優遇されている」(31.5%)の割合が男性(19.0%)に比べて12.5ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、女性50代・60代では『男性が優遇されている』の割合が8割台と、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 さまざまな分野における男女の地位の平等感

(6) 社会通念・慣習・しきたりなど【性・年代別】

単位：%

	調査数	社会通念・慣習・しきたりなど						『男性が優遇されている』			
		男性の方が優遇されている	優遇どちらかといえる 例えば男性が	平等	優遇どちらかといえる 例えば女性が	女性の方が優遇されている	わからない	無回答	『男性が優遇されている』	平等	『女性が優遇されている』
全体	2,301	26.4	44.7	11.3	2.2	0.4	11.3	3.7	71.1	11.3	2.6
女性計	1,386	31.5	42.5	8.9	1.2	0.1	12.6	3.3	74.0	8.9	1.3
18～29歳	141	27.7	39.7	9.2	1.4	-	22.0	-	67.4	9.2	1.4
30代	216	37.5	39.4	9.7	1.4	0.5	10.6	0.9	76.9	9.7	1.9
40代	269	34.2	43.9	10.0	0.7	-	10.4	0.7	78.1	10.0	0.7
50代	229	34.9	46.3	7.0	0.9	-	9.2	1.7	81.2	7.0	0.9
60代	244	38.1	45.9	6.6	0.4	-	7.0	2.0	84.0	6.6	0.4
70歳以上	271	17.3	39.5	10.0	2.2	-	19.6	11.4	56.8	10.0	2.2
男性計	877	19.0	48.6	14.9	4.0	0.8	9.2	3.4	67.6	14.9	4.8
18～29歳	86	29.1	31.4	16.3	5.8	1.2	14.0	2.3	60.5	16.3	7.0
30代	123	24.4	36.6	14.6	7.3	1.6	13.0	2.4	61.0	14.6	8.9
40代	147	23.1	46.9	13.6	6.1	0.7	8.8	0.7	70.0	13.6	6.8
50代	129	22.5	50.4	14.0	2.3	-	10.1	0.8	72.9	14.0	2.3
60代	178	16.3	61.8	12.9	1.7	-	6.2	1.1	78.1	12.9	1.7
70歳以上	187	9.1	52.4	18.7	2.7	0.5	5.9	10.7	61.5	18.7	3.2

⑦社会全体で見た場合

性別にみると、女性では『男性が優遇されている』（74.8%）の割合が男性（61.3%）に比べて13.5ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、女性50代・60代では『男性が優遇されている』の割合が8割を超えており、他の性・年代に比べて高くなっている。

また、女性30代～60代では「平等」の割合が1割未満となっており、他の性・年代に比べて低くなっている。

図表 さまざまな分野における男女の地位の平等感

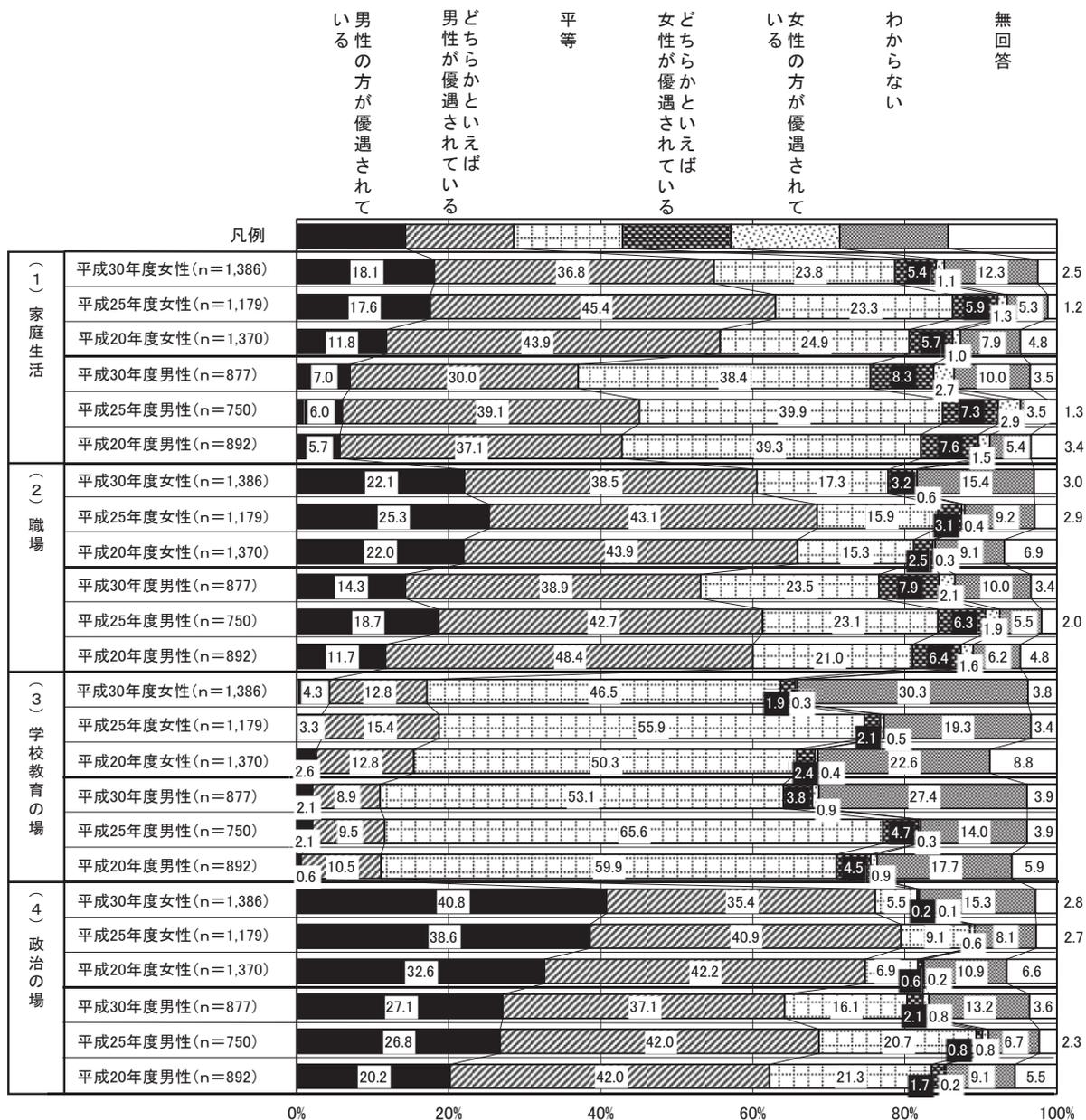
（7）社会全体で見た場合【性・年代別】

単位：%

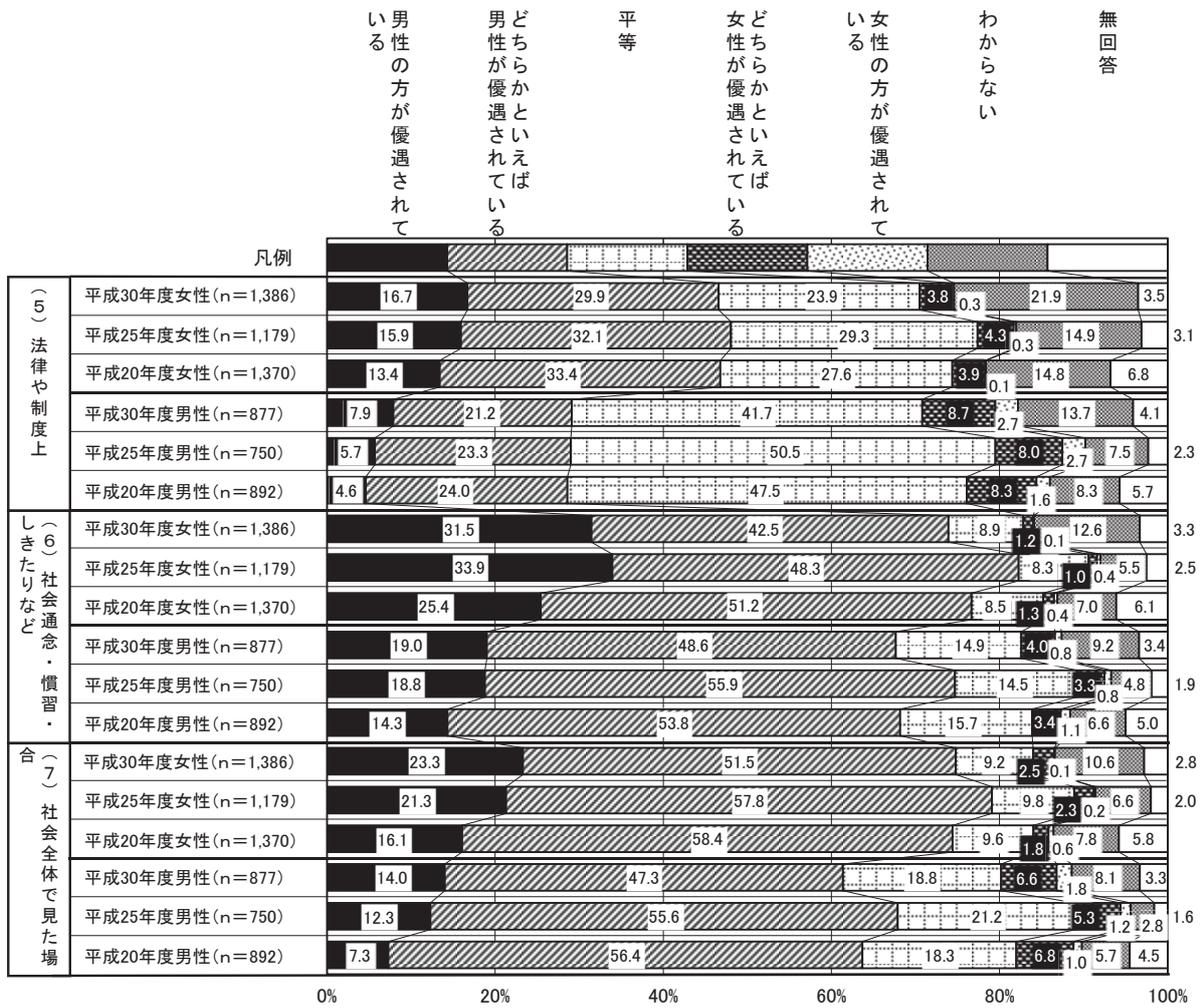
	調査数	性・年代別						性別別			
		男性の方が優遇されている	優遇さ れら か と い え ば 男 性 が	平 等	優 遇 さ れ ら か と い え ば 女 性 が	女 性 の 方 が 優 遇 さ れ て い る	わ か ら な い	無 回 答	『男性が優遇されている』	平等	『女性が優遇されている』
全 体	2,301	19.5	49.7	13.0	4.0	0.7	9.7	3.3	69.2	13.0	4.7
女性計	1,386	23.3	51.5	9.2	2.5	0.1	10.6	2.8	74.8	9.2	2.6
18～29歳	141	18.4	44.0	14.2	7.8	0.7	14.2	0.7	62.4	14.2	8.5
30代	216	30.1	48.1	8.3	2.3	-	10.2	0.9	78.2	8.3	2.3
40代	269	25.3	52.8	8.9	1.9	-	10.4	0.7	78.1	8.9	1.9
50代	229	22.7	60.7	6.6	2.2	-	6.6	1.3	83.4	6.6	2.2
60代	244	25.8	59.4	5.3	1.2	-	6.6	1.6	85.2	5.3	1.2
70歳以上	271	16.2	42.4	12.9	2.2	-	16.6	9.6	58.6	12.9	2.2
男性計	877	14.0	47.3	18.8	6.6	1.8	8.1	3.3	61.3	18.8	8.4
18～29歳	86	17.4	34.9	17.4	10.5	3.5	14.0	2.3	52.3	17.4	14.0
30代	123	17.1	37.4	19.5	11.4	4.9	7.3	2.4	54.5	19.5	16.3
40代	147	13.6	45.6	19.7	9.5	3.4	7.5	0.7	59.2	19.7	12.9
50代	129	14.0	48.1	22.5	6.2	-	8.5	0.8	62.1	22.5	6.2
60代	178	12.9	60.7	15.2	2.8	0.6	6.7	1.1	73.6	15.2	3.4
70歳以上	187	11.8	49.2	19.8	2.7	-	6.4	10.2	61.0	19.8	2.7

平成 20 年度市政に関する意識調査（以下、平成 20 年度調査という）および平成 25 年度福岡市男女共同参画社会に関する意識調査（以下、平成 25 年度調査という）の結果をみると、男女ともにほとんどの項目において、『男性が優遇されている』の割合が平成 25 年度調査よりも減少している。

図表 さまざまな分野における男女の地位の平等感 【過去の調査との比較】



図表 さまざまな分野における男女の地位の平等感 【過去の調査との比較】



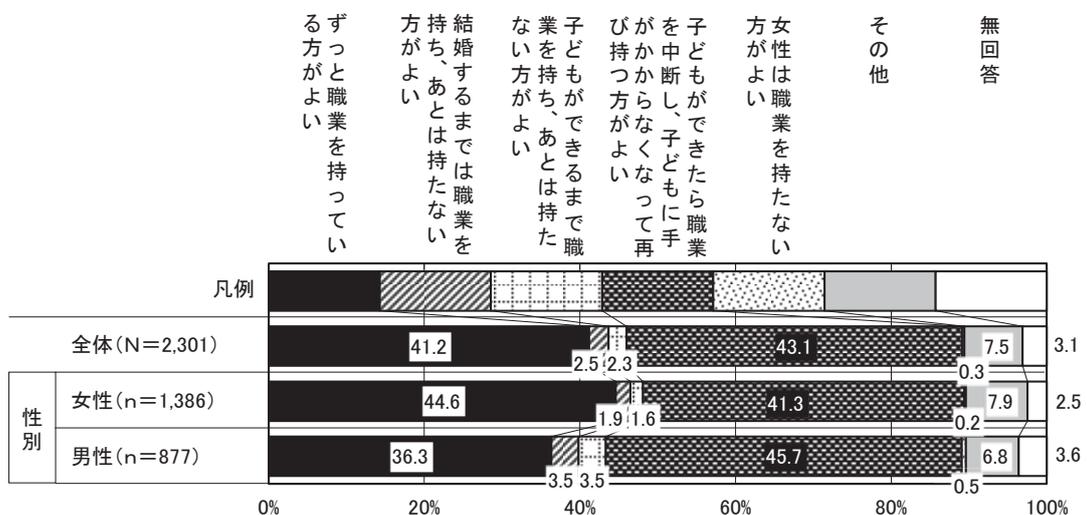
(2) 「女性が職業を持つ」ことに対する考え

問23 一般的に「女性が職業を持つ」ことについて、あなたはどのようにお考えですか。あなたの考えに最も近いものを**1つだけ**選び、番号に○をつけてください。

「女性が職業を持つ」ことに対する考えについて聞いたところ、「子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再び持つ方がよい」と回答した人が43.1%と最も多く、次いで「ずっと職業を持っている方がよい」(41.2%)となっている。

性別にみると、女性では「ずっと職業を持っている方がよい」(44.6%)の割合が男性(36.3%)に比べて8.3ポイント高くなっている。

図表 「女性が職業を持つ」ことに対する考え【性別】



性・年代別にみると、女性 30 代～50 代では「ずっと職業を持っている方がよい」の割合が 5 割前後となっており、他の性・年代と比べて高くなっている。一方、男性 70 歳以上では「ずっと職業を持っている方がよい」の割合が 25.1%となっており、他の性・年代と比べて低くなっている。

また、男性 60 代以上では「子どもができたなら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再び持つ方がよい」の割合が 5 割を超えており、他の性・年代と比べて高くなっている。

図表 「女性が職業を持つ」ことに対する考え【性・年代別】

単位：%

	調査数	がずっと職業を持っている方	よ持結婚、あるいはまたは持たない方が	よ持子ども、あがとできる持たない職業が	方か子どもがよならなくならな	中断し、子どもができたなら職業を	よ女性職業を持たない方が	その他	無回答
全体	2,301	41.2	2.5	2.3	43.1	0.3	7.5	3.1	
女性計	1,386	44.6	1.9	1.6	41.3	0.2	7.9	2.5	
18～29歳	141	39.0	2.1	2.1	46.8	-	9.2	0.7	
30代	216	52.8	1.9	1.9	34.3	-	8.8	0.5	
40代	269	50.6	0.7	1.5	34.9	-	11.5	0.7	
50代	229	48.5	1.7	-	39.7	0.4	8.3	1.3	
60代	244	41.0	1.2	1.2	47.5	-	7.0	2.0	
70歳以上	271	35.1	3.7	3.0	46.9	0.7	3.3	7.4	
男性計	877	36.3	3.5	3.5	45.7	0.5	6.8	3.6	
18～29歳	86	32.6	2.3	4.7	37.2	-	18.6	4.7	
30代	123	43.1	0.8	4.9	38.2	0.8	8.9	3.3	
40代	147	38.1	2.0	1.4	47.6	-	8.2	2.7	
50代	129	44.2	5.4	3.9	38.0	0.8	7.0	0.8	
60代	178	36.5	3.4	3.4	51.1	0.6	2.2	2.8	
70歳以上	187	25.1	5.9	4.3	54.5	0.5	3.2	6.4	

性・配偶関係（問 30 146 頁参照）別にみると、女性の「配偶者（パートナー）がいて、共働きである」「配偶者（パートナー）と離婚した」では「ずっと職業を持っている方がよい」の割合が5割を超えており、他の性・配偶関係に比べて高くなっている。また、男女ともに「配偶者（パートナー）がいて、共働きでない」では「子どもができれば職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再び持つ方がよい」の割合が5割を超えており、他の性・配偶関係に比べて高くなっている。

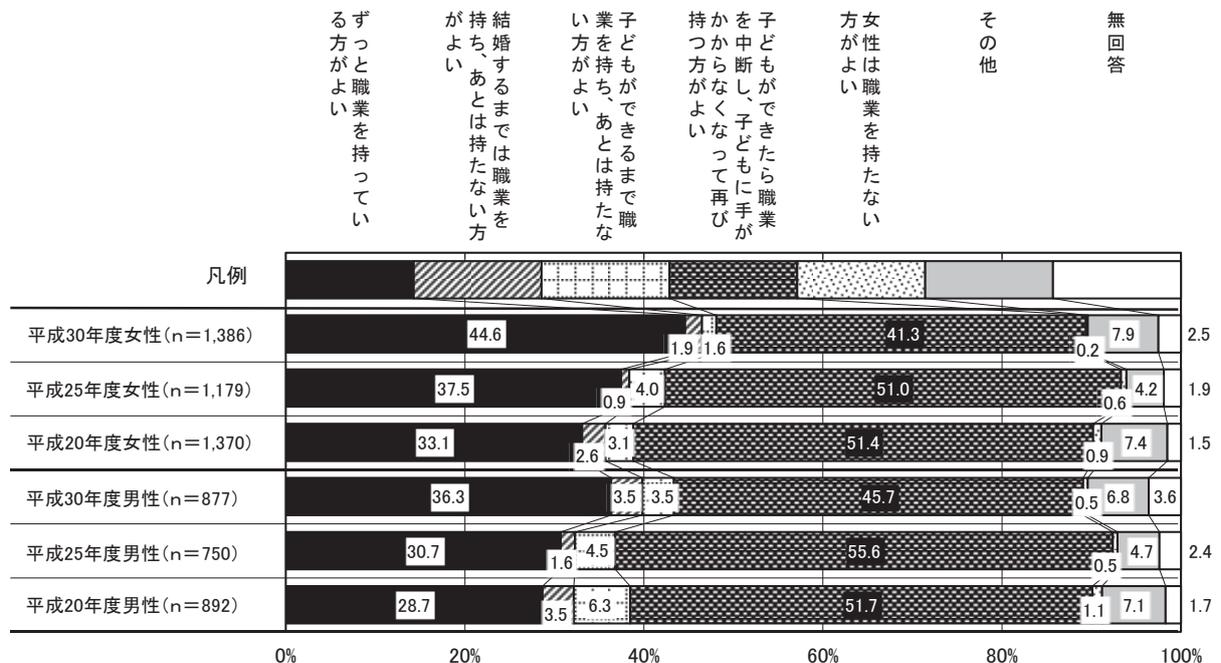
図表 「女性が職業を持つ」ことに対する考え【性・配偶関係別】

単位：%

	調査数	がずっと職業を持っている方がよい	よ持ち結婚、するあとはまたは持たない方がよい	よ持ち子どもあがとでは持たない職業がよい	子が子どもあがとでは持たない職業がよい	方がかよらなくなら再び持つ	中か断らなくなら再び持つ	子どもが子どもあがとでは持たない職業がよい	よ女性職業を持たない方がよい	その他	無回答
全体	2,301	41.2	2.5	2.3	43.1	0.3	7.5	3.1			
女性計	1,386	44.6	1.9	1.6	41.3	0.2	7.9	2.5			
未婚	275	48.0	2.9	1.5	38.5	-	8.0	1.1			
配偶者（パートナー）がいて、共働きである	447	51.7	0.4	0.2	36.5	0.2	10.1	0.9			
配偶者（パートナー）がいて、共働きでない	353	34.3	2.0	2.8	50.4	-	8.8	1.7			
配偶者（パートナー）と離婚した	124	56.5	0.8	1.6	33.1	0.8	4.8	2.4			
配偶者（パートナー）と死別した	149	36.9	4.0	3.4	44.3	0.7	4.0	6.7			
男性計	877	36.3	3.5	3.5	45.7	0.5	6.8	3.6			
未婚	196	36.2	1.0	3.6	41.3	1.0	11.7	5.1			
配偶者（パートナー）がいて、共働きである	271	47.6	2.6	1.8	39.5	-	7.4	1.1			
配偶者（パートナー）がいて、共働きでない	309	28.8	5.5	5.2	53.1	0.6	3.9	2.9			
配偶者（パートナー）と離婚した	45	37.8	2.2	-	48.9	-	4.4	6.7			
配偶者（パートナー）と死別した	21	23.8	14.3	-	47.6	-	4.8	9.5			

過去の調査結果をみると、「ずっと職業を持っている方がよい」の割合は男女ともに増加しており、今回の調査では女性 44.6%、男性 36.3%と最も高くなっている。また、「子どもができれば職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再び持つ方がよい」の割合は、今回の調査では男女とも平成 25 年度に比べて 10 ポイント前後低くなっている。

図表 「女性が職業を持つ」ことに対する考え【過去の調査との比較】



(3) 現在、職業を持っているか

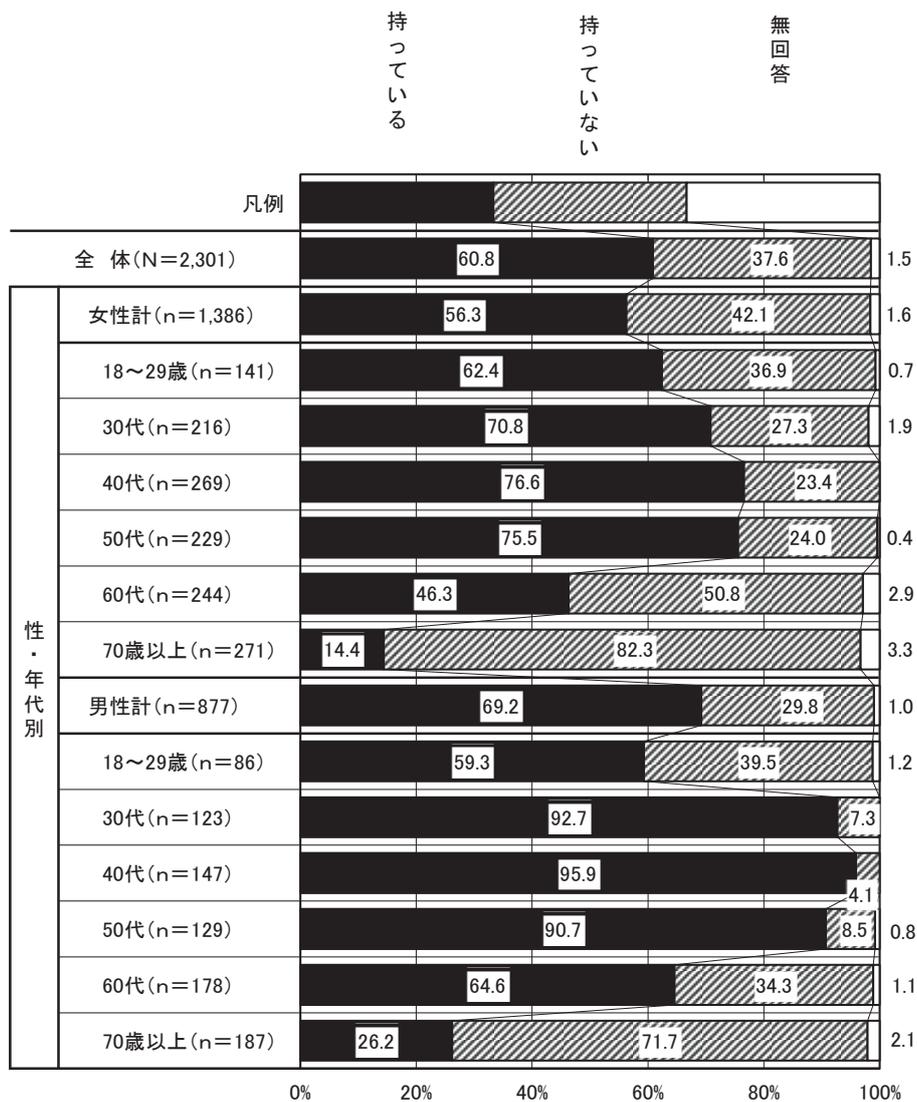
問24 あなたは現在、職業を持っていますか。あてはまるものを**1つだけ**選び、番号に○をつけてください。

現在、職業を持っているかについて聞いたところ、「持っている」と回答した人は60.8%、「持っていない」と回答した人は37.6%となっている。

性別にみると、男性では職業を「持っている」(69.2%)の割合が女性(56.3%)に比べて12.9ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、男性60代以下、女性50代以下では職業を「持っている」の割合が高くなっているが、その割合は18～29歳を除き、男性に比べて女性で低くなっている。

図表 現在、職業を持っているか【性・年代別】



(4) 現在の職場における男女差別

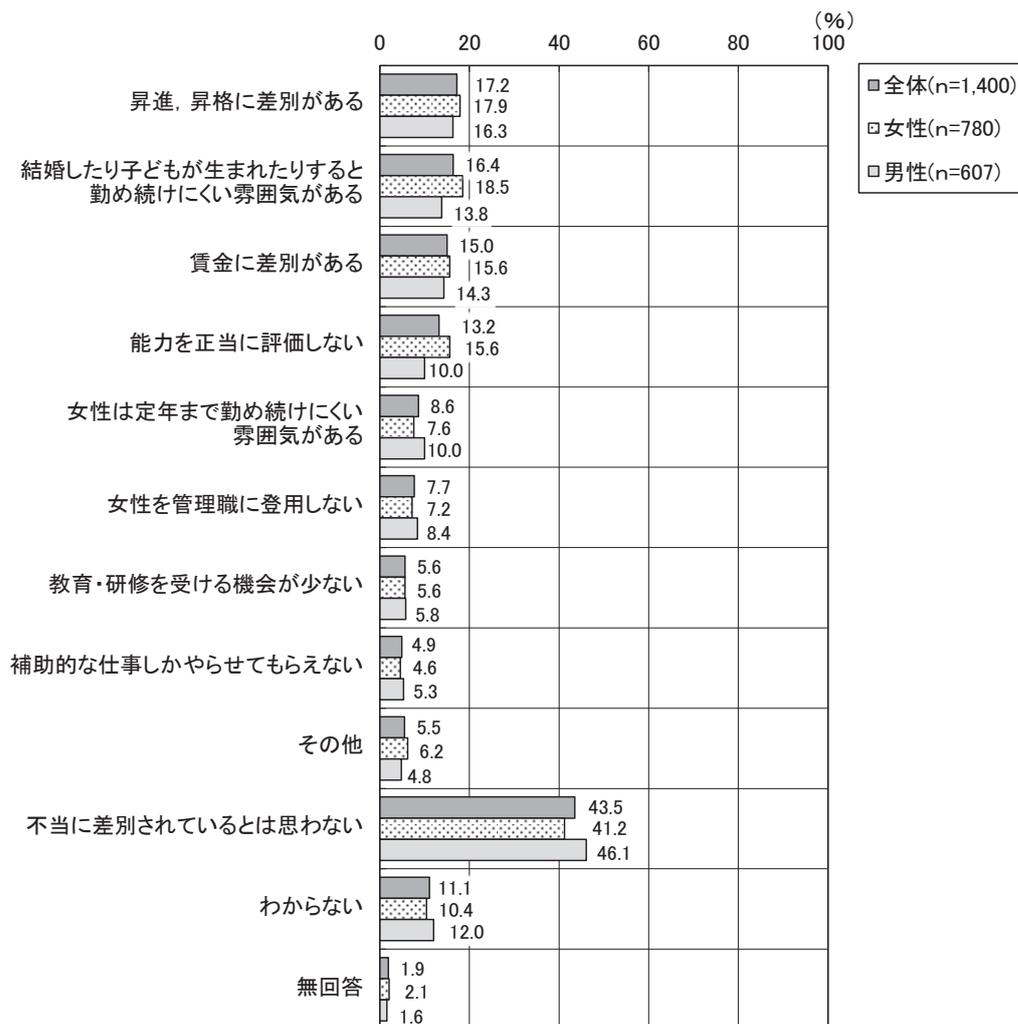
問24-1 《 問24で「1」と回答した方におたずねします。 》

あなたの今の職場では、仕事の内容や待遇面で、女性は男性に比べ不当に差別されていると思うことがありますか。あてはまるものを**すべて**選び、番号に○をつけてください。

現在の職場における男女差別について聞いたところ、「不当に差別されているとは思わない」と回答した人が43.5%と最も多い。不当に差別されていることについては「昇進、昇格に差別がある」(17.2%)、「結婚したり子どもが生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある」(16.4%)、「賃金に差別がある」(15.0%)となっている。

性別にみると、「能力を正当に評価しない」では、男性(10.0%)に比べ女性(15.6%)の割合が高く、一方「不当に差別されているとは思わない」では、女性(41.2%)に比べ男性(46.1%)の割合が高くなっている。

図表 現在の職場における男女差別【性別】※複数回答



性・年代別にみると、「不当に差別されているとは思わない」の割合が男性18～29歳・30代・50代は5割台で、他の性・年代に比べて高くなっている。また、女性18歳～40代では「結婚したり子どもが生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある」の割合が2割台となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 現在の職場における男女差別【性・年代別】※複数回答

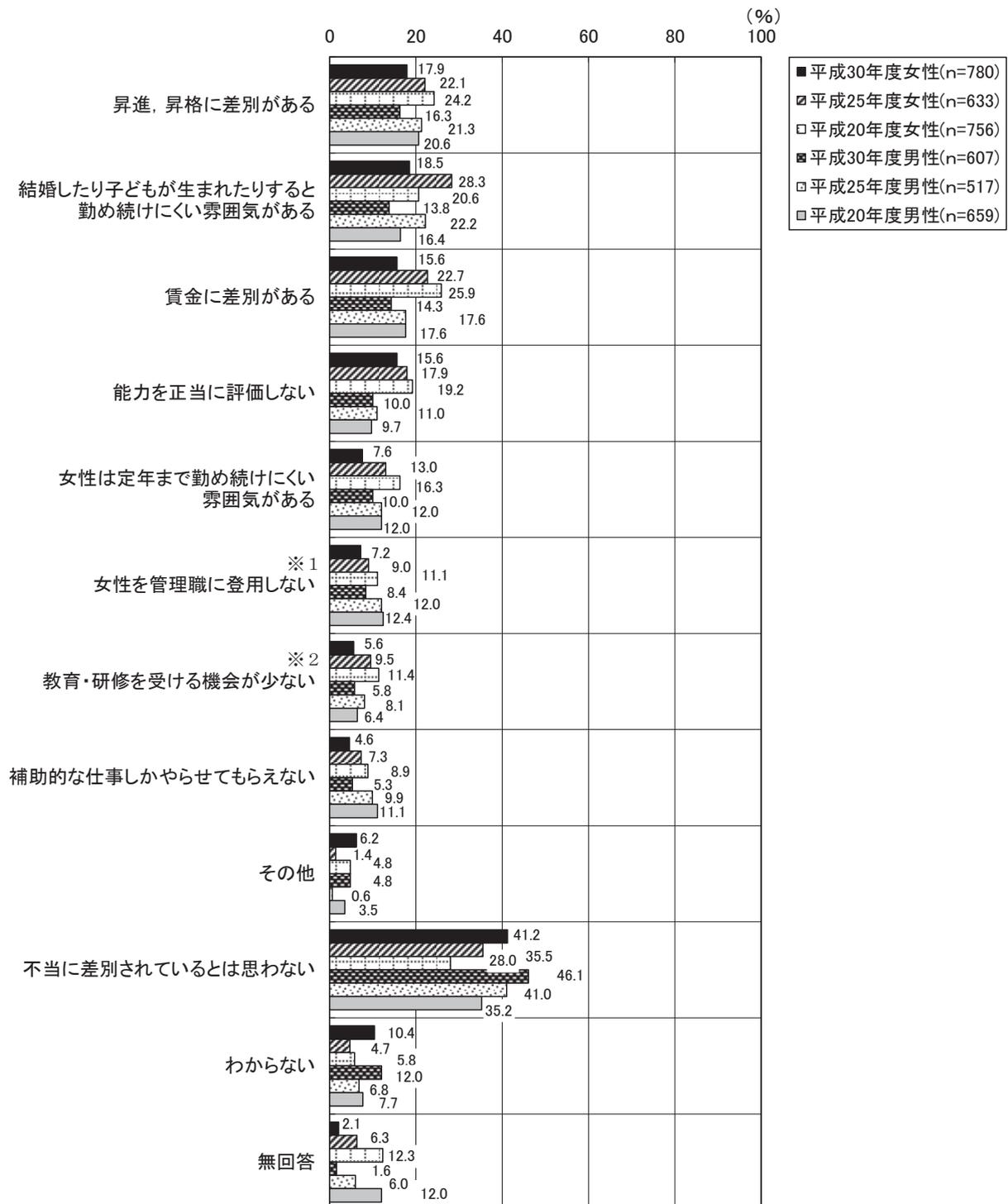
単位：％

	調査数	昇進、昇格に差別がある	結婚したり子どもが生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある	賃金に差別がある	能力を正當に評価しない	に女性に定年まで勤め続けにくい雰囲気がある	女性を管理職に登用しない
全体	1,400	17.2	16.4	15.0	13.2	8.6	7.7
女性計	780	17.9	18.5	15.6	15.6	7.6	7.2
18～29歳	88	17.0	26.1	10.2	10.2	9.1	6.8
30代	153	22.9	28.1	13.7	16.3	9.2	6.5
40代	206	22.3	20.9	19.4	19.9	10.7	8.7
50代	173	14.5	13.3	16.8	15.0	4.0	6.4
60代	113	14.2	8.0	15.0	15.9	4.4	8.0
70歳以上	39	2.6	-	12.8	2.6	5.1	-
男性計	607	16.3	13.8	14.3	10.0	10.0	8.4
18～29歳	51	7.8	15.7	5.9	3.9	7.8	7.8
30代	114	11.4	14.9	11.4	4.4	9.6	4.4
40代	141	17.0	14.2	9.2	12.1	10.6	10.6
50代	117	16.2	10.3	12.0	4.3	9.4	7.7
60代	115	23.5	17.4	20.0	13.9	8.7	7.8
70歳以上	49	14.3	8.2	34.7	28.6	14.3	12.2

少教育・研修を受ける機会が	補助的な仕事しかやらせてもらえない	その他	思わぬに差別されているとは	わからない	無回答	
5.6	4.9	5.5	43.5	11.1	1.9	全体
5.6	4.6	6.2	41.2	10.4	2.1	女性計
6.8	3.4	4.5	46.6	9.1	-	18～29歳
6.5	5.2	3.9	40.5	5.2	2.6	30代
6.8	5.3	6.8	39.8	6.8	1.9	40代
5.2	5.2	6.4	41.0	13.3	2.3	50代
4.4	3.5	5.3	40.7	18.6	-	60代
-	-	17.9	38.5	17.9	10.3	70歳以上
5.8	5.3	4.8	46.1	12.0	1.6	男性計
2.0	2.0	-	51.0	13.7	2.0	18～29歳
4.4	5.3	5.3	50.9	11.4	0.9	30代
7.8	6.4	6.4	44.7	11.3	-	40代
3.4	4.3	4.3	54.7	7.7	1.7	50代
7.8	4.3	7.0	33.9	18.3	3.5	60代
10.2	8.2	2.0	44.9	8.2	4.1	70歳以上

過去の調査結果と比較すると、男女ともに「不当に差別されているとは思わない」の割合が増加している。

図表 現在の職場における男女差別 【過去の調査との比較】 ※複数回答



※1 平成20年度の選択肢は「女性を幹部職員に登用しない」

※2 平成20年度,平成25年度の選択肢は「教育・訓練を受ける機会が少ない」

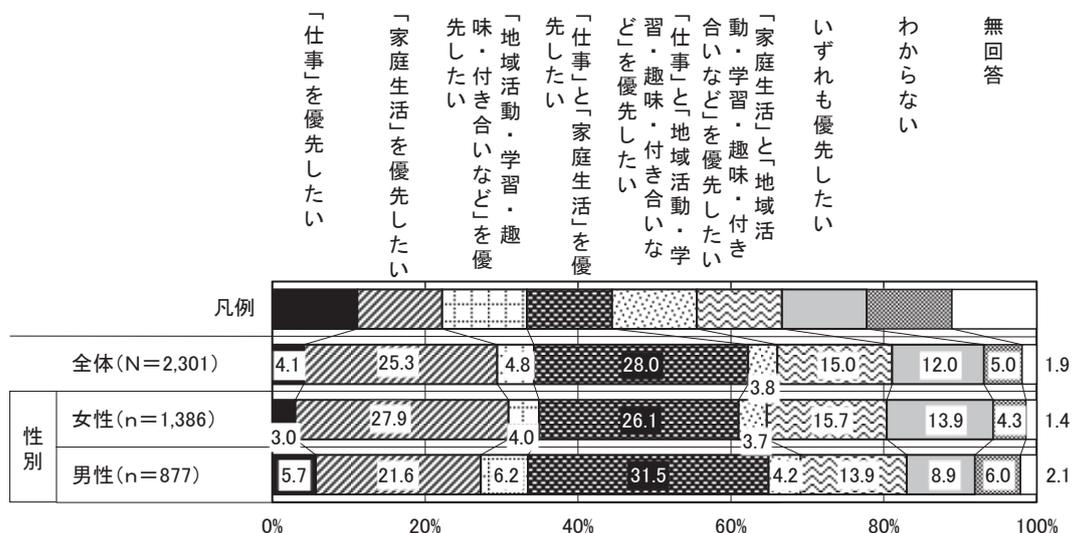
(5) 生活の中で優先したいもの

問25 生活の中での、「仕事」「家庭生活」「地域活動・学習・趣味・付き合いなど」のうち優先したいものについて、あなたの希望に最も近いものは何ですか。あてはまるものを**1つだけ**選び、番号に○をつけてください。

生活の中で優先したいものについて聞いたところ、「仕事と家庭生活を優先したい」と回答した人が 28.0%と最も多く、次いで「家庭生活を優先したい」(25.3%)、「家庭生活と地域活動・学習・趣味・付き合いなどを優先したい」(15.0%)となっている。

性別にみると、女性では「家庭生活を優先したい」(27.9%)の割合が男性(21.6%)に比べて6.3ポイント高くなっている。

図表 生活の中で優先したいもの【性別】



性・年代別にみると、男性 40 代・50 代では「仕事と家庭生活を優先したい」の割合が 4 割を超えており、他の性・年代に比べて高くなっている。また、男女ともに 18～29 歳では「地域活動・学習・趣味・付き合いなどを優先したい」の割合が 1 割を超えており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 生活の中で優先したいもの【性・年代別】

単位：%

	調査数	「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域活動・学習・趣味・付き合いなど」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」を優先したい	学習・趣味・付き合いなどを優先したい	「仕事」と「地域活動・学習・趣味・付き合いなど」を優先したい	「家庭生活」と「地域活動・学習・趣味・付き合いなど」を優先したい	いずれも優先したい	わからない	無回答
全体	2,301	4.1	25.3	4.8	28.0	3.8	15.0	12.0	5.0	1.9	
女性計	1,386	3.0	27.9	4.0	26.1	3.7	15.7	13.9	4.3	1.4	
18～29歳	141	1.4	18.4	12.1	26.2	7.8	12.1	17.7	3.5	0.7	
30代	216	0.9	26.9	2.3	32.9	2.8	15.7	14.4	2.3	1.9	
40代	269	2.2	32.7	3.3	32.7	3.3	9.3	15.2	0.7	0.4	
50代	229	3.1	27.9	1.7	30.1	4.4	10.5	20.1	1.3	0.9	
60代	244	4.5	25.0	1.6	24.6	2.9	22.5	10.7	5.7	2.5	
70歳以上	271	4.8	32.8	5.9	11.8	3.0	21.8	7.7	10.0	2.2	
男性計	877	5.7	21.6	6.2	31.5	4.2	13.9	8.9	6.0	2.1	
18～29歳	86	2.3	20.9	16.3	18.6	8.1	12.8	11.6	7.0	2.3	
30代	123	3.3	22.0	6.5	37.4	2.4	16.3	10.6	0.8	0.8	
40代	147	3.4	19.7	2.0	45.6	5.4	9.5	8.2	4.8	1.4	
50代	129	8.5	17.8	5.4	41.1	1.6	9.3	11.6	4.7	-	
60代	178	7.9	24.7	5.6	28.7	4.5	11.2	8.4	6.7	2.2	
70歳以上	187	7.0	24.1	6.4	17.6	4.3	21.9	4.3	9.6	4.8	

性・配偶関係別（問 30 146 頁参照）にみると、女性の「配偶者（パートナー）がいて、共働きでない」「配偶者（パートナー）と死別した」では「家庭生活を優先したい」の割合が最も高くなっている。また、女性の「未婚」「配偶者（パートナー）がいて、共働きである」「配偶者（パートナー）と離婚した」、男性の「配偶者（パートナー）と死別した」以外では「仕事と家庭生活を優先したい」の割合が最も高くなっている。

図表 生活の中で優先したいもの【性・配偶関係別】

単位：％

	調査数	「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域活動・学習・趣味・遊び」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」を優先したい	「仕事」と「地域活動・学習・趣味・遊び」を優先したい
全体	2,301	4.1	25.3	4.8	28.0	3.8
女性計	1,386	3.0	27.9	4.0	26.1	3.7
未婚	275	5.5	14.5	13.8	19.6	10.2
配偶者（パートナー）がいて、共働きである	447	2.2	27.7	0.7	40.9	2.0
配偶者（パートナー）がいて、共働きでない	353	0.6	40.2	0.8	15.6	0.8
配偶者（パートナー）と離婚した	124	5.6	17.7	2.4	32.3	4.0
配偶者（パートナー）と死別した	149	3.4	34.9	5.4	17.4	2.7
男性計	877	5.7	21.6	6.2	31.5	4.2
未婚	196	4.1	18.4	14.8	23.5	8.2
配偶者（パートナー）がいて、共働きである	271	4.4	22.5	2.2	42.4	3.0
配偶者（パートナー）がいて、共働きでない	309	5.8	25.2	4.2	29.8	2.9
配偶者（パートナー）と離婚した	45	13.3	13.3	2.2	35.6	4.4
配偶者（パートナー）と死別した	21	9.5	14.3	19.0	14.3	-

「地域活動・学習・趣味・遊び」を優先したい	「仕事」と「地域活動・学習・趣味・遊び」を優先したい	わからない	無回答	
15.0	12.0	5.0	1.9	全体
15.7	13.9	4.3	1.4	女性計
12.4	18.2	4.7	1.1	未婚
8.7	15.7	0.7	1.3	配偶者（パートナー）がいて、共働きである
28.3	8.5	4.5	0.6	配偶者（パートナー）がいて、共働きでない
11.3	19.4	4.8	2.4	配偶者（パートナー）と離婚した
13.4	7.4	13.4	2.0	配偶者（パートナー）と死別した
13.9	8.9	6.0	2.1	男性計
10.2	9.7	9.7	1.5	未婚
12.2	8.5	3.3	1.5	配偶者（パートナー）がいて、共働きである
16.5	9.7	4.2	1.6	配偶者（パートナー）がいて、共働きでない
11.1	8.9	11.1	-	配偶者（パートナー）と離婚した
28.6	4.8	9.5	-	配偶者（パートナー）と死別した

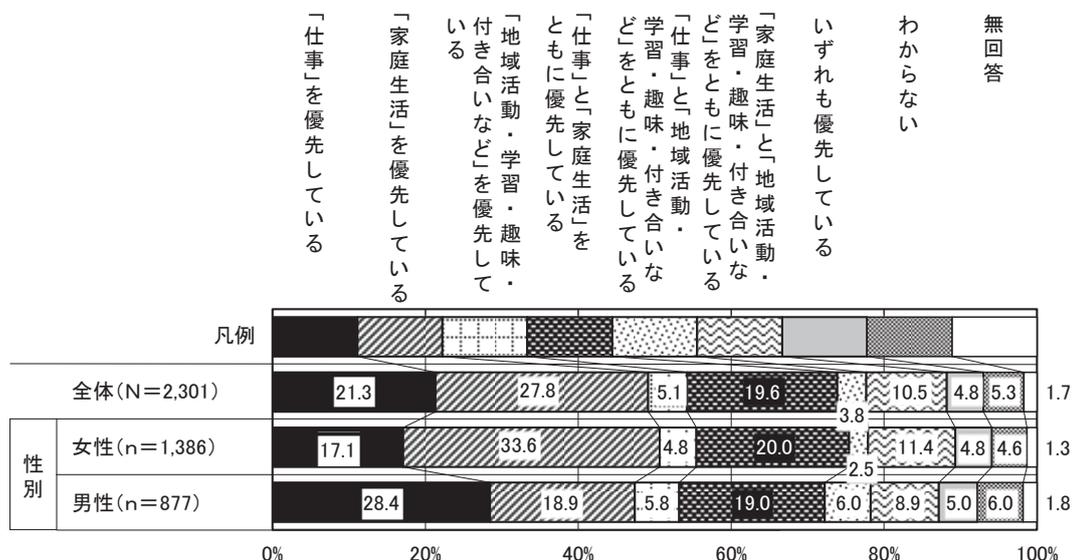
(6) 現実の生活の中で優先しているもの

問26 生活の中での、「仕事」「家庭生活」「地域活動・学習・趣味・付き合いなど」のうち優先しているものについて、あなたの現実(現状)に最も近いものは何ですか。あてはまるものを**1つだけ**選び、番号に○をつけてください。

生活の中で優先しているものについて聞いたところ、「家庭生活を優先している」と回答した人が27.8%と最も多く、次いで「仕事を優先している」(21.3%)、「仕事と家庭生活をともに優先している」(19.6%)となっている。

性別にみると、女性では「家庭生活を優先している」(33.6%)の割合が男性(18.9%)に比べて14.7ポイント高くなっており、男性では「仕事を優先している」(28.4%)の割合が女性(17.1%)に比べ11.3ポイント高くなっている。

図表 現実の生活の中で優先しているもの【性別】



性・年代別にみると、男性 30 代～50 代では「仕事を優先している」の割合が 4 割台となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。また、男性 60 代以上、女性 30 代以上では「家庭生活を優先している」の割合が、他の性・年代に比べて高くなっている。男女ともに 18～29 歳では「地域活動・学習・趣味・付き合いなどを優先している」の割合が、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 現実の生活の中で優先しているもの【性・年代別】

単位：%

	調査数	「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域活動・学習・趣味・付き合いなど」を優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「地域活動・学習・趣味・付き合いなど」をともに優先している	「家庭生活」と「地域活動・学習・趣味・付き合いなど」をともに優先している	いずれも優先している	わからない	無回答
全体	2,301	21.3	27.8	5.1	19.6	3.8	10.5	4.8	5.3	1.7
女性計	1,386	17.1	33.6	4.8	20.0	2.5	11.4	4.8	4.6	1.3
18～29歳	141	20.6	17.0	18.4	19.9	6.4	5.0	5.0	7.8	-
30代	216	21.8	36.1	3.2	22.2	2.8	6.5	4.6	1.9	0.9
40代	269	21.9	32.0	1.5	28.6	3.0	7.1	3.3	2.6	-
50代	229	21.4	31.4	1.7	27.1	0.9	6.6	8.7	1.7	0.4
60代	244	12.7	39.3	1.2	16.4	1.2	20.5	2.0	4.5	2.0
70歳以上	271	7.4	39.5	7.7	6.6	1.8	19.2	5.5	8.5	3.7
男性計	877	28.4	18.9	5.8	19.0	6.0	8.9	5.0	6.0	1.8
18～29歳	86	22.1	10.5	26.7	8.1	9.3	4.7	9.3	8.1	1.2
30代	123	40.7	11.4	4.9	22.0	6.5	5.7	7.3	1.6	-
40代	147	44.2	13.6	1.4	24.5	6.8	2.0	6.1	1.4	-
50代	129	40.3	12.4	3.1	23.3	7.0	3.9	3.9	4.7	1.6
60代	178	18.5	22.5	5.1	21.9	5.6	11.8	5.1	8.4	1.1
70歳以上	187	9.1	34.2	3.2	13.4	4.3	19.3	1.1	9.6	5.9

性・配偶関係（問 30 146 頁）別にみると、女性の「配偶者（パートナー）がいて、共働きである」では「仕事と家庭生活をともに優先している」の割合が 41.2%となっており、他の性・配偶関係に比べて高くなっている。

図表 現実の生活の中で優先しているもの【性・配偶関係別】

単位：％

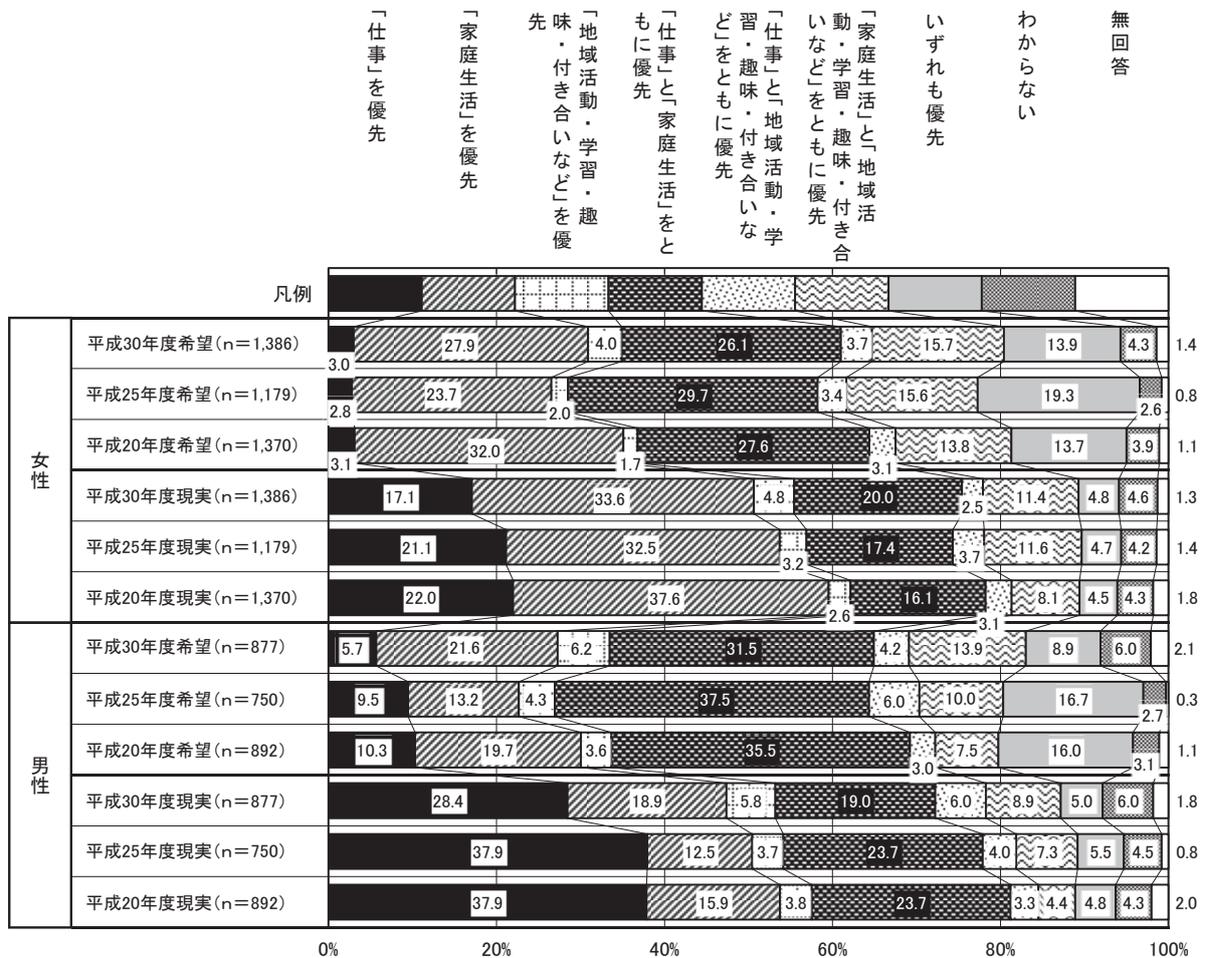
	調査数	「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域活動・学習・趣味」を優先している	「仕事」と「家庭生活」を優先している	「仕事」と「地域活動・学習・趣味」を優先している
全体	2,301	21.3	27.8	5.1	19.6	3.8
女性計	1,386	17.1	33.6	4.8	20.0	2.5
未婚	275	32.4	12.4	13.8	12.0	8.7
配偶者（パートナー）がいて、共働きである	447	17.4	27.5	0.9	41.2	0.9
配偶者（パートナー）がいて、共働きでない	353	3.4	62.0	1.4	5.1	0.8
配偶者（パートナー）と離婚した	124	36.3	16.1	4.0	18.5	1.6
配偶者（パートナー）と死別した	149	7.4	39.6	8.7	10.1	0.7
男性計	877	28.4	18.9	5.8	19.0	6.0
未婚	196	29.6	11.7	16.8	8.2	11.2
配偶者（パートナー）がいて、共働きである	271	38.4	14.4	1.1	28.8	4.1
配偶者（パートナー）がいて、共働きでない	309	22.7	27.2	3.2	20.7	4.2
配偶者（パートナー）と離婚した	45	26.7	11.1	6.7	13.3	6.7
配偶者（パートナー）と死別した	21	9.5	42.9	4.8	-	4.8

「地域活動・学習・趣味」と「仕事」を優先している	「家庭生活」と「地域活動・学習・趣味」を優先している	わからない	無回答	
10.5	4.8	5.3	1.7	全体
11.4	4.8	4.6	1.3	女性計
7.3	4.7	8.0	0.7	未婚
4.0	6.7	0.7	0.7	配偶者（パートナー）がいて、共働きである
22.1	1.4	2.8	0.8	配偶者（パートナー）がいて、共働きでない
8.1	8.1	4.8	2.4	配偶者（パートナー）と離婚した
13.4	5.4	12.8	2.0	配偶者（パートナー）と死別した
8.9	5.0	6.0	1.8	男性計
5.1	5.6	10.2	1.5	未婚
4.1	7.0	1.5	0.7	配偶者（パートナー）がいて、共働きである
13.6	3.2	4.2	1.0	配偶者（パートナー）がいて、共働きでない
8.9	8.9	17.8	-	配偶者（パートナー）と離婚した
23.8	-	14.3	-	配偶者（パートナー）と死別した

生活の中での優先度について、希望（問 25）と現実（問 26）を比較すると、男女ともに希望に比べ現実では「仕事」を優先している割合が高くなっており、特に男性では最も高い割合を占めている。

過去の調査結果をみると、現実には「仕事」を優先している割合は、男女ともに減少している。

図表 生活の中での優先度【過去の調査との比較】

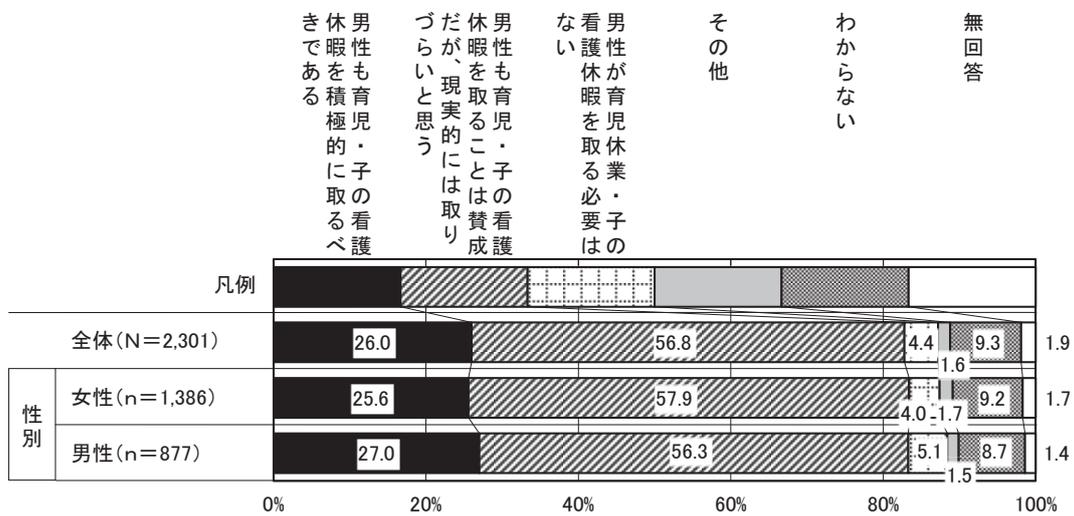


(7) 男性が育児休業や子の看護休暇を取得することについて

問27 育児を行うために、法律に基づき育児休業・子の看護休暇を取得できる制度があります。あなたは、男性が、この制度を活用することについてどう思いますか。あてはまるものを**1つだけ**選び、番号に○をつけてください。

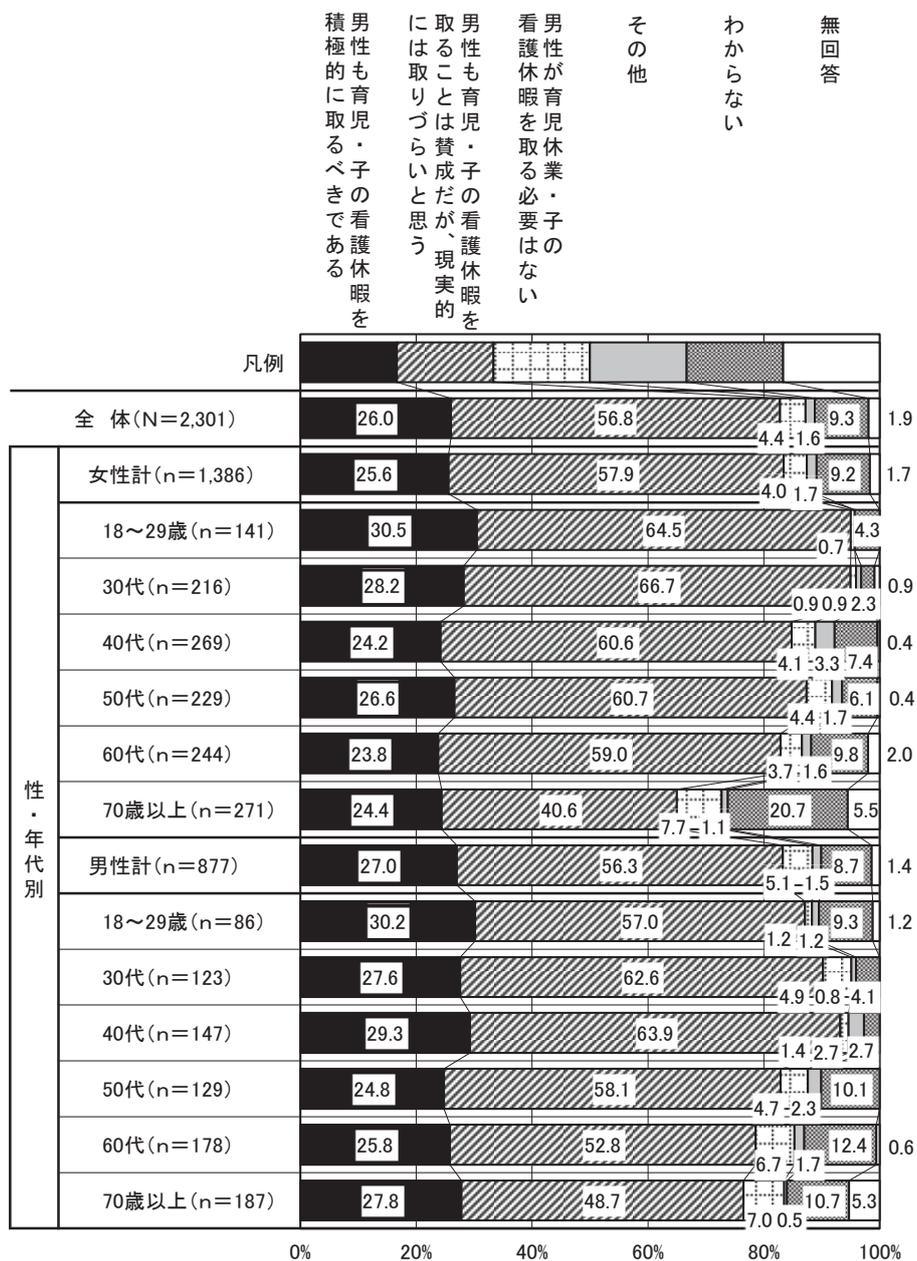
男性が育児休業や子の看護休暇を取得することについて聞いたところ、男女ともに「男性も育児・子の看護休暇を取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う」(女性 57.9%, 男性 56.3%)と回答した人が最も多くなっている。また、「男性も育児・子の看護休暇を積極的に取るべきである」も全体で 26.0%を占めている。

図表 男性が育児休業や子の看護休暇を取得することについて【性別】



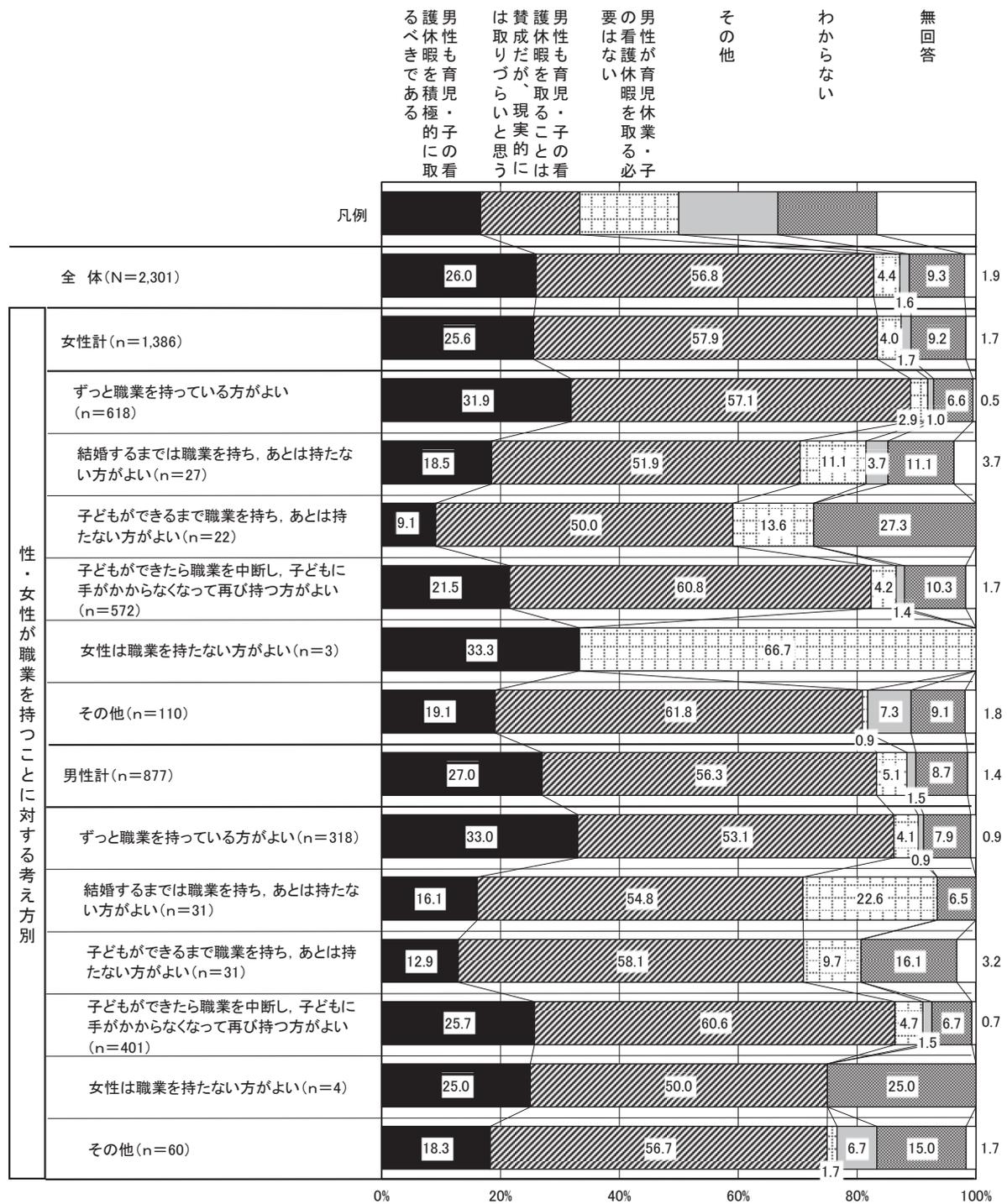
性・年代別にみると、女性 18～29 歳・30 代、男性 40 代では「男性も育児・子の看護休暇を取
ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う」の割合が 6 割台半ばとなっており、他の性・
年代に比べて高くなっている。

図表 男性が育児休業や子の看護休暇を取得することについて【性・年代別】



性・女性が職業を持つことに対する考え方（問 23 119 頁参照）別にみると、ほとんどの場合で「男性も育児・子の看護休暇を取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う」の割合が高いが、男女ともに「ずっと職業を持っている方がよい」では、「男性も育児・子の看護休暇を積極的に取るべきである」が、他に比べ高くなっている。

図表 男性が育児休業や子の看護休暇を取得することについて
【性・女性が職業を持つことに対する考え方別】



(8) 男性が育児休業や子の看護休暇を現実的には取りづらいと思う理由

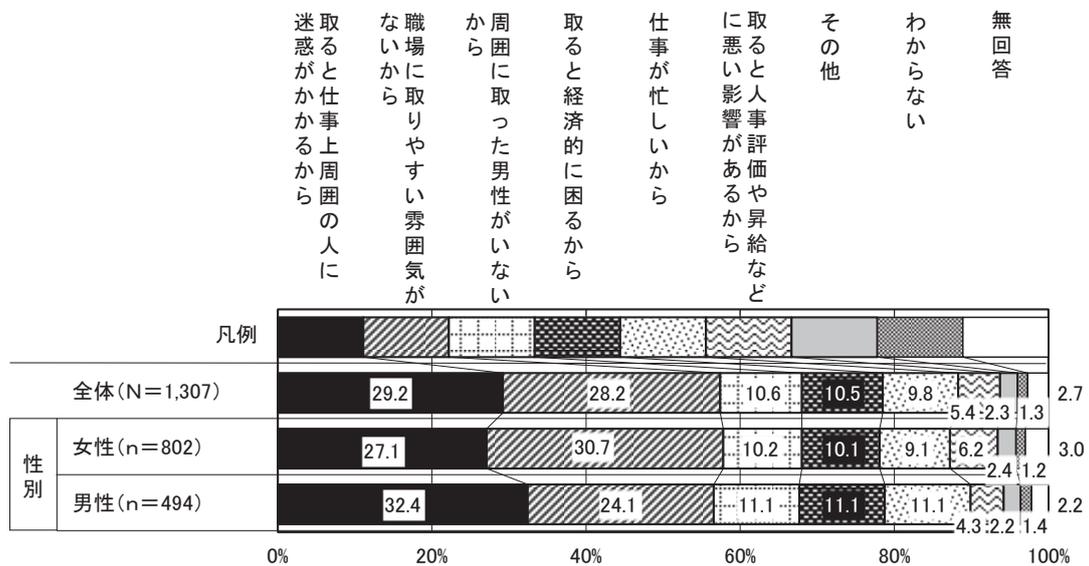
問27-1 《 問27で「2」と回答した方におたずねします。 》

その理由は何だと思えますか。あなたの考えに最も近いものを**1つだけ**選び、番号に○をつけてください。

男性が育児休業や子の看護休暇を現実的には取りづらいと思う理由について聞いたところ、「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」と回答した人が29.2%と最も多く、次いで「職場に取りやすい雰囲気がないから」(28.2%)となっている。

性別にみると、女性では「職場に取りやすい雰囲気がないから」(30.7%)の割合が男性(24.1%)に比べて6.6ポイント高くなっている。

図表 男性が育児休業や子の看護休暇を現実的には取りづらいと思う理由【性別】



性・年代別にみると、男性 18～29 歳では「職場に取りやすい雰囲気がないから」の割合が 42.9% となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。また、男性 50 代では「仕事が忙しいから」の割合が 20.0% となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 男性が育児休業や子の看護休暇を現実的には取りづらいと思う理由【性・年代別】

単位：%

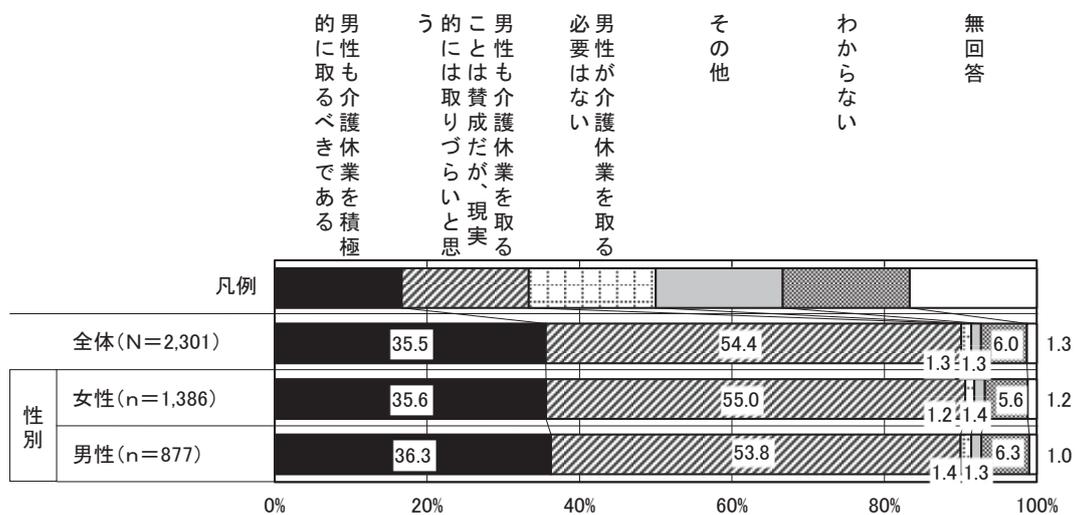
	調査数	迷惑がかかるから	取ると仕事上周囲の人に	ないから	職場に取りやすい雰囲気が	から	周囲に取った男性がいない	取ると経済的に困るから	仕事が忙しいから	取ると人事評価や昇給などに悪い影響があるから	その他	わからない	無回答
全体	1,307	29.2	28.2	10.6	10.5	9.8	5.4	2.3	1.3	2.7			
女性計	802	27.1	30.7	10.2	10.1	9.1	6.2	2.4	1.2	3.0			
18～29歳	91	15.4	38.5	15.4	13.2	8.8	4.4	1.1	1.1	2.2			
30代	144	25.0	27.8	13.9	9.0	10.4	9.0	3.5	-	1.4			
40代	163	26.4	28.2	8.6	11.0	12.9	4.3	2.5	-	6.1			
50代	139	33.1	25.9	12.9	8.6	4.3	10.1	2.2	0.7	2.2			
60代	144	29.2	35.4	6.9	10.4	9.7	3.5	2.1	1.4	1.4			
70歳以上	110	30.0	30.9	3.6	10.0	8.2	5.5	1.8	5.5	4.5			
男性計	494	32.4	24.1	11.1	11.1	11.1	4.3	2.2	1.4	2.2			
18～29歳	49	20.4	42.9	8.2	20.4	2.0	4.1	-	2.0	-			
30代	77	31.2	19.5	15.6	11.7	11.7	3.9	-	2.6	3.9			
40代	94	36.2	13.8	9.6	16.0	12.8	3.2	6.4	-	2.1			
50代	75	26.7	21.3	17.3	10.7	20.0	2.7	-	-	1.3			
60代	94	35.1	25.5	8.5	5.3	9.6	9.6	1.1	3.2	2.1			
70歳以上	91	37.4	30.8	8.8	6.6	8.8	-	3.3	1.1	3.3			

(9) 男性が介護休業を取得することについて

問28 家族の介護を行うために、法律に基づき介護休業を取得できる制度があります。あなたは、男性が、この制度を活用することについてどう思いますか。あてはまるものを**1つだけ**選び、番号に○をつけてください。

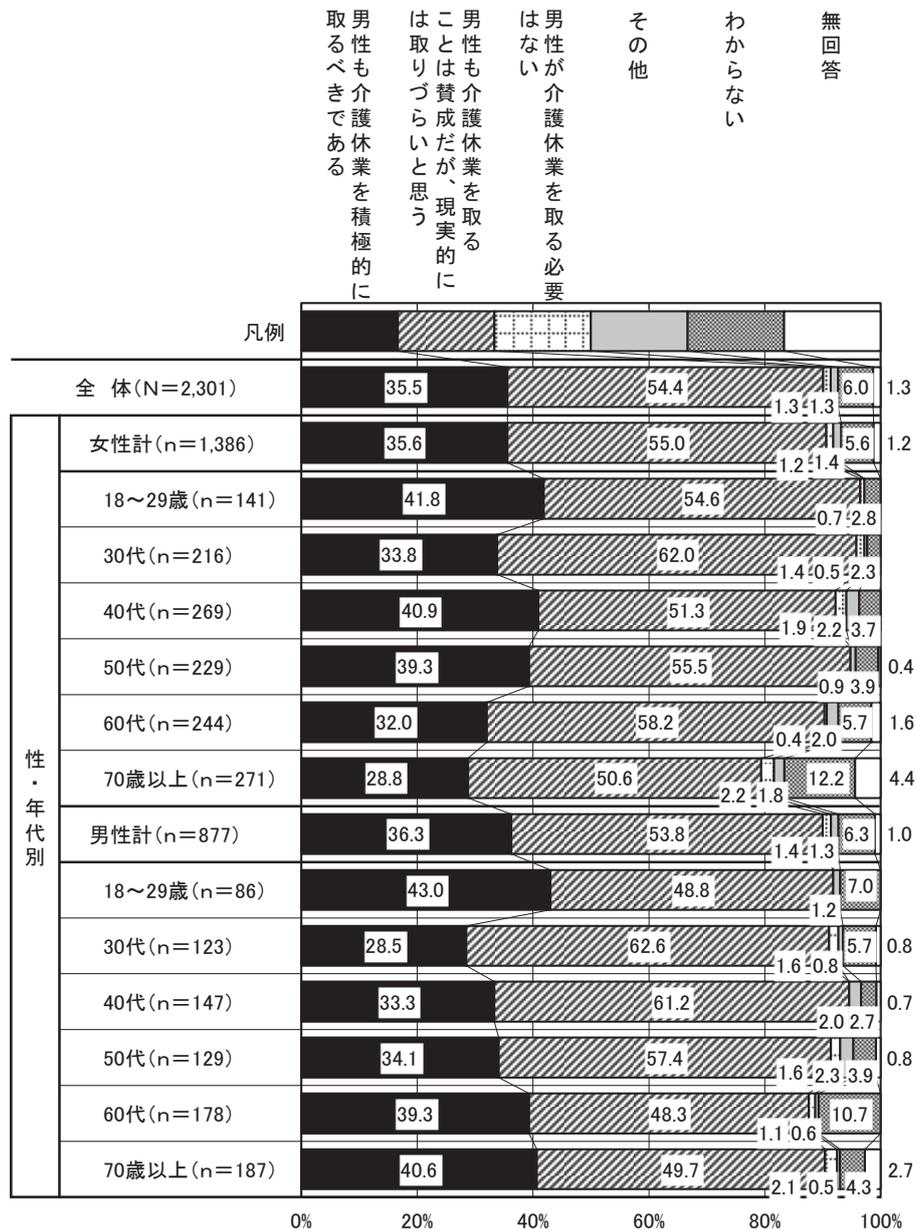
男性が介護休業を取得することについて聞いたところ、男女ともに「男性も介護休業をとることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う」（女性 55.0%、男性 53.8%）と回答した人が最も多くなっている。「男性も介護休業を積極的に取るべきである」も全体で35.5%を占めている。

図表 男性が介護休業を取得することについて【性別】



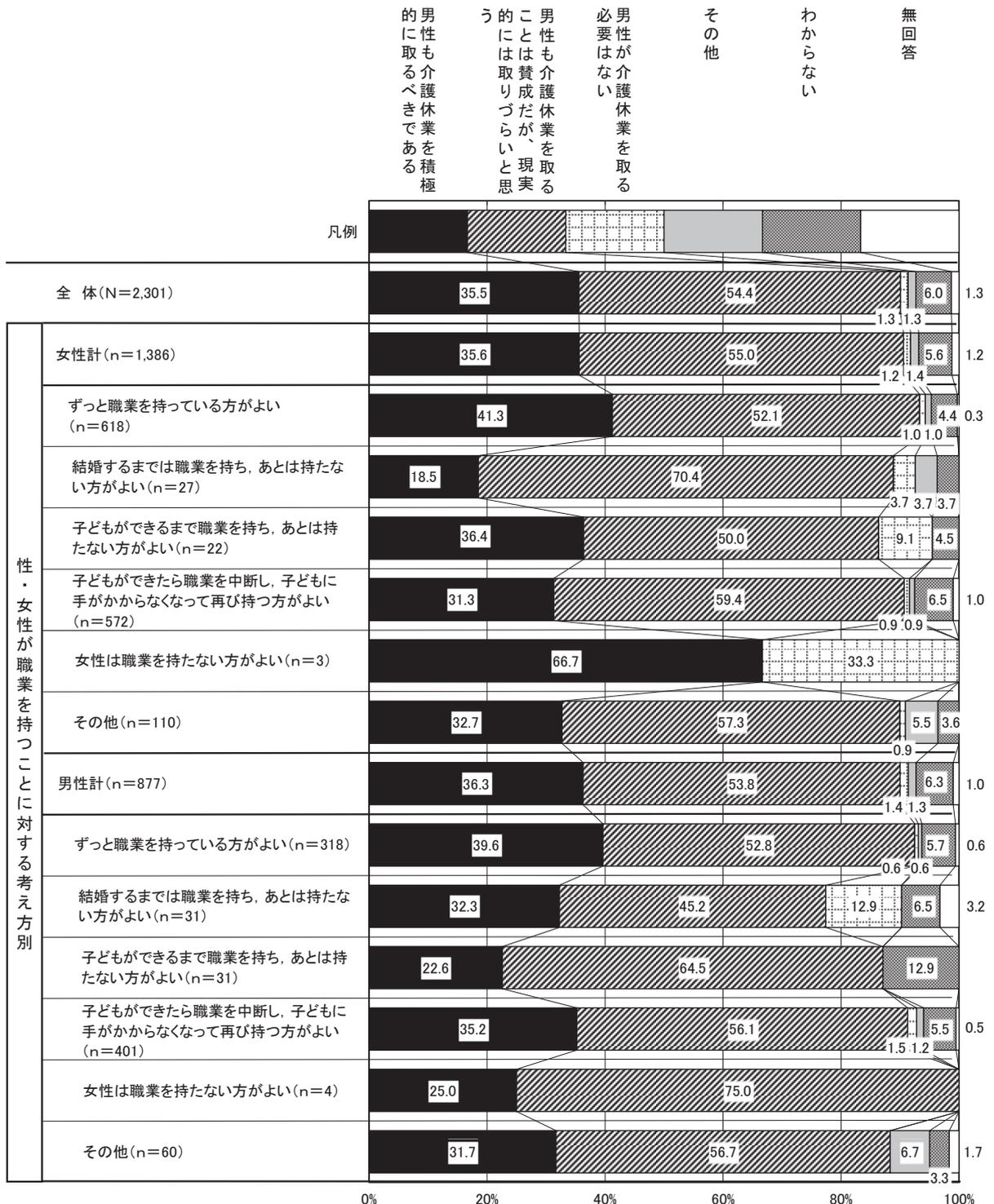
性・年代別にみると、男性30代・40代、女性30代では「男性も介護休業を取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う」の割合が6割台となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 男性が介護休業を取得することについて【性・年代別】



性・女性が職業を持つことに対する考え方（問 23 119 頁参照）別にみると、女性の「ずっと職業を持っている方がよい」では「男性も介護休業を積極的に取るべきである」が 41.3% となっており、他に比べ高くなっている。

図表 男性が介護休業を取得することについて
【性・女性が職業を持つことに対する考え方別】



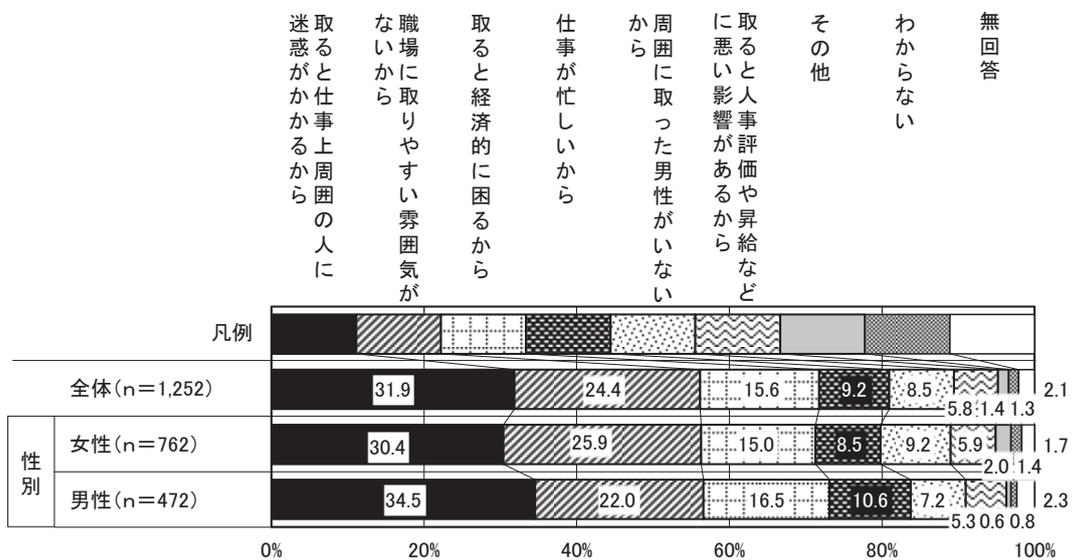
(10) 男性が介護休業を現実的には取りづらいと思う理由

問28-1 《 問28で「2」と回答した方におたずねします。 》

その理由は何だと思えますか。あなたの考えに最も近いものを**1つだけ**選び、番号に○をつけてください。

男性が介護休業を取りづらいと思う理由について聞いたところ、男女ともに「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」(女性 30.4%, 男性 34.5%)と回答した人が最も多く、次いで「職場に取りやすい雰囲気がないから」(女性 25.9%, 男性 22.0%),「取ると経済的に困るから」(女性 15.0%, 男性 16.5%)となっている。

図表 男性が介護休業を現実的には取りづらいと思う理由【性別】



性・年代別にみると、男性70歳以上では「取ると仕事上周圍の人に迷惑がかかるから」の割合が46.2%となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。また、男性18～29歳では「職場に取りやすい雰囲気がないから」の割合が40.5%となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 男性が介護休業を現実的には取りづらいと思う理由【性・年代別】

単位：%

	調査数	取ると仕事上周圍の人に迷惑がかかるから	職場に取りやすい雰囲気がないから	取ると経済的に困るから	仕事忙しいから	周囲に取った男性がいないから	取ると人事評価や昇給などに悪い影響があるから	その他	わからない	無回答
全体	1,252	31.9	24.4	15.6	9.2	8.5	5.8	1.4	1.3	2.1
女性計	762	30.4	25.9	15.0	8.5	9.2	5.9	2.0	1.4	1.7
18～29歳	77	14.3	33.8	16.9	6.5	18.2	5.2	2.6	-	2.6
30代	134	24.6	24.6	13.4	11.9	15.7	6.7	2.2	-	0.7
40代	138	31.9	26.1	13.8	15.2	2.2	4.3	1.4	0.7	4.3
50代	127	32.3	22.8	18.1	4.7	7.9	9.4	2.4	0.8	1.6
60代	142	35.2	28.2	14.1	7.0	7.0	4.2	2.8	1.4	-
70歳以上	137	37.2	22.6	13.9	5.1	8.0	5.8	0.7	5.1	1.5
男性計	472	34.5	22.0	16.5	10.6	7.2	5.3	0.6	0.8	2.3
18～29歳	42	21.4	40.5	19.0	4.8	7.1	4.8	-	2.4	-
30代	77	31.2	15.6	23.4	11.7	10.4	3.9	-	-	3.9
40代	90	32.2	13.3	21.1	14.4	10.0	5.6	2.2	-	1.1
50代	74	31.1	17.6	14.9	20.3	6.8	5.4	-	-	4.1
60代	86	36.0	23.3	14.0	7.0	5.8	8.1	-	2.3	3.5
70歳以上	93	46.2	30.1	9.7	5.4	4.3	2.2	-	1.1	1.1

(11) 男性が女性とともに家事や子育てなどを担っていくために必要なこと

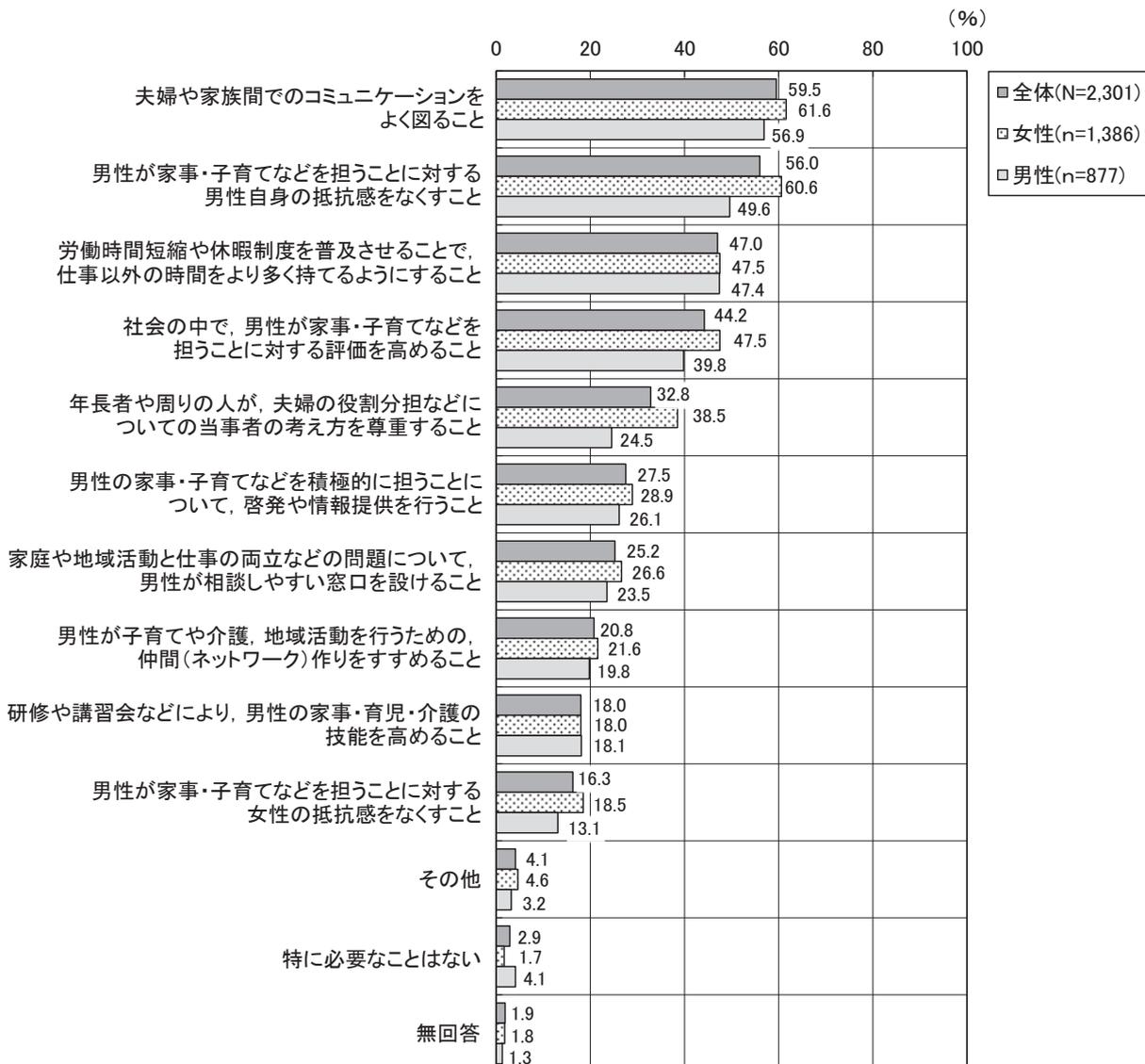
問29 今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動などを担っていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものを**すべて**選び、番号に○をつけてください。

男性が女性とともに家事や子育てなどを担っていくために必要なことについて聞いたところ、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」と回答した人が59.5%と最も多く、次いで「男性が家事・子育てなどを担うことに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(56.0%)、「労働時間短縮や休暇制度を普及させることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」(47.0%)となっている。

性別にみると、女性では「年長者や周りの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」(38.5%)の割合が男性(24.5%)に比べて14.0ポイント高くなっている。

図表 男性が女性とともに家事や子育てなどを担っていくために必要なこと

【性別】※複数回答



性・年代別にみると、女性 18～29 歳では「男性が家事・子育てなどを担うことに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」の割合が 71.6% となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。

また、男性の 40 代以下では「労働時間短縮や休暇制度を普及させることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」の割合が、他の項目と比べて高くなっている。

図表 男性が女性とともに家事や子育てなどを担っていくために必要なこと
【性・年代別】※複数回答

単位：%

調査数	図 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン を よ く	夫 婦 や 家 族 間 の シ ョ ン を よ く	の 抵 抗 感 を な く す こ と	担 う こ と に 対 す る こ と	男 性 が 家 事 ・ 子 育 て な ど を 担 う こ と	持 て る よ う に す る こ と	普 及 の 時 間 を よ く す る こ と	労 働 時 間 短 縮 や 休 暇 制 度 を 普 及 さ せ る こ と	対 す る 評 価 を 高 め る こ と	子 育 て な ど を 担 う こ と	社 会 の 中 で 、 男 性 が 家 事 ・ 子 育 て な ど を 担 う こ と	尊 重 す る こ と	つ づ く て い く こ と	夫 婦 の 役 割 分 担 の 考 え 方 を	年 長 者 や 周 り の 人 が 、 情 報 提 供 を	行 う こ と 、 啓 発 や 情 報 提 供 を	積 極 的 に 担 う こ と	男 性 の 家 事 ・ 子 育 て な ど を 担 う こ と	設 計 が こ と と し て い く こ と	男 性 が 家 事 ・ 子 育 て な ど を 担 う こ と	両 立 の 問 題 を い く こ と	家 庭 や 地 域 活 動 と 仕 事 の 両 立 を い く こ と			
全 体	2,301	59.5	56.0	47.0	44.2	32.8	27.5	25.2																	
女性計	1,386	61.6	60.6	47.5	47.5	38.5	28.9	26.6																	
18～29歳	141	66.0	71.6	57.4	53.9	46.1	29.8	31.2																	
30代	216	56.0	63.4	62.0	56.5	37.5	36.1	20.4																	
40代	269	56.9	63.6	53.2	52.4	37.2	26.8	19.7																	
50代	229	61.6	60.7	46.3	50.2	36.7	27.9	25.3																	
60代	244	72.1	61.5	42.2	44.7	41.4	30.7	30.7																	
70歳以上	271	60.5	49.8	32.5	32.8	36.9	23.2	32.8																	
男性計	877	56.9	49.6	47.4	39.8	24.5	26.1	23.5																	
18～29歳	86	52.3	53.5	58.1	50.0	36.0	32.6	25.6																	
30代	123	56.9	46.3	57.7	46.3	16.3	17.1	17.9																	
40代	147	50.3	45.6	51.0	42.2	17.7	22.4	19.0																	
50代	129	53.5	47.3	45.7	35.7	25.6	31.0	23.3																	
60代	178	55.6	53.9	51.7	38.8	27.0	28.7	28.7																	
70歳以上	187	69.0	55.6	33.7	34.8	27.3	27.8	26.7																	

す ず め る こ と	活 動 を 行 う た め の 仲 間 を	男 性 が 子 育 て や 介 護 、 地 域	技 能 を 高 め る こ と	研 修 や 講 習 会 な ど に よ り、 介 護 の	抵 抗 感 を な く す こ と	男 性 が 家 事 ・ 子 育 て な ど を	そ の 他	特 に 必 要 な こ と は な い	無 回 答	
20.8	18.0	16.3	4.1	2.9	1.9	全体				
21.6	18.0	18.5	4.6	1.7	1.8	女性計				
24.8	18.4	21.3	3.5	-	-	18～29歳				
17.6	13.4	16.7	7.9	0.5	0.5	30代				
20.1	15.6	16.7	5.9	1.1	-	40代				
20.1	14.8	17.0	4.8	3.1	0.4	50代				
27.5	24.2	22.1	4.5	0.4	1.6	60代				
19.9	21.4	17.7	1.5	3.3	7.0	70歳以上				
19.8	18.1	13.1	3.2	4.1	1.3	男性計				
25.6	16.3	24.4	3.5	2.3	-	18～29歳				
15.4	13.8	17.1	4.9	4.1	0.8	30代				
15.6	11.6	7.5	6.8	4.1	-	40代				
23.3	10.9	14.0	3.1	5.4	0.8	50代				
24.7	24.2	10.7	2.2	2.2	-	60代				
17.6	27.3	11.2	-	5.3	3.7	70歳以上				

(12) 現在の配偶関係

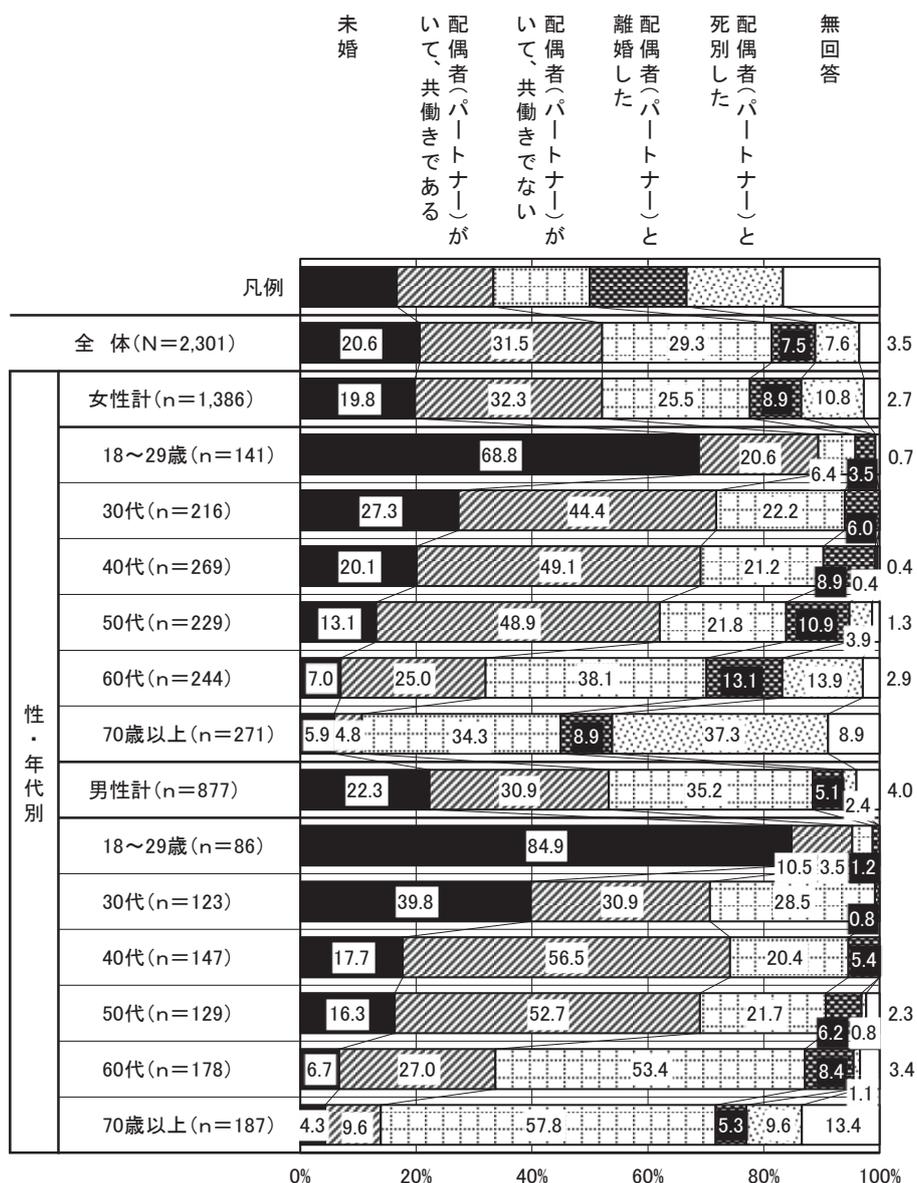
問30 あなたの現在の配偶関係（事実婚を含む）はどれに該当しますか。あてはまるものを**1つだけ**選び、番号に○をつけてください。

現在の配偶関係について聞いたところ、「配偶者（パートナー）がいて、共働きである」と回答した人が31.5%と最も多く、次いで「配偶者（パートナー）がいて、共働きでない」（29.3%）、「未婚」（20.6%）となっている。

性別にみると、男性では「配偶者（パートナー）がいて、共働きでない」（35.2%）の割合が女性（25.5%）に比べて9.7ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、男女ともに18～29歳では「未婚」の割合が高くなっている。また、女性70歳以上では「配偶者（パートナー）と死別した」の割合が37.3%となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 現在の配偶関係【性・年代別】



(13) 配偶者（パートナー）がいる家庭の役割分担について

問30-1 《 問30で「2」「3」と回答した方におたずねします。 》

あなたの家庭では次の事柄を、主にどなたが行っていますか。(1)～(8)のそれぞれの項目について、あてはまるものを**1つつ**選び、番号に○をつけてください。

①炊事、掃除、洗濯などの家事

性・年代別、共働き状況（問 30 146 頁参照）別にみると、いずれの場合においても、女性では「主に自分」、男性では「主に配偶者（パートナー）」の割合が最も高くなっている。

図表 配偶者（パートナー）がいる家庭の役割分担について

(1) 炊事、掃除、洗濯などの家事【性・年代別、共働き状況別】

単位：%

		調査数	主に自分	同（パートナー）が	自分と配偶者（パートナー）	主に配偶者（パートナー）	家族（パートナー）以外の	主に配偶者（パートナー）以外の	家族以外の人に依頼	あてはまらない	無回答
全体		1,398	49.5	12.1	35.3	1.1	0.3	0.8	1.0		
女性	女性計	800	82.6	10.5	3.4	1.3	0.4	0.6	1.3		
	年代別	18～29歳	38	76.3	21.1	-	2.6	-	-	-	
		30代	144	84.0	11.8	2.8	0.7	-	-	0.7	
		40代	189	85.7	9.5	2.6	1.1	-	-	0.5	0.5
		50代	162	87.7	8.0	1.9	0.6	0.6	1.2	-	
		60代	154	81.8	9.7	3.2	1.3	0.6	0.6	2.6	
		70歳以上	106	70.8	11.3	9.4	2.8	0.9	0.9	3.8	
	共働き状況	共働きである	447	80.5	13.6	2.5	1.3	0.4	1.1	0.4	
共働きでない		353	85.3	6.5	4.5	1.1	0.3	-	2.3		
男性	男性計	580	4.5	14.1	78.6	0.9	0.2	1.0	0.7		
	年代別	18～29歳	12	-	16.7	83.3	-	-	-	-	
		30代	73	-	16.4	83.6	-	-	-	-	
		40代	113	5.3	19.5	75.2	-	-	-	-	
		50代	96	3.1	10.4	83.3	2.1	-	1.0	-	
		60代	143	4.2	15.4	76.9	0.7	0.7	1.4	0.7	
		70歳以上	126	7.9	8.7	77.8	1.6	-	1.6	2.4	
	共働き状況	共働きである	271	4.1	19.2	74.9	0.4	0.4	1.1	-	
共働きでない		309	4.9	9.7	81.9	1.3	-	1.0	1.3		

②育児や子どものしつけ

性・年代別、共働き状況（問 30 146 頁参照）別にみると、女性では「主に自分」、男性では「主に配偶者（パートナー）」の割合が高い傾向にある。

図表 配偶者（パートナー）がいる家庭の役割分担について
 (2) 育児や子どものしつけ 【性・年代別、共働き状況別】

単位：%

		調査数	主に自分	同（パートナー）が （自分と配偶者）	主に配偶者 （パートナー）	家族 （パートナー）以外の 主に配偶者	家族以外の人に依頼	あてはまらない	無回答	
全体		1,398	29.5	20.4	19.1	0.4	0.1	27.4	3.1	
女性	女性計	800	50.8	18.5	1.6	0.4	0.1	25.6	3.0	
	年代別	18～29歳	38	52.6	10.5	2.6	-	-	31.6	2.6
		30代	144	61.8	22.2	2.1	-	-	12.5	1.4
		40代	189	54.0	21.7	1.6	-	-	21.2	1.6
		50代	162	54.9	21.0	1.2	-	0.6	20.4	1.9
		60代	154	46.1	11.7	-	0.6	-	37.7	3.9
		70歳以上	106	31.1	15.1	3.8	1.9	-	39.6	8.5
	共働き状況	共働きである	447	53.2	21.3	2.2	-	0.2	21.3	1.8
		共働きでない	353	47.6	15.0	0.8	0.8	-	31.2	4.5
男性	男性計	580	0.9	23.3	42.4	0.5	-	30.0	2.9	
	年代別	18～29歳	12	-	25.0	41.7	-	-	33.3	-
		30代	73	-	17.8	65.8	-	-	16.4	-
		40代	113	3.5	31.0	49.6	-	-	15.9	-
		50代	96	-	31.3	43.8	2.1	-	21.9	1.0
		60代	143	0.7	21.0	35.0	-	-	39.2	4.2
		70歳以上	126	-	15.9	31.0	0.8	-	44.4	7.9
	共働き状況	共働きである	271	1.1	30.6	41.3	0.4	-	25.8	0.7
		共働きでない	309	0.6	16.8	43.4	0.6	-	33.7	4.9

③子どもの教育方針や進学目標を決める

性・年代別、共働き状況（問 30 146 頁参照）別にみると、男女ともに「自分と配偶者（パートナー）が同じくらい」の割合が高い傾向にある。

図表 配偶者（パートナー）がいる家庭の役割分担について

(3) 子どもの教育方針や進学目標を決める 【性・年代別、共働き状況別】

単位：％

		調査数	主に自分	同じくらい （パートナー）が	自分と配偶者 （パートナー）	主に配偶者 （パートナー）	家族 （パートナー）以外の	主に配偶者 （パートナー）以外の	家族以外の人に依頼	あてはまらない	無回答
全体		1,398	15.4	43.1	9.9	0.4	0.1	27.7	3.4		
女性	女性計	800	24.8	41.9	3.3	0.5	0.1	26.3	3.3		
	年代別	18～29歳	38	26.3	31.6	-	2.6	-	36.8	2.6	
		30代	144	30.6	50.7	5.6	-	-	12.5	0.7	
		40代	189	28.6	46.0	2.1	-	-	21.2	2.1	
		50代	162	24.1	50.6	1.2	-	0.6	21.0	2.5	
		60代	154	22.1	30.5	2.6	0.6	-	40.3	3.9	
		70歳以上	106	14.2	29.2	7.5	1.9	-	37.7	9.4	
	共働き	共働きである	447	26.4	45.9	3.6	0.2	0.2	21.9	1.8	
		共働きでない	353	22.7	36.8	2.8	0.8	-	31.7	5.1	
男性	男性計	580	2.4	45.3	18.8	0.2	-	29.8	3.4		
	年代別	18～29歳	12	8.3	16.7	33.3	-	-	41.7	-	
		30代	73	-	57.5	26.0	-	-	16.4	-	
		40代	113	1.8	52.2	28.3	-	-	17.7	-	
		50代	96	1.0	51.0	21.9	1.0	-	24.0	1.0	
		60代	143	3.5	40.6	13.3	-	-	38.5	4.2	
		70歳以上	126	4.0	34.9	10.3	-	-	40.5	10.3	
	共働き	共働きである	271	1.8	48.7	21.4	-	-	27.3	0.7	
		共働きでない	309	2.9	42.4	16.5	0.3	-	32.0	5.8	

④家計支出の管理

性・年代別、共働き状況（問 30 146 頁参照）別にみると、いずれの場合においても、女性では「主に自分」、男性では「主に配偶者（パートナー）」の割合が高くなっている。

図表 配偶者（パートナー）がいる家庭の役割分担について
 (4) 家計支出の管理 【性・年代別、共働き状況別】

単位：％

		調査数	主に自分	同じくらい（パートナー）が	主に配偶者（パートナー）	家族（パートナー）以外の	主に配偶者（パートナー）以外の	家族以外の人に依頼	あてはまらない	無回答
全体		1,398	40.8	21.2	35.5	0.4	0.1	0.9	1.2	
女性	女性計	800	59.9	21.1	16.6	0.4	0.1	0.5	1.4	
	年代別	18～29歳	38	52.6	18.4	21.1	-	-	7.9	-
		30代	144	56.3	22.9	20.1	-	-	-	0.7
		40代	189	59.8	19.6	19.6	0.5	-	-	0.5
		50代	162	57.4	27.2	14.8	-	0.6	-	-
		60代	154	64.3	20.1	12.3	0.6	-	-	2.6
		70歳以上	106	63.2	15.1	15.1	0.9	-	0.9	4.7
	共働き状況	共働きである	447	60.6	21.5	16.3	0.2	0.2	0.7	0.4
		共働きでない	353	58.9	20.7	17.0	0.6	-	0.3	2.5
男性	男性計	580	14.8	21.6	60.9	0.5	-	1.4	0.9	
	年代別	18～29歳	12	16.7	41.7	41.7	-	-	-	-
		30代	73	16.4	16.4	67.1	-	-	-	-
		40代	113	15.0	20.4	62.8	-	-	1.8	-
		50代	96	19.8	20.8	56.3	1.0	-	2.1	-
		60代	143	14.7	23.1	60.1	0.7	-	0.7	0.7
		70歳以上	126	11.9	20.6	61.9	0.8	-	1.6	3.2
	共働き状況	共働きである	271	14.8	26.2	57.6	-	-	1.1	0.4
		共働きでない	309	14.9	17.5	63.8	1.0	-	1.6	1.3

⑤高額な商品や土地，家屋の購入

性・年代別にみると，男女ともにほとんどの年代において「自分と配偶者（パートナー）が同じくらい」の割合が高くなっているが，女性30代では，「主に配偶者（パートナー）」の割合が最も高い。

共働き状況（問30 146頁参照）別にみると，いずれの場合においても，「自分と配偶者（パートナー）が同じくらい」の割合が高くなっている。

図表 配偶者（パートナー）がいる家庭の役割分担について

(5) 高額な商品や土地，家屋の購入 【性・年代別，共働き状況別】

単位：%

		調査数	主に自分	同（パートナー）が	自分と配偶者（パートナー）	主に配偶者（パートナー）	家族（パートナー）以外の	主に配偶者（パートナー）	家族以外の人に依頼	あてはまらない	無回答
全体		1,398	17.0	47.9	23.5	0.6	-	-	9.2	1.9	
女性	女性計	800	7.3	45.5	35.5	0.9	-	-	8.8	2.1	
	年代別	18～29歳	38	7.9	44.7	28.9	-	-	-	18.4	-
		30代	144	9.0	41.7	42.4	-	-	-	6.3	0.7
		40代	189	6.3	47.1	38.1	1.1	-	-	6.3	1.1
		50代	162	4.9	44.4	42.6	0.6	-	-	7.4	-
		60代	154	7.8	51.3	29.2	1.9	-	-	5.8	3.9
		70歳以上	106	9.4	39.6	24.5	0.9	-	-	17.9	7.5
	共働き状況	共働きである	447	8.1	48.3	34.5	0.7	-	-	7.8	0.7
		共働きでない	353	6.2	41.9	36.8	1.1	-	-	9.9	4.0
男性	男性計	580	30.5	51.2	6.7	0.2	-	-	9.8	1.6	
	年代別	18～29歳	12	41.7	41.7	-	-	-	-	16.7	-
		30代	73	27.4	57.5	11.0	-	-	-	4.1	-
		40代	113	31.9	54.0	8.8	-	-	-	5.3	-
		50代	96	35.4	45.8	7.3	1.0	-	-	9.4	1.0
		60代	143	26.6	55.9	5.6	-	-	-	9.8	2.1
		70歳以上	126	30.2	45.2	4.0	-	-	-	16.7	4.0
	共働き状況	共働きである	271	27.3	52.8	8.9	0.4	-	-	10.0	0.7
		共働きでない	309	33.3	49.8	4.9	-	-	-	9.7	2.3

⑥将来の生活設計を立てる

性・年代別、共働き状況（問 30 146 頁参照）別にみると、いずれの場合においても、男女ともに「自分と配偶者（パートナー）が同じくらい」の割合が高くなっている。

図表 配偶者（パートナー）がいる家庭の役割分担について
 (6) 将来の生活設計を立てる 【性・年代別、共働き状況別】

単位：％

		調査数	主に自分	同じくらい (自分と配偶者 (パートナー)が)	主に配偶者 (パートナー)	家族 (パートナー)以外の	主に配偶者 (パートナー)以外の 家族以外の人に依頼	あてはまらない	無回答	
全体		1,398	18.1	58.2	14.6	0.4	0.1	6.6	2.1	
女性計		800	18.1	56.8	15.4	0.5	-	6.6	2.6	
女性	年代別	18～29歳	38	15.8	57.9	15.8	-	-	10.5	-
		30代	144	17.4	59.0	19.4	-	-	3.5	0.7
		40代	189	20.1	57.1	15.9	0.5	-	4.2	2.1
		50代	162	22.8	53.7	16.7	-	-	6.2	0.6
		60代	154	16.9	58.4	13.6	0.6	-	6.5	3.9
		70歳以上	106	11.3	52.8	10.4	1.9	-	15.1	8.5
		共働き	共働きである	447	23.0	54.6	15.2	0.2	-	6.0
	共働きでない		353	11.9	59.5	15.6	0.8	-	7.4	4.8
男性計		580	18.1	60.9	12.9	0.2	0.2	6.6	1.2	
男性	年代別	18～29歳	12	33.3	58.3	8.3	-	-	-	-
		30代	73	13.7	67.1	17.8	-	-	1.4	-
		40代	113	17.7	62.8	17.7	-	-	1.8	-
		50代	96	26.0	51.0	17.7	-	1.0	4.2	-
		60代	143	16.8	63.6	11.2	-	-	7.0	1.4
		70歳以上	126	16.7	58.7	4.8	0.8	-	15.1	4.0
	共働き	共働きである	271	16.2	60.9	17.7	-	-	5.2	-
共働きでない		309	19.7	60.8	8.7	0.3	0.3	7.8	2.3	

⑦親や家族の介護

性・年代別、共働き状況（問 30 146 頁参照）別にみると、女性 50 代、男性 60 代では「自分と配偶者（パートナー）が同じくらい」の割合が高くなっている。また、女性 60 代では「主に自分」の割合が高くなっている。

図表 配偶者（パートナー）がいる家庭の役割分担について
 （7）親や家族の介護 【性・年代別、共働き状況別】

単位：%

		調査数	主に自分	同じくらい （パートナー）が	自分と配偶者 （パートナー）	主に配偶者 （パートナー）以外の	家族以外の人に依頼	あてはまらない	無回答	
全体		1,398	15.7	30.3	9.7	1.2	1.2	39.8	2.1	
女性	女性計	800	25.0	28.3	3.1	1.5	1.4	38.4	2.4	
	年代別	18～29歳	38	7.9	15.8	2.6	-	-	73.7	-
		30代	144	16.0	26.4	1.4	1.4	2.1	52.1	0.7
		40代	189	22.2	24.3	2.6	1.6	0.5	47.1	1.6
		50代	162	30.2	38.3	3.7	1.9	1.9	23.5	0.6
		60代	154	34.4	27.9	3.2	1.3	1.9	27.9	3.2
		70歳以上	106	26.4	25.5	5.7	1.9	0.9	31.1	8.5
	共働き	共働きである	447	23.7	30.6	2.5	1.6	1.1	39.6	0.9
共働きでない		353	26.6	25.2	4.0	1.4	1.7	36.8	4.2	
男性	男性計	580	3.1	33.4	18.1	0.9	1.0	42.1	1.4	
	年代別	18～29歳	12	-	8.3	8.3	-	-	83.3	-
		30代	73	-	23.3	8.2	1.4	-	67.1	-
		40代	113	2.7	35.4	12.4	0.9	1.8	46.9	-
		50代	96	3.1	31.3	28.1	1.0	3.1	32.3	1.0
		60代	143	3.5	39.9	23.8	-	0.7	30.8	1.4
		70歳以上	126	5.6	32.5	15.9	1.6	-	40.5	4.0
	共働き	共働きである	271	1.8	34.7	16.6	0.7	0.7	45.0	0.4
共働きでない		309	4.2	32.4	19.4	1.0	1.3	39.5	2.3	

⑧町内会、自治会、PTAなどの会合への参加

性・年代別、共働き状況（問30 146頁参照）別にみると、女性では「主に自分」、男性では「主に配偶者（パートナー）」の割合が高い傾向にある。

図表 配偶者（パートナー）がいる家庭の役割分担について

(8) 町内会、自治会、PTAなどの会合への参加 【性・年代別、共働き状況別】

単位：%

		調査数	主に自分	同（パートナー）が 自分と配偶者 （パートナー）が	主に配偶者 （パートナー）	家族（パートナー）以外の 主に配偶者 （パートナー）以外の	家族以外の人に依頼	あてはまらない	無回答	
全体		1,398	36.5	17.7	24.1	0.9	0.5	18.7	1.6	
女性	女性計	800	50.9	16.5	10.1	0.6	0.3	19.5	2.1	
	年代別	18～29歳	38	13.2	2.6	2.6	2.6	-	76.3	2.6
		30代	144	44.4	15.3	6.9	0.7	0.7	31.3	0.7
		40代	189	61.9	12.7	4.2	0.5	0.5	19.6	0.5
		50代	162	59.9	22.2	11.7	-	-	6.2	-
		60代	154	51.9	18.2	14.9	-	-	11.7	3.2
		70歳以上	106	36.8	18.9	18.9	1.9	-	15.1	8.5
	共働き	共働きである	447	52.8	16.1	8.3	0.7	-	21.5	0.7
共働きでない		353	48.4	17.0	12.5	0.6	0.6	17.0	4.0	
男性	男性計	580	17.1	19.0	43.3	1.2	0.7	17.9	0.9	
	年代別	18～29歳	12	8.3	8.3	8.3	-	-	75.0	-
		30代	73	5.5	12.3	39.7	2.7	-	39.7	-
		40代	113	8.0	13.3	57.5	2.7	-	18.6	-
		50代	96	19.8	18.8	44.8	2.1	1.0	13.5	-
		60代	143	18.9	23.1	44.8	-	1.4	11.2	0.7
		70歳以上	126	28.6	24.6	32.5	-	0.8	10.3	3.2
	共働き	共働きである	271	15.5	18.5	42.8	2.2	-	21.0	-
共働きでない		309	18.4	19.4	43.7	0.3	1.3	15.2	1.6	

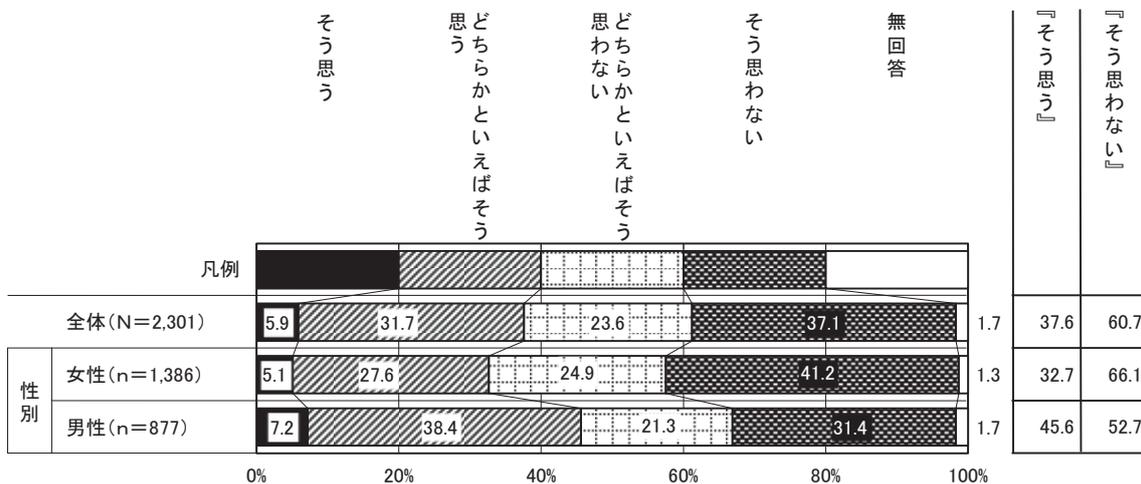
(14) 「男は仕事、女は家庭を守るべきである」という考え方について

問31 「男は仕事、女は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのように思いますか。あてはまるものを**1つだけ**選び、番号に○をつけてください。

「男は仕事、女は家庭を守るべきである」という考え方について聞いたところ、『そう思う』（＝「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」と回答した人は37.6%となっている。一方、『そう思わない』（＝「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」と回答した人は60.7%となっている。

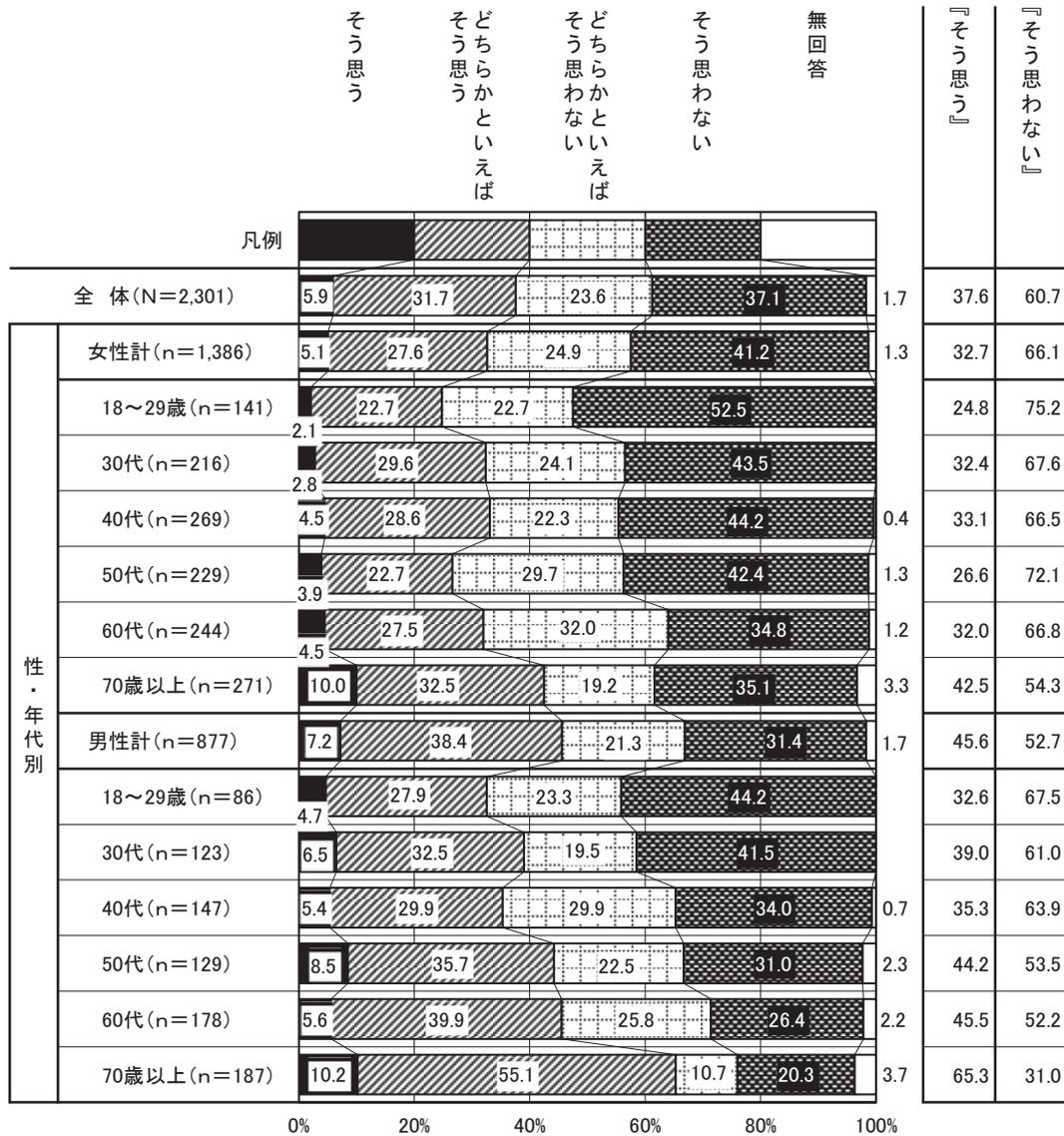
性別にみると、男性では『そう思う』（45.6%）の割合が女性（32.7%）に比べて12.9ポイント高くなっている。

図表 「男は仕事、女は家庭を守るべきである」という考え方について【性別】



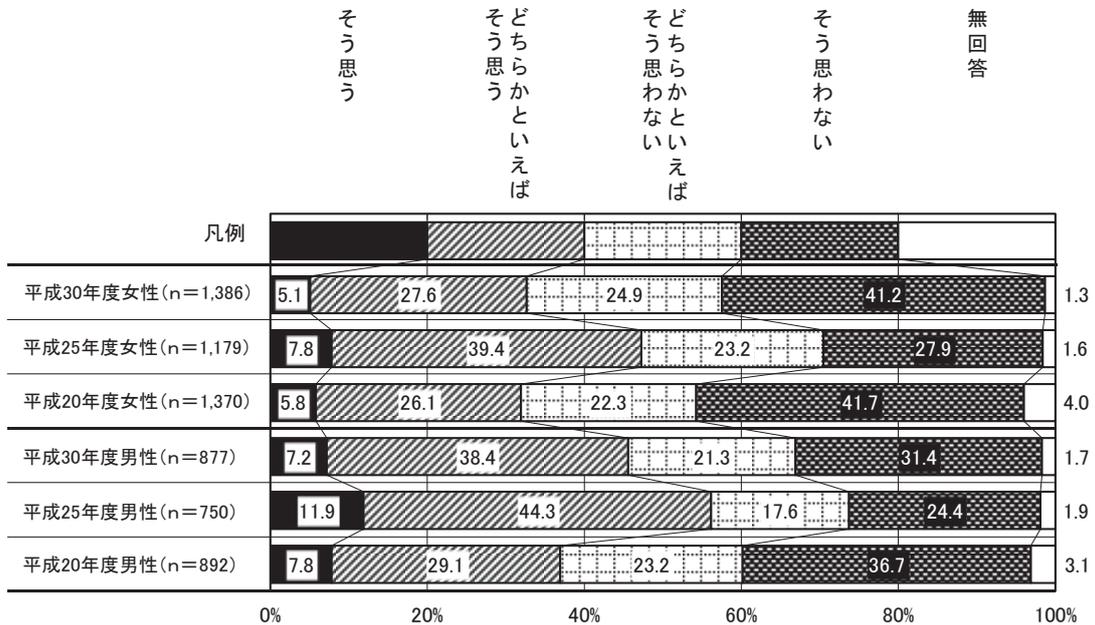
性・年代別にみると、男性70歳以上では『そう思う』の割合が65.3%となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。一方、他の性・年代別では『そう思わない』が『そう思う』を上回っている。

図表 「男は仕事、女は家庭を守るべきである」という考え方について【性・年代別】



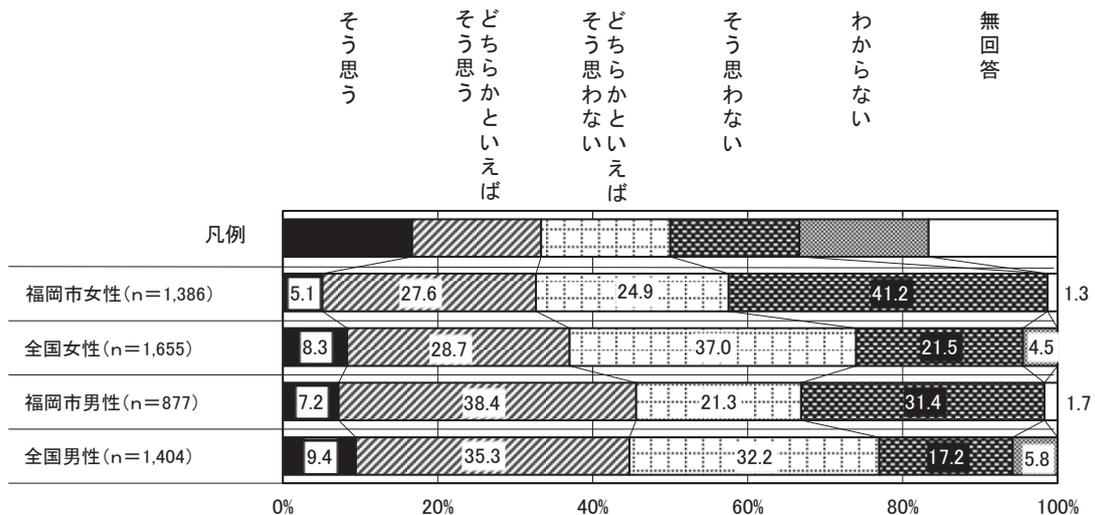
過去の調査結果をみると、男女ともに『そう思う』の割合は平成 25 年度調査から減少している。

図表 「男は仕事、女は家庭を守るべきである」という考え方について【過去の調査との比較】



全国調査（内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」：平成 28 年 9 月）の結果と比較すると、全国に比べ、福岡市の男女ともに『そう思わない』の割合が高くなっている。

図表 「男は仕事、女は家庭を守るべきである」という考え方について【全国調査との比較】



※全国調査の設問は「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである、という考え方についてあなたはどうお考えですか」

※全国調査の選択肢は「賛成」「どちらかといえば賛成」「どちらかといえば反対」「反対」「わからない」

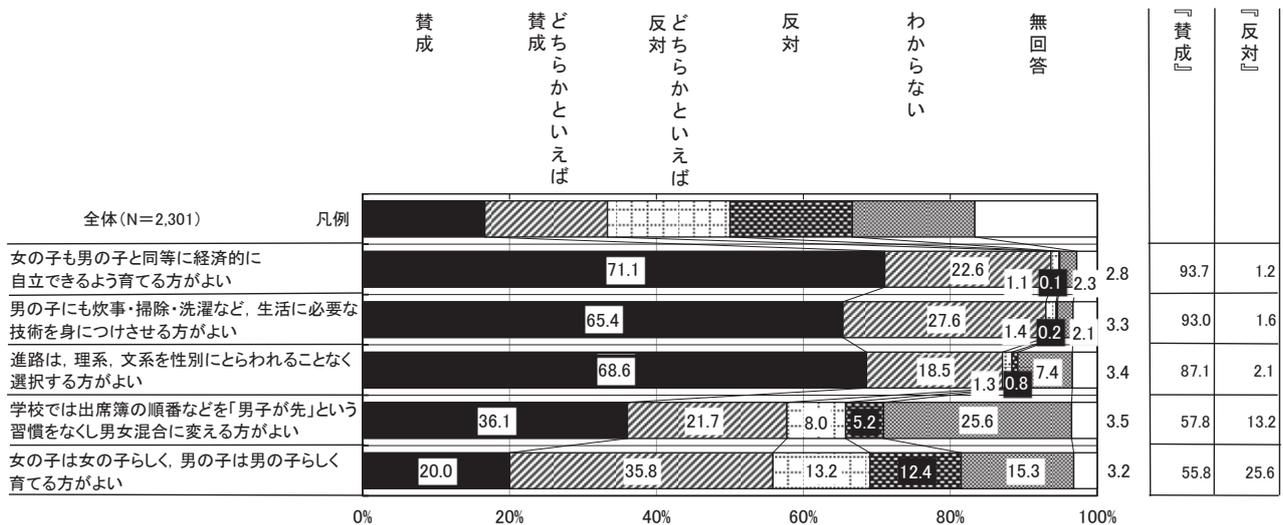
※「わからない」の選択肢は全国のみ、「無回答」は福岡市のみ

(15) 子どものしつけや教育について

問32 あなたは、子どものしつけや教育について、どのように考えていますか。次の(1)～(5)までのそれぞれの項目について、あなたの考えに最も近いものを**1つだけ**選び、番号に○をつけてください。

子どものしつけや教育について聞いたところ、『賛成』(=「賛成」+「どちらかといえば賛成」)と回答した人の割合は、「女の子も男の子と同等に経済的に自立できるよう育てる方がよい」が93.7%と最も高く、次いで「男の子にも炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる方がよい」(93.0%)、「進路は、理系、文系を性別にとらわれることなく選択する方がよい」(87.1%)となっている。

図表 子どものしつけや教育について【全体】



①女の子も男の子と同等に経済的に自立できるよう育てる方がよい

性別にみると、女性では「賛成」(75.5%)の割合が男性(65.5%)に比べて10.0ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、男性70歳以上では「賛成」の割合が55.1%となっており、他の性・年代に比べて低くなっている。

図表 子どものしつけや教育について

(1) 女の子も男の子と同等に経済的に自立できるよう育てる方がよい【性・年代別】

単位：%

	調査数	賛成	い ど え ち ら ば 賛 か と	い ど え ち ら ば 反 か と	反 対	わ か ら な い	無 回 答	『 賛 成 』	『 反 対 』
全体	2,301	71.1	22.6	1.1	0.1	2.3	2.8	93.7	1.2
女性計	1,386	75.5	20.0	0.9	0.1	1.4	2.2	95.5	1.0
18～29歳	141	78.0	17.7	2.1	-	2.1	-	95.7	2.1
30代	216	81.9	17.6	0.5	-	-	-	99.5	0.5
40代	269	77.3	19.7	1.1	-	1.5	0.4	97.0	1.1
50代	229	77.7	20.1	-	0.4	0.4	1.3	97.8	0.4
60代	244	75.4	20.9	1.2	-	0.4	2.0	96.3	1.2
70歳以上	271	65.7	22.9	0.7	-	3.7	7.0	88.6	0.7
男性計	877	65.5	26.6	1.5	0.2	3.1	3.2	92.1	1.7
18～29歳	86	77.9	19.8	-	-	2.3	-	97.7	-
30代	123	77.2	15.4	4.1	-	3.3	-	92.6	4.1
40代	147	63.9	29.3	2.7	0.7	2.0	1.4	93.2	3.4
50代	129	65.9	26.4	2.3	0.8	2.3	2.3	92.3	3.1
60代	178	62.9	31.5	0.6	-	3.4	1.7	94.4	0.6
70歳以上	187	55.1	31.0	-	-	4.3	9.6	86.1	-

②男の子にも炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる方がよい

性別にみると、女性では「賛成」(71.3%)の割合が男性(57.8%)に比べて13.5ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、男女ともに70歳以上では『賛成』の割合が8割台前半となっており、他の性・年代に比べて低くなっている。

図表 子どものしつけや教育について

(2) 男の子にも炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる方がよい

【性・年代別】

単位：%

	調査数	賛成	い ど え ち ら ば 賛 か と	い ど え ち ら ば 反 か と	反 対	わ か ら な い	無 回 答	『 賛 成 』	『 反 対 』
全体	2,301	65.4	27.6	1.4	0.2	2.1	3.3	93.0	1.6
女性計	1,386	71.3	23.4	1.1	0.1	1.3	2.8	94.7	1.2
18～29歳	141	75.2	22.0	0.7	-	2.1	-	97.2	0.7
30代	216	81.9	16.7	0.5	-	0.5	0.5	98.6	0.5
40代	269	78.1	20.1	0.4	-	0.7	0.7	98.2	0.4
50代	229	75.5	21.8	0.4	0.4	0.4	1.3	97.3	0.8
60代	244	70.5	25.0	0.8	-	0.8	2.9	95.5	0.8
70歳以上	271	51.3	33.2	3.3	0.4	3.0	8.9	84.5	3.7
男性計	877	57.8	34.0	1.7	0.2	3.0	3.3	91.8	1.9
18～29歳	86	80.2	18.6	-	-	1.2	-	98.8	-
30代	123	74.8	22.0	2.4	-	0.8	-	96.8	2.4
40代	147	63.9	32.0	-	-	2.0	2.0	95.9	-
50代	129	58.9	31.8	2.3	1.6	3.1	2.3	90.7	3.9
60代	178	50.6	41.6	2.8	-	3.4	1.7	92.2	2.8
70歳以上	187	39.0	43.9	2.1	-	4.8	10.2	82.9	2.1

③学校では出席簿の順番などを「男子が先」という習慣をなくし男女混合に変える方がよい

性別にみると、大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、女性 18～29 歳・30 代，男性 18～29 歳では「賛成」の割合が 4 割を超えており，他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 子どものしつけや教育について

(3) 学校では出席簿の順番などを「男子が先」という習慣をなくし男女混合に変える方がよい

【性・年代別】

単位：％

	調査数	賛成	いど えち ばら か 賛 成 と	いど えち ばら 反 対 と	反 対	わ か ら な い	無 回 答	『 賛 成 』	『 反 対 』
全 体	2,301	36.1	21.7	8.0	5.2	25.6	3.5	57.8	13.2
女性計	1,386	36.7	20.9	8.0	3.8	27.4	3.2	57.6	11.8
18～29歳	141	44.7	19.1	4.3	2.1	29.8	-	63.8	6.4
30代	216	44.9	19.0	7.9	2.3	25.5	0.5	63.9	10.2
40代	269	39.4	18.2	5.9	6.3	29.4	0.7	57.6	12.2
50代	229	35.4	24.5	7.4	3.5	27.9	1.3	59.9	10.9
60代	244	35.7	19.3	12.7	3.3	25.4	3.7	55.0	16.0
70歳以上	271	25.8	24.4	8.5	4.4	26.9	10.0	50.2	12.9
男性計	877	36.0	22.7	8.0	7.3	22.8	3.2	58.7	15.3
18～29歳	86	47.7	19.8	7.0	3.5	22.1	-	67.5	10.5
30代	123	30.9	21.1	6.5	11.4	30.1	-	52.0	17.9
40代	147	36.7	19.7	10.2	8.2	23.1	2.0	56.4	18.4
50代	129	36.4	15.5	10.1	7.8	27.9	2.3	51.9	17.9
60代	178	38.8	24.7	9.6	5.1	20.2	1.7	63.5	14.7
70歳以上	187	31.6	29.4	5.3	6.4	18.2	9.1	61.0	11.7

④進路は、理系，文系を性別にとられることなく選択する方がよい

性別にみると、女性では「賛成」(71.3%)の割合が男性(66.0%)に比べて5.3ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、女性 70 歳以上では『賛成』の割合が 76.4%となっており，他の性・年代に比べて低くなっている。

図表 子どものしつけや教育について

(4) 進路は、理系，文系を性別にとられることなく選択する方がよい【性・年代別】

単位：％

	調査数	賛成	いど えち ばら か 賛 成 と	いど えち ばら 反 対 と	反 対	わ か ら な い	無 回 答	『 賛 成 』	『 反 対 』
全 体	2,301	68.6	18.5	1.3	0.8	7.4	3.4	87.1	2.1
女性計	1,386	71.3	16.5	1.2	0.6	7.2	3.2	87.8	1.8
18～29歳	141	78.7	12.1	2.8	-	6.4	-	90.8	2.8
30代	216	81.5	11.1	0.9	0.5	5.6	0.5	92.6	1.4
40代	269	75.8	14.5	1.9	1.5	5.6	0.7	90.3	3.4
50代	229	76.9	17.5	0.9	-	3.5	1.3	94.4	0.9
60代	244	66.8	19.7	0.8	0.4	8.6	3.7	86.5	1.2
70歳以上	271	55.0	21.4	0.4	1.1	11.8	10.3	76.4	1.5
男性計	877	66.0	21.3	1.6	1.0	7.0	3.1	87.3	2.6
18～29歳	86	80.2	14.0	2.3	2.3	1.2	-	94.2	4.6
30代	123	74.8	13.0	2.4	3.3	6.5	-	87.8	5.7
40代	147	71.4	19.0	2.0	-	5.4	2.0	90.4	2.0
50代	129	72.9	17.8	1.6	-	5.4	2.3	90.7	1.6
60代	178	63.5	23.6	0.6	1.1	9.6	1.7	87.1	1.7
70歳以上	187	49.2	31.6	1.6	0.5	8.6	8.6	80.8	2.1

⑤女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる方がよい

性別にみると、男性では『賛成』（65.2%）の割合が女性（49.8%）に比べて15.4ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、女性18～29歳以上では『賛成』の割合が31.9%となっており、他の性・年代に比べて低くなっている。一方男性では、年代が上がるほど『賛成』の割合が高くなっている。

図表 子どものしつけや教育について

(5) 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる方がよい【性・年代別】

単位：%

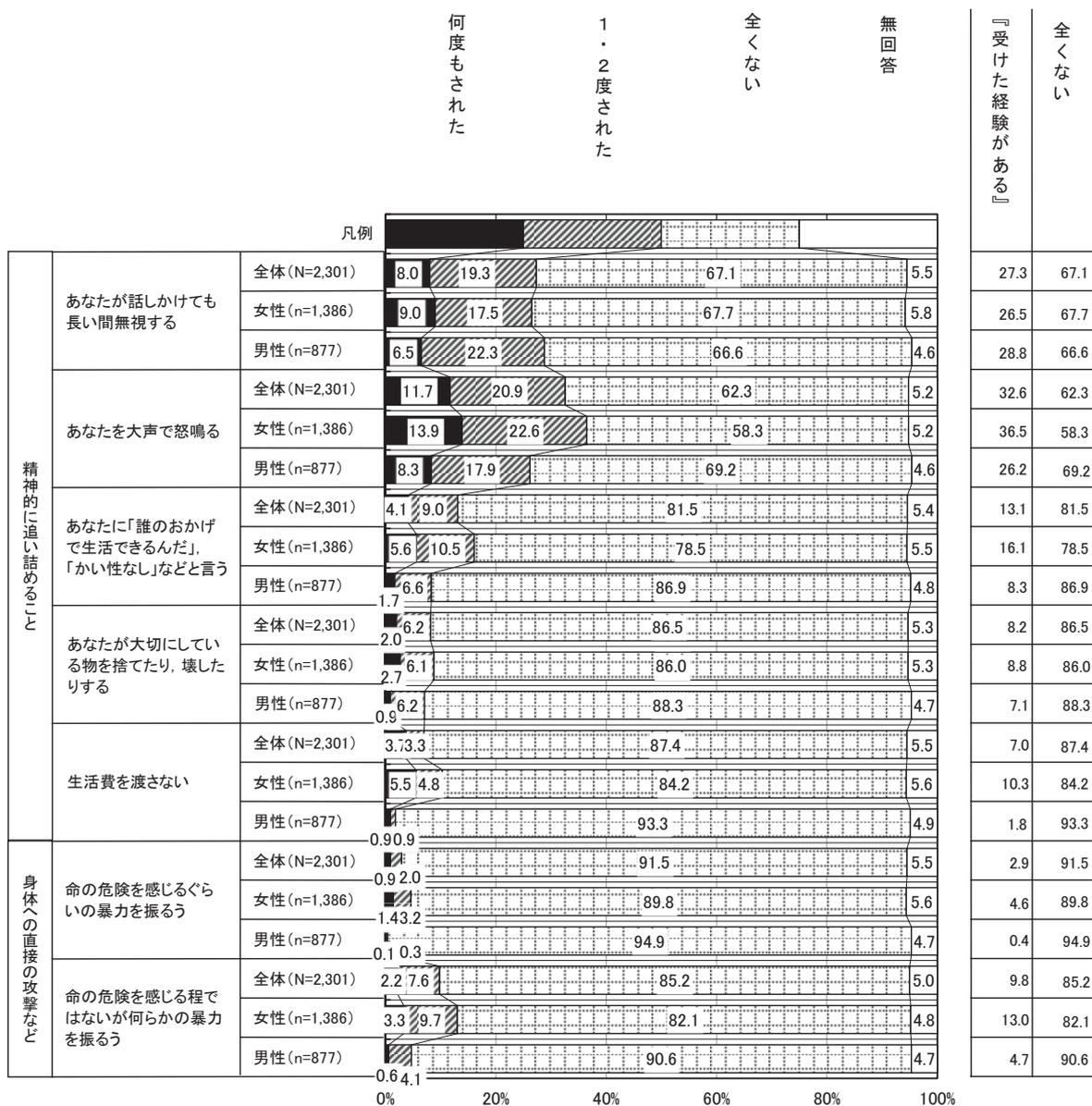
	調査数	賛成	いど えち ばら か 賛 成 と	いど えち ばら か 反 対 と	反 対	わ か ら な い	無 回 答	『賛成』	『反対』
全 体	2,301	20.0	35.8	13.2	12.4	15.3	3.2	55.8	25.6
女性計	1,386	15.9	33.9	14.6	15.3	17.1	3.2	49.8	29.9
18～29歳	141	8.5	23.4	21.3	29.1	17.7	-	31.9	50.4
30代	216	9.3	34.3	18.1	22.2	14.8	1.4	43.6	40.3
40代	269	13.0	35.7	14.5	14.1	21.9	0.7	48.7	28.6
50代	229	15.7	32.8	15.7	15.7	18.3	1.7	48.5	31.4
60代	244	19.3	39.3	9.8	13.1	14.8	3.7	58.6	22.9
70歳以上	271	23.6	35.1	11.4	5.9	14.8	9.2	58.7	17.3
男性計	877	26.1	39.1	11.1	8.3	12.8	2.6	65.2	19.4
18～29歳	86	16.3	26.7	17.4	18.6	20.9	-	43.0	36.0
30代	123	22.0	36.6	17.9	11.4	12.2	-	58.6	29.3
40代	147	29.9	34.0	12.9	6.1	15.0	2.0	63.9	19.0
50代	129	25.6	38.8	8.5	7.8	17.1	2.3	64.4	16.3
60代	178	23.0	44.4	12.4	10.1	8.4	1.7	67.4	22.5
70歳以上	187	33.2	46.5	2.7	2.1	9.1	6.4	79.7	4.8

(16) 恋人、配偶者、パートナーから暴力を受けた経験

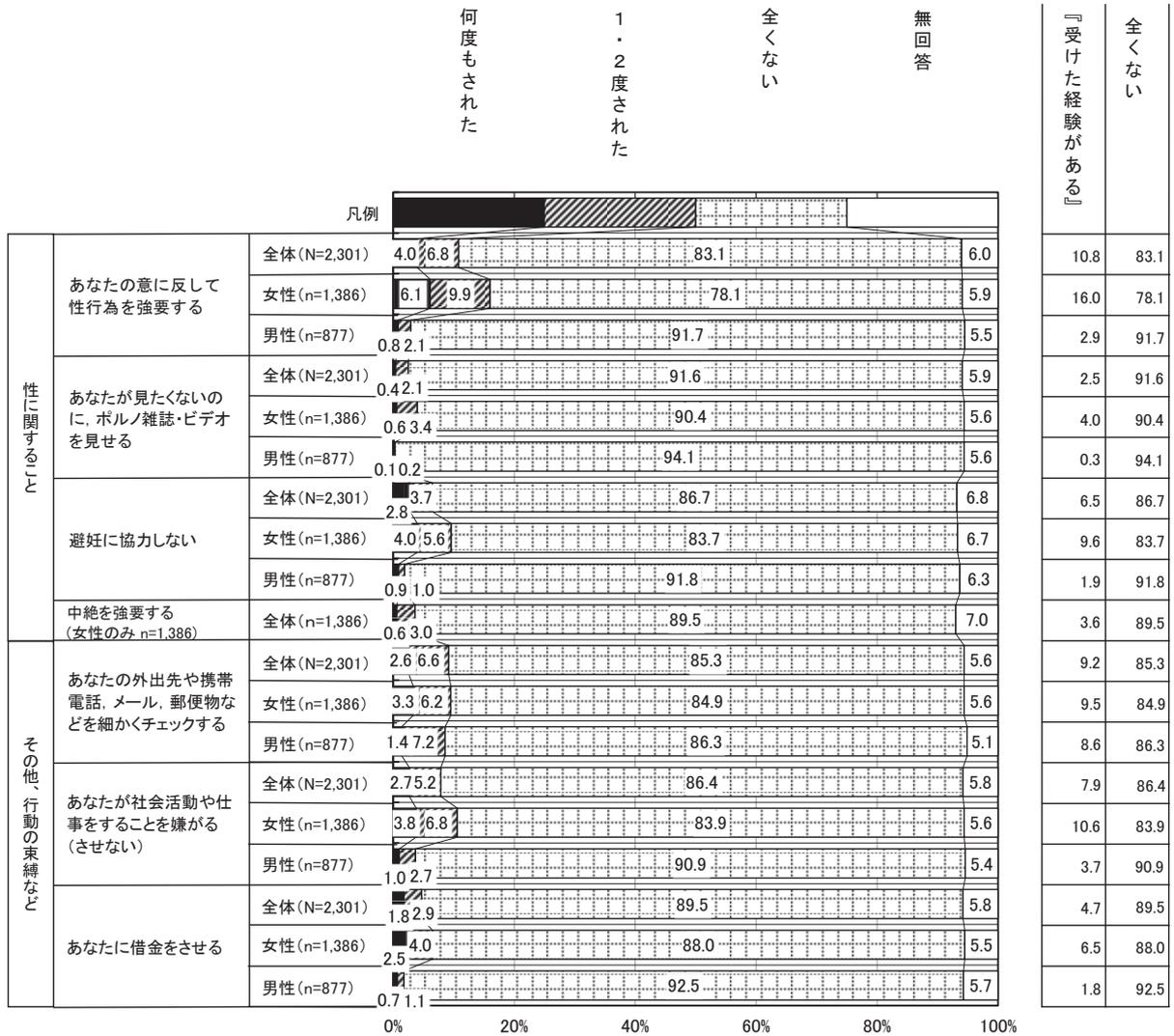
問33 あなたは恋人、配偶者、パートナーから次のような行為をされたことがありますか。次の(1)～(14)までのそれぞれの項目についてあてはまるものを**1つだけ**選び、番号に○をつけてください。

恋人、配偶者、パートナーから暴力を受けた経験について聞いたところ、『**受けた経験がある**』(=「何度もされた」+「1・2度された」)と回答した人の割合は、「**大声で怒鳴る**」が32.6%と最も高く、次いで「**話しかけても長い間無視する**」(27.3%)、「**誰のおかげで生活できるんだ、かい性なしなどと言う**」(13.1%)となっている。

図表 恋人、配偶者、パートナーから暴力を受けた経験【全体】



図表 恋人、配偶者、パートナーから暴力を受けた経験【全体】



①精神的に追い詰めること

「大声で怒鳴る」「誰のおかげで生活できるんだ、かい性なしなどと言う」「生活費を渡さない」では、すべての年代において『受けた経験がある』の割合が男性に比べ女性で高くなっている。

図表 恋人、配偶者、パートナーから暴力を受けた経験
精神的に追い詰めること【性・年代別】

単位：％

	調査数	あなたが話しかけても長い間無視する				あなたを大声で怒鳴る				あなたに「誰のおかげで生活できるんだ」、「かい性なし」などと言う			
		何度もされた	1・2度された	全くない	無回答	何度もされた	1・2度された	全くない	無回答	何度もされた	1・2度された	全くない	無回答
全体	2,301	8.0	19.3	67.1	5.5	11.7	20.9	62.3	5.2	4.1	9.0	81.5	5.4
女性計	1,386	9.0	17.5	67.7	5.8	13.9	22.6	58.3	5.2	5.6	10.5	78.5	5.5
18～29歳	141	4.3	14.9	78.7	2.1	9.2	10.6	78.0	2.1	2.8	5.7	88.7	2.8
30代	216	7.4	14.8	75.5	2.3	13.0	21.3	63.4	2.3	5.1	12.0	80.6	2.3
40代	269	10.8	20.1	67.7	1.5	13.0	25.7	60.2	1.1	4.5	7.8	87.0	0.7
50代	229	8.3	18.3	68.6	4.8	14.8	28.4	52.4	4.4	7.4	11.4	77.3	3.9
60代	244	11.9	20.5	59.8	7.8	17.2	29.5	48.4	4.9	5.7	16.8	71.3	6.1
70歳以上	271	8.9	15.9	62.7	12.5	14.4	16.6	56.1	12.9	6.3	8.5	71.6	13.7
男性計	877	6.5	22.3	66.6	4.6	8.3	17.9	69.2	4.6	1.7	6.6	86.9	4.8
18～29歳	86	5.8	17.4	73.3	3.5	4.7	14.0	77.9	3.5	1.2	1.2	94.2	3.5
30代	123	9.8	21.1	63.4	5.7	13.8	15.4	65.0	5.7	2.4	8.9	82.9	5.7
40代	147	4.8	23.1	70.7	1.4	9.5	21.1	68.0	1.4	3.4	4.1	91.2	1.4
50代	129	8.5	24.0	65.9	1.6	10.9	19.4	68.2	1.6	1.6	7.8	89.1	1.6
60代	178	3.4	25.8	68.5	2.2	5.6	18.0	74.2	2.2	1.1	8.4	88.2	2.2
70歳以上	187	7.5	20.3	63.1	9.1	5.9	17.1	67.4	9.6	1.1	7.5	81.3	10.2

単位：％

	調査数	あなたが大切にしている物を捨てたり、壊したりする				生活費を渡さない			
		何度もされた	1・2度された	全くない	無回答	何度もされた	1・2度された	全くない	無回答
全体	2,301	2.0	6.2	86.5	5.3	3.7	3.3	87.4	5.5
女性計	1,386	2.7	6.1	86.0	5.3	5.5	4.8	84.2	5.6
18～29歳	141	3.5	3.5	90.8	2.1	4.3	4.3	87.2	4.3
30代	216	3.7	3.7	90.3	2.3	4.6	2.8	90.3	2.3
40代	269	1.5	4.8	92.2	1.5	7.1	4.1	85.9	3.0
50代	229	2.2	6.1	87.8	3.9	4.4	1.7	90.4	3.5
60代	244	3.7	9.8	81.1	5.3	8.2	7.8	78.3	5.7
70歳以上	271	1.5	7.4	78.2	12.9	4.1	7.0	77.1	11.8
男性計	877	0.9	6.2	88.3	4.7	0.9	0.9	93.3	4.9
18～29歳	86	2.3	3.5	90.7	3.5	-	1.2	94.2	4.7
30代	123	0.8	4.9	88.6	5.7	0.8	1.6	91.9	5.7
40代	147	1.4	5.4	91.8	1.4	2.0	0.7	95.9	1.4
50代	129	0.8	7.0	90.7	1.6	0.8	0.8	96.9	1.6
60代	178	1.1	6.7	89.9	2.2	1.1	-	95.5	3.4
70歳以上	187	-	7.5	82.9	9.6	-	1.6	88.8	9.6

②身体への直接の攻撃など

「命の危険を感じるぐらいの暴力を振るう」では、すべての年代において『受けた経験がある』の割合が、男性に比べ女性で高くなっている。

「命の危険を感じる程ではないが何らかの暴力を振るう」では、『受けた経験がある』の割合が、60代・70歳以上で男性に比べ女性が10ポイント以上高くなっている。

図表 恋人、配偶者、パートナーから暴力を受けた経験
身体への直接の攻撃など【性・年代別】

単位：％

	調査数	命の危険を感じるぐらいの暴力を振るう				命の危険を感じる程ではないが何らかの暴力を振るう			
		何度もされた	1・2度された	全くない	無回答	何度もされた	1・2度された	全くない	無回答
全体	2,301	0.9	2.0	91.5	5.5	2.2	7.6	85.2	5.0
女性計	1,386	1.4	3.2	89.8	5.6	3.3	9.7	82.1	4.8
18～29歳	141	0.7	2.8	94.3	2.1	1.4	9.9	86.5	2.1
30代	216	1.4	2.3	94.4	1.9	2.8	9.7	85.2	2.3
40代	269	2.2	2.2	93.7	1.9	2.6	9.7	86.6	1.1
50代	229	1.7	0.9	93.9	3.5	2.6	4.8	89.1	3.5
60代	244	1.2	5.7	86.5	6.6	4.5	13.1	77.0	5.3
70歳以上	271	1.1	4.4	81.2	13.3	4.4	11.4	72.7	11.4
男性計	877	0.1	0.3	94.9	4.7	0.6	4.1	90.6	4.7
18～29歳	86	-	-	96.5	3.5	2.3	2.3	91.9	3.5
30代	123	0.8	-	94.3	4.9	0.8	6.5	87.8	4.9
40代	147	-	0.7	98.0	1.4	0.7	4.1	93.9	1.4
50代	129	-	-	98.4	1.6	-	7.8	90.7	1.6
60代	178	-	-	97.8	2.2	0.6	2.8	94.4	2.2
70歳以上	187	-	1.1	88.8	10.2	-	2.7	87.2	10.2

③性に関すること

いずれも『受けた経験がある』の割合は、男性に比べ女性が高くなっている。特に「あなたの意に反して性行為を強要する」「あなたが見たくないのに、ポルノ雑誌・ビデオを見せる」では、女性60代で『受けた経験がある』の割合が高く、また「避妊に協力しない」では、女性40代以下で『受けた経験がある』の割合が高くなっている。

図表 恋人、配偶者、パートナーから暴力を受けた経験
性に関すること【性・年代別】

単位：％

	調査数	あなたの意に反して性行為を強要する				あなたが見たくないのに、ポルノ雑誌・ビデオを見せる				避妊に協力しない			
		何度もされた	1・2度された	全くない	無回答	何度もされた	1・2度された	全くない	無回答	何度もされた	1・2度された	全くない	無回答
全体	2,301	4.0	6.8	83.1	6.0	0.4	2.1	91.6	5.9	2.8	3.7	86.7	6.8
女性計	1,386	6.1	9.9	78.1	5.9	0.6	3.4	90.4	5.6	4.0	5.6	83.7	6.7
18～29歳	141	5.0	11.3	80.9	2.8	-	4.3	92.9	2.8	7.1	5.7	84.4	2.8
30代	216	5.1	5.6	87.0	2.3	0.5	1.4	95.4	2.8	5.6	7.4	83.8	3.2
40代	269	6.3	10.4	81.8	1.5	0.4	2.2	95.9	1.5	4.1	8.6	85.9	1.5
50代	229	5.7	10.0	80.8	3.5	0.9	3.1	92.6	3.5	1.7	3.1	91.7	3.5
60代	244	7.4	13.9	71.3	7.4	1.6	6.6	85.7	6.1	3.3	6.1	82.8	7.8
70歳以上	271	7.0	8.5	70.5	14.0	0.4	3.3	83.0	13.3	3.7	3.0	76.0	17.3
男性計	877	0.8	2.1	91.7	5.5	0.1	0.2	94.1	5.6	0.9	1.0	91.8	6.3
18～29歳	86	1.2	-	95.3	3.5	1.2	-	95.3	3.5	1.2	-	95.3	3.5
30代	123	1.6	1.6	91.1	5.7	-	-	94.3	5.7	2.4	2.4	89.4	5.7
40代	147	0.7	1.4	96.6	1.4	-	-	98.6	1.4	-	1.4	97.3	1.4
50代	129	-	3.9	94.6	1.6	-	0.8	97.7	1.6	0.8	0.8	96.9	1.6
60代	178	-	0.6	96.6	2.8	-	0.6	96.1	3.4	-	0.6	94.9	4.5
70歳以上	187	1.1	3.7	82.4	12.8	-	-	87.2	12.8	1.1	0.5	84.0	14.4

単位：％

	調査数	中絶を強要する			
		何度もされた	1・2度された	全くない	無回答
全体	1,386	0.6	3.0	89.5	7.0
女性計	1,386	0.6	3.0	89.5	7.0
18～29歳	141	-	4.3	92.2	3.5
30代	216	0.9	1.4	94.4	3.2
40代	269	0.4	1.9	96.7	1.1
50代	229	-	0.9	94.8	4.4
60代	244	0.8	3.3	87.3	8.6
70歳以上	271	1.1	5.9	75.6	17.3
男性計	-	-	-	-	-
18～29歳	-	-	-	-	-
30代	-	-	-	-	-
40代	-	-	-	-	-
50代	-	-	-	-	-
60代	-	-	-	-	-
70歳以上	-	-	-	-	-

④その他、行動の束縛など

「外出先や携帯電話、メール、郵便物などを細かくチェックする」では、男性 30 代～50 代で『受けた経験がある』の割合が女性よりやや高くなっている。

「あなたに借金をさせる」では、すべての年代で『受けた経験がある』の割合は男性よりも女性で高く、特に 60 代女性では 10.2%を占め、他の性・年代に比べ高くなっている。

図表 恋人、配偶者、パートナーから暴力を受けた経験
その他、行動の束縛など【性・年代別】

単位：%

	調査数	外出先や携帯電話、メール、郵便物などを細かくチェックする				あなたが社会活動や仕事をするこ とを嫌がる(させない)				あなたに借金をさせる			
		何 度 も さ れ た	1 ・ 2 度 さ れ た	全 く な い	無 回 答	何 度 も さ れ た	1 ・ 2 度 さ れ た	全 く な い	無 回 答	何 度 も さ れ た	1 ・ 2 度 さ れ た	全 く な い	無 回 答
全 体	2,301	2.6	6.6	85.3	5.6	2.7	5.2	86.4	5.8	1.8	2.9	89.5	5.8
女性計	1,386	3.3	6.2	84.9	5.6	3.8	6.8	83.9	5.6	2.5	4.0	88.0	5.5
18～29歳	141	5.0	7.1	85.1	2.8	2.1	8.5	86.5	2.8	2.1	4.3	90.8	2.8
30代	216	3.2	6.0	87.5	3.2	2.8	6.0	88.0	3.2	2.8	2.3	92.1	2.8
40代	269	4.5	8.2	86.2	1.1	4.1	5.6	89.2	1.1	3.3	3.0	92.2	1.5
50代	229	2.2	7.0	87.3	3.5	3.9	4.8	87.8	3.5	1.7	3.1	91.7	3.5
60代	244	4.1	7.4	82.4	6.1	4.9	9.0	79.1	7.0	2.0	8.2	83.2	6.6
70歳以上	271	1.8	2.2	82.7	13.3	3.3	7.7	76.4	12.5	2.2	3.7	81.5	12.5
男性計	877	1.4	7.2	86.3	5.1	1.0	2.7	90.9	5.4	0.7	1.1	92.5	5.7
18～29歳	86	2.3	8.1	86.0	3.5	2.3	1.2	93.0	3.5	1.2	-	95.3	3.5
30代	123	4.1	7.3	83.7	4.9	1.6	7.3	86.2	4.9	0.8	0.8	93.5	4.9
40代	147	0.7	12.9	84.4	2.0	0.7	2.0	95.2	2.0	0.7	0.7	96.6	2.0
50代	129	0.8	8.5	89.1	1.6	2.3	3.9	92.2	1.6	2.3	1.6	94.6	1.6
60代	178	0.6	5.1	91.6	2.8	-	2.2	94.4	3.4	-	1.7	93.8	4.5
70歳以上	187	1.1	2.7	85.0	11.2	0.5	0.5	87.2	11.8	-	1.1	86.6	12.3

(17) 暴力を受けて、どう行動したいと思ったか

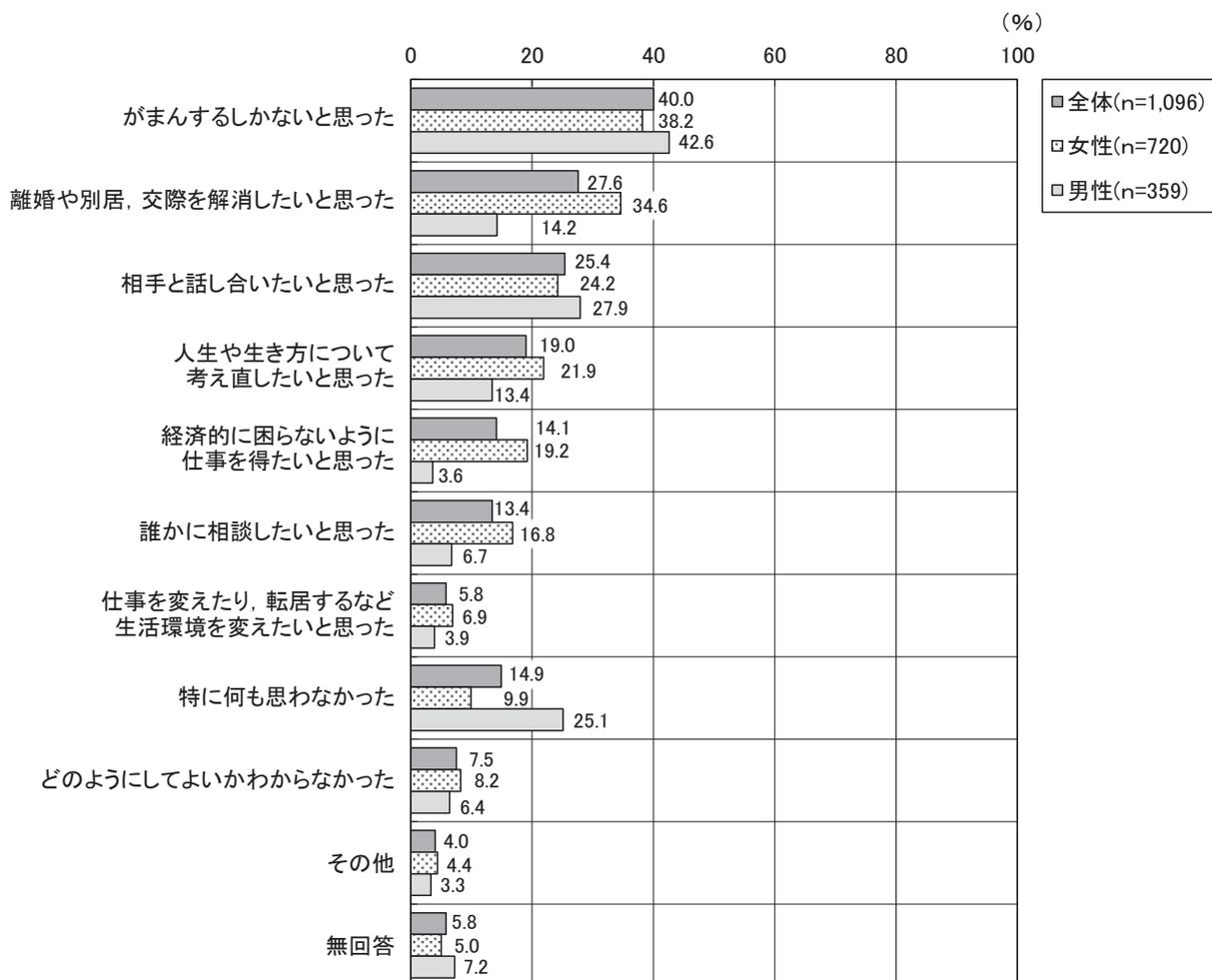
問33-1 《 問33でひとつでも「1」「2」と回答した方におたずねします。》

問33の行為をされたとき、あなたはどのようにしたいと思いましたか。あてはまるものを**すべて**選び、番号に○をつけてください。

暴力を受けて、どう行動したいと思ったかについて聞いたところ、「がまんするしかないと思った」と回答した人が40.0%と最も多く、次いで「離婚や別居、交際を解消したいと思った」(27.6%)、「相手と話し合いたいと思った」(25.4%)となっている。

性別にみると、女性では「離婚や別居、交際を解消したいと思った」(34.6%)の割合が男性(14.2%)に比べて20.4ポイント、「経済的に困らないように仕事を働きたいと思った」(19.2%)が男性(3.6%)に比べて15.6ポイント高くなっている。また、男性では「特に何も思わなかった」(25.1%)の割合が女性(9.9%)に比べて15.2ポイント高くなっている。

図表 暴力を受けて、どう行動したいと思ったか【性別】※複数回答



性・年代別にみると、男性 70 歳以上では「がまんするしかないと思った」の割合が 54.5%と
 なっており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 暴力を受けて、どう行動したいと思ったか【性・年代別】※複数回答

単位：%

	調査数	がまんするしかない と思った	離婚や別居、交際を解 消したいと思った	相手と話したいと 思った	人生や生き方について考 え直したいと思った	経済的に困らないよう に仕事をしたいと思った
全体	1,096	40.0	27.6	25.4	19.0	14.1
女性計	720	38.2	34.6	24.2	21.9	19.2
18～29歳	55	41.8	43.6	40.0	25.5	9.1
30代	107	28.0	34.6	28.0	22.4	14.0
40代	156	34.6	37.8	30.8	27.6	17.9
50代	124	37.1	37.1	29.0	21.0	21.8
60代	147	40.1	33.3	16.3	18.4	25.9
70歳以上	128	47.7	25.0	10.9	17.2	18.8
男性計	359	42.6	14.2	27.9	13.4	3.6
18～29歳	28	28.6	3.6	28.6	14.3	7.1
30代	52	36.5	23.1	40.4	23.1	1.9
40代	62	40.3	17.7	38.7	14.5	1.6
50代	57	43.9	21.1	14.0	10.5	5.3
60代	71	45.1	9.9	29.6	14.1	5.6
70歳以上	77	54.5	9.1	14.3	9.1	2.6

誰かに相談したいと思 った	仕事を変えたり、転居す るなど生活環境を変えたい と思った	特に何も思わなかった	どのようなにしてい か	その他	無 回 答	
13.4	5.8	14.9	7.5	4.0	5.8	全体
16.8	6.9	9.9	8.2	4.4	5.0	女性計
20.0	7.3	7.3	14.5	1.8	3.6	18～29歳
21.5	13.1	6.5	5.6	4.7	6.5	30代
19.2	9.0	8.3	5.8	3.2	4.5	40代
16.9	6.5	5.6	9.7	8.9	3.2	50代
17.7	6.1	13.6	8.2	4.1	4.8	60代
7.8	0.8	15.6	8.6	3.1	7.0	70歳以上
6.7	3.9	25.1	6.4	3.3	7.2	男性計
3.6	3.6	35.7	14.3	3.6	3.6	18～29歳
7.7	3.8	15.4	7.7	5.8	7.7	30代
6.5	6.5	24.2	9.7	3.2	3.2	40代
3.5	5.3	21.1	8.8	1.8	10.5	50代
5.6	4.2	26.8	1.4	4.2	2.8	60代
7.8	1.3	28.6	3.9	2.6	13.0	70歳以上

(18) 暴力を受けて、実際はどう行動したか

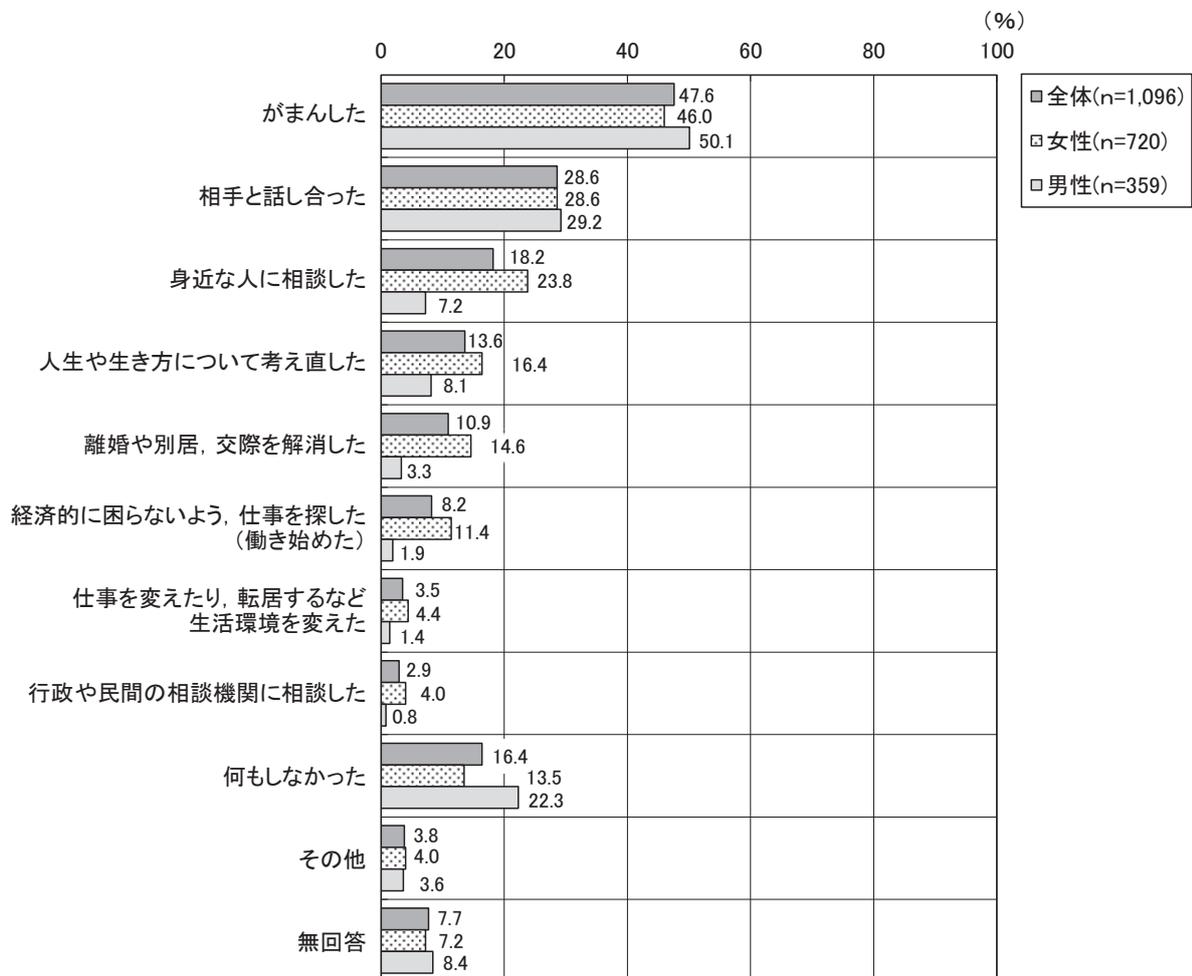
問33-2 《 問33でひとつでも「1」「2」と回答した方におたずねします。》

問33の行為をされたとき、実際には、どのように行動しましたか。あてはまるものを**すべて**選び、番号に○をつけてください。

暴力を受けて、実際はどう行動したかについて聞いたところ、「がまんした」と回答した人が47.6%と最も多く、次いで「相手と話し合った」(28.6%)、「身近な人に相談した」(18.2%)となっている。

性別にみると、女性では「身近な人に相談した」(23.8%)の割合が男性(7.2%)に比べて16.6ポイント高くなっている。

図表 暴力を受けて、実際はどう行動したか【性別】※複数回答



性・年代別にみると、女性では「身近な人に相談した」の割合が若い年代ほど高くなっている。

図表 暴力を受けて、実際はどう行動したか【性・年代別】※複数回答

単位：％

	調査数	がまんした	相手と話し合った	身近な人に相談した	人生や生き方について考え直した	離婚や別居、交際を解消した
全体	1,096	47.6	28.6	18.2	13.6	10.9
女性計	720	46.0	28.6	23.8	16.4	14.6
18～29歳	55	52.7	49.1	45.5	21.8	27.3
30代	107	37.4	39.3	30.8	11.2	15.0
40代	156	39.7	31.4	26.3	21.8	16.7
50代	124	45.2	28.2	21.8	15.3	13.7
60代	147	51.0	23.8	19.7	19.0	11.6
70歳以上	128	52.3	14.1	12.5	10.2	10.2
男性計	359	50.1	29.2	7.2	8.1	3.3
18～29歳	28	28.6	42.9	14.3	17.9	3.6
30代	52	48.1	34.6	11.5	9.6	-
40代	62	51.6	43.5	9.7	8.1	3.2
50代	57	47.4	26.3	3.5	5.3	8.8
60代	71	57.7	26.8	4.2	8.5	1.4
70歳以上	77	55.8	11.7	5.2	6.5	2.6

(働き始めた) 経済的に困らないよう、 仕事を始めた)	仕事を 変えたり、 転居する など生活 環境を変えた	行政や民間の 相談機関に 相談した	何も しなかつた	その他	無 回 答	
8.2	3.5	2.9	16.4	3.8	7.7	全体
11.4	4.4	4.0	13.5	4.0	7.2	女性計
5.5	9.1	3.6	3.6	-	1.8	18～29歳
5.6	5.6	2.8	9.3	3.7	7.5	30代
12.2	8.3	5.8	13.5	4.5	7.1	40代
10.5	2.4	3.2	15.3	6.5	3.2	50代
14.3	2.7	5.4	12.2	4.1	10.9	60代
14.8	-	2.3	21.1	3.1	9.4	70歳以上
1.9	1.4	0.8	22.3	3.6	8.4	男性計
-	-	-	32.1	3.6	-	18～29歳
-	1.9	-	11.5	5.8	11.5	30代
1.6	-	1.6	19.4	4.8	1.6	40代
3.5	3.5	1.8	15.8	1.8	14.0	50代
1.4	2.8	-	29.6	5.6	2.8	60代
3.9	-	1.3	27.3	1.3	13.0	70歳以上

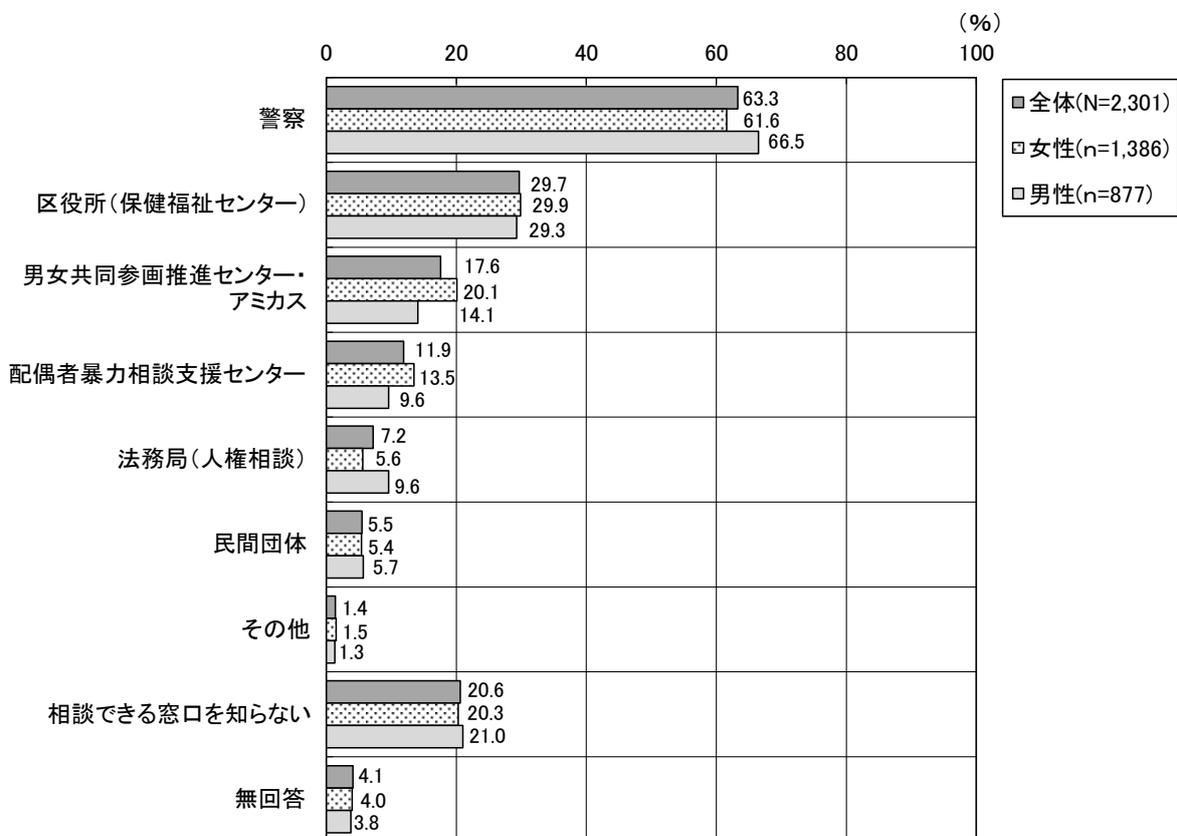
(19) 恋人、配偶者、パートナーからの暴力について知っている相談窓口

問34 「あなたは恋人、配偶者、パートナーからの暴力について、相談できる窓口としてどのようなものを知っていますか。あてはまるものを**すべて**選び、番号に○をつけてください。

恋人、配偶者、パートナーからの暴力について知っている相談先について聞いたところ、「警察」と回答した人が63.3%と最も多く、次いで「区役所（保健福祉センター）」(29.7%)、「男女共同参画推進センター・アミカス」(17.6%)となっている。

図表 恋人、配偶者、パートナーからの暴力について知っている相談窓口【性別】

※複数回答



性・年代別にみると、男性では「法務局（人権相談）」の割合が概ね年代が上がるほど高くなっている。このほか、「男女共同参画推進センター・アミカス」では、男性（14.1%）に比べ女性（20.1%）の割合が6.0ポイント高く、特に女性の40代・50代で2割台後半となっており、他の性・年代に比べ高くなっている。

図表 恋人、配偶者、パートナーからの暴力について知っている相談窓口

【性・年代別】※複数回答

単位：%

	調査数	警察	区役所 （保健福祉センター）	男女共同参画推進 センター・アミカス	配偶者暴力相談支援 センター	法務局（人権相談）	民間団体	その他	相談できる窓口を知らない	無回答
全体	2,301	63.3	29.7	17.6	11.9	7.2	5.5	1.4	20.6	4.1
女性計	1,386	61.6	29.9	20.1	13.5	5.6	5.4	1.5	20.3	4.0
18～29歳	141	68.1	19.9	10.6	14.9	2.8	7.8	1.4	19.1	0.7
30代	216	71.3	31.0	15.3	17.6	6.5	7.9	0.5	18.1	0.5
40代	269	69.5	31.6	27.1	13.0	4.5	5.9	1.1	17.5	1.1
50代	229	65.5	34.5	26.2	14.8	6.6	7.0	1.7	19.2	0.4
60代	244	60.2	30.7	21.7	13.5	7.4	3.7	2.5	17.6	4.1
70歳以上	271	41.3	28.4	14.4	8.1	5.2	2.2	1.5	28.8	14.0
男性計	877	66.5	29.3	14.1	9.6	9.6	5.7	1.3	21.0	3.8
18～29歳	86	67.4	30.2	22.1	10.5	4.7	10.5	3.5	23.3	-
30代	123	70.7	28.5	8.1	7.3	4.1	8.9	1.6	21.1	2.4
40代	147	76.2	25.2	12.9	8.8	5.4	6.1	1.4	18.4	0.7
50代	129	70.5	20.9	12.4	7.0	7.8	3.9	-	20.2	3.9
60代	178	64.0	34.8	14.0	10.1	9.6	3.4	1.7	22.5	1.1
70歳以上	187	56.1	33.7	17.6	12.8	19.8	4.8	0.5	20.3	10.7

(20) セクシュアル・ハラスメントを受けたり、見聞きした経験

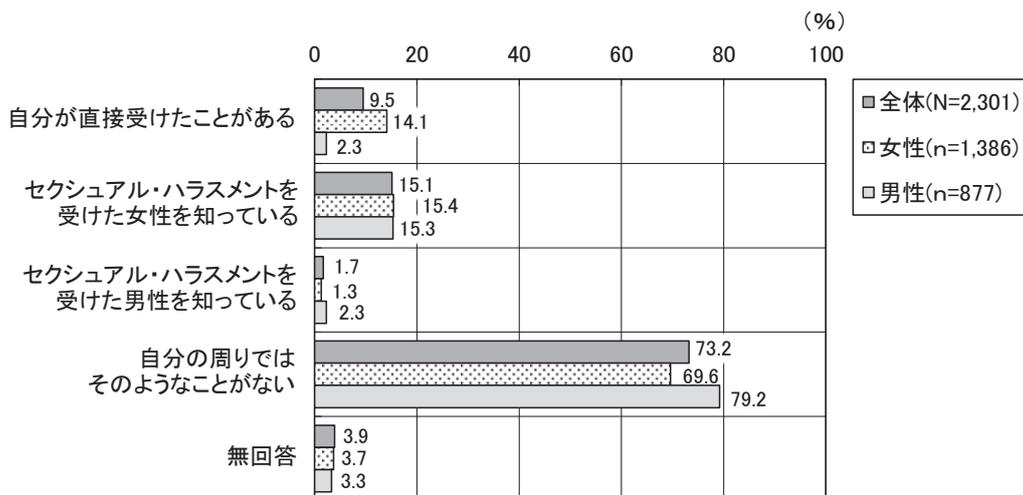
問35 あなたは、セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）を受けたり、自分の周りで見聞きしたことがありますか。あてはまるものを**すべて**選び、番号に○をつけてください。

セクシュアル・ハラスメントを受けたり、見聞きした経験について聞いたところ、「自分の周りではそのようなことがない」と回答した人が73.2%と最も多く、次いで「セクシュアル・ハラスメントを受けた女性を知っている」(15.1%)、「自分が直接受けたことがある」(9.5%)となっている。

性別にみると、女性では「自分が直接受けたことがある」(14.1%)の割合が男性(2.3%)に比べて11.8ポイント高くなっている。

図表 セクシュアル・ハラスメントを受けたり、見聞きした経験

【性別】※複数回答



性・年代別にみると、女性 40 代では「自分が直接受けたことがある」の割合が 20.1%となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 セクシュアル・ハラスメントを受けたり、見聞きした経験

【性・年代別】※複数回答

単位：%

	調査数	自分が直接受けたことがある	メックンツをい受けた・女性をス	知メックンツをい受けた・男性をス	う自 分の こと の周 りが ない はそ のよ	無 回 答
全 体	2,301	9.5	15.1	1.7	73.2	3.9
女性計	1,386	14.1	15.4	1.3	69.6	3.7
18～29歳	141	14.9	27.7	0.7	61.0	-
30代	216	17.6	18.1	1.4	65.3	0.9
40代	269	20.1	23.0	1.1	61.3	1.9
50代	229	13.5	14.8	1.3	73.4	0.4
60代	244	14.8	7.8	1.6	75.4	4.5
70歳以上	271	5.5	6.3	1.1	77.1	11.4
男性計	877	2.3	15.3	2.3	79.2	3.3
18～29歳	86	2.3	12.8	3.5	83.7	-
30代	123	4.1	19.5	4.9	75.6	1.6
40代	147	0.7	23.1	3.4	74.8	0.7
50代	129	3.9	18.6	0.8	73.6	3.9
60代	178	0.6	12.9	1.1	84.3	2.2
70歳以上	187	1.6	6.4	1.1	84.0	8.0

(21) 地域諸団体の活動への参加経験

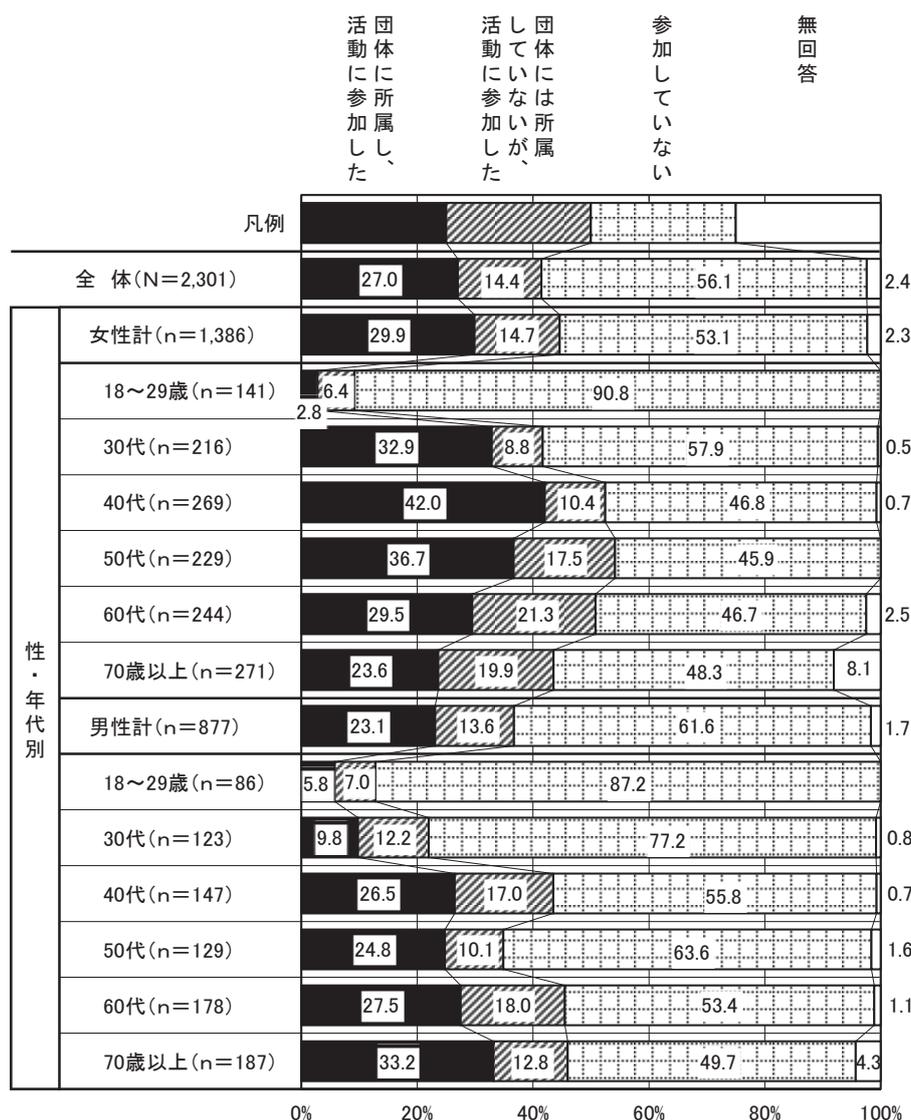
問36 あなたは、過去5年間に地域における諸団体（自治協議会、自治会・町内会、PTA、子ども育成連合会など）の活動に参加しましたか。あてはまるものを**1つだけ**選び、番号に○をつけてください。

過去5年間に地域における諸団体の活動への参加経験について聞いたところ、「参加していない」と回答した人が56.1%と最も多く、次いで「団体に所属し、活動に参加した」(27.0%)、「団体には所属していないが、活動に参加した」(14.4%)となっている。

性別にみると、男性では「参加していない」(61.6%)の割合が女性(53.1%)に比べて8.5ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、女性40代では「団体に所属し、活動に参加した」の割合が42.0%となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。一方、女性18～29歳、男性18～29歳・30代では「団体に所属し、活動に参加した」の割合が1割を下回っており、他の性・年代別に比べて低くなっている。

図表 地域諸団体の活動への参加経験【性・年代別】



(22) 地域活動において女性のリーダーが少ない理由

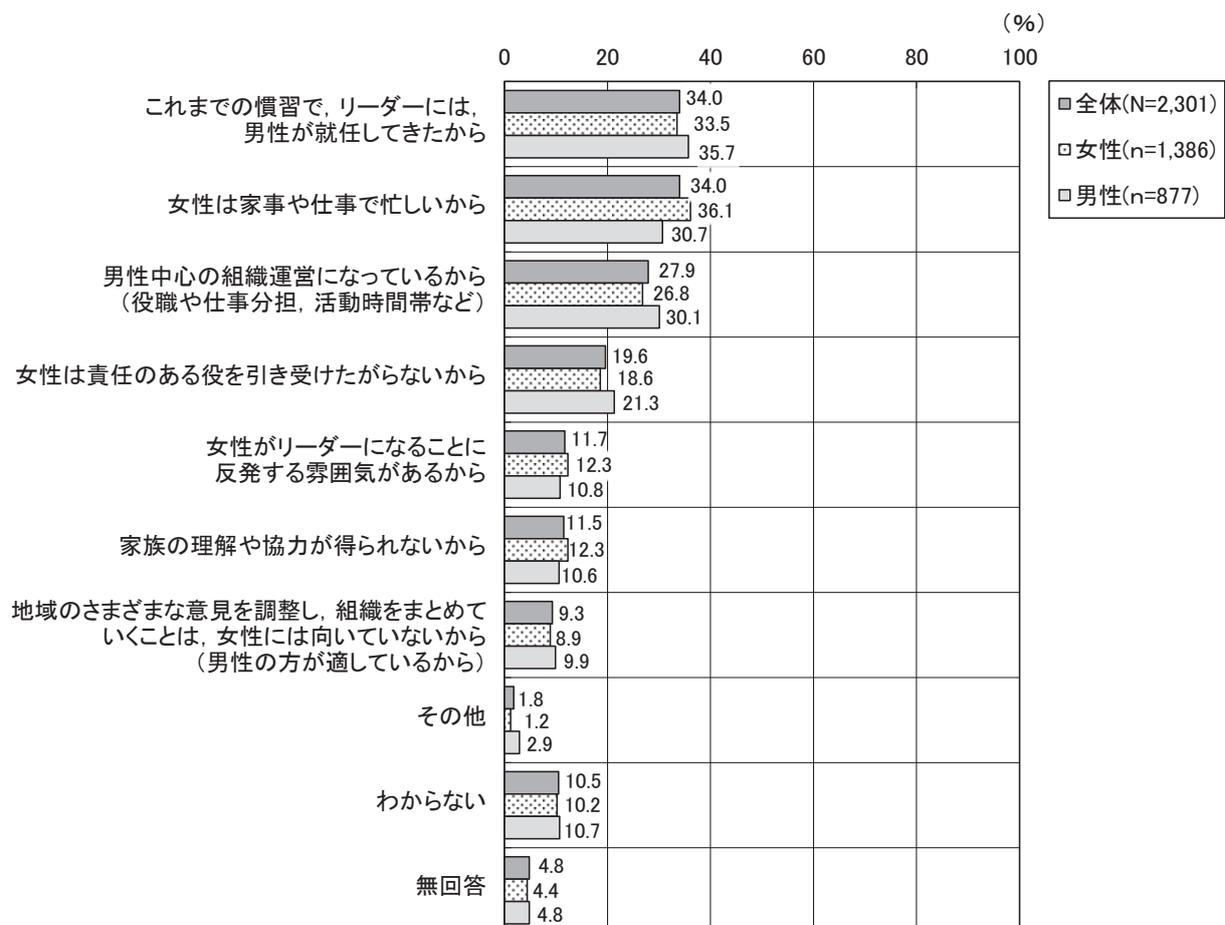
問37 現在福岡市では、地域における諸団体などの長（自治協議会会長、公民館長、PTA会長など）への女性の就任状況は2割程度となっています。あなたは、地域における活動に女性のリーダーが少ない理由は何だと思いませんか。あなたの考えに近いものを**2つまで**選び、番号に○をつけてください。

地域活動において女性のリーダーが少ない理由について聞いたところ、「これまでの慣習で、リーダーには、男性が就任してきたから」「女性は家事や仕事で忙しいから」と回答した人が34.0%と最も多く、次いで「男性中心の組織運営になっているから（役職や仕事分担、活動時間帯など）」（27.9%）となっている。

性別にみると、女性では「女性は家事や仕事で忙しいから」（36.1%）が男性（30.7%）に比べて5.4ポイント高くなっている。

図表 地域活動において女性のリーダーが少ない理由【性別】

※複数回答（2つまで）



性・年代別にみると、女性30代～50代・70歳以上、男性40代で「女性は家事や仕事で忙しいから」の割合が最も高く、女性18～29歳・60代、男性18～29歳・50代以上で「これまでの慣習で、リーダーには、男性が就任してきたから」が最も高くなっている。なお、男性30代では「男性中心の組織運営になっているから」と回答した人が最も多くなっている。

図表 地域活動において女性のリーダーが少ない理由【性・年代別】

※複数回答（2つまで）

単位：％

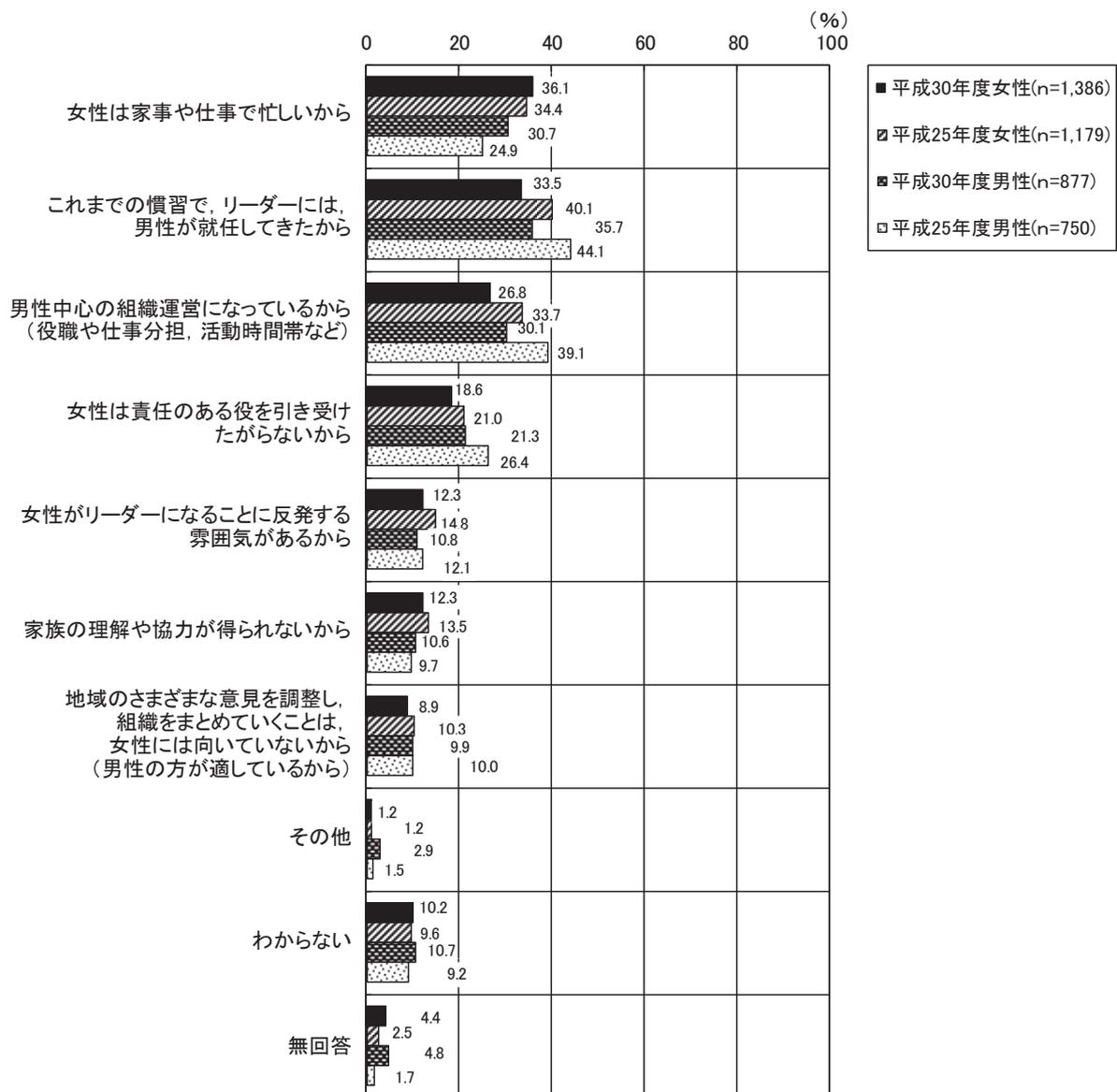
	調査数	女性 は家事 や仕事 で忙しい	これ までの 慣習で、 男性が 就任 してきた から	男性 中心の 組織運 営にな っている から（役 職や 活動時 間帯）	女性 は責任 のある 役割を 引き受 けたが らない	女性 がリー ダーに なるこ とから 反発す る雰囲 気があ ること
全体	2,301	34.0	34.0	27.9	19.6	11.7
女性計	1,386	36.1	33.5	26.8	18.6	12.3
18～29歳	141	39.0	41.1	34.0	13.5	20.6
30代	216	43.1	34.3	35.2	13.0	13.9
40代	269	35.3	30.9	24.9	18.2	10.4
50代	229	35.4	31.9	24.0	24.5	11.4
60代	244	36.5	38.1	27.9	21.7	11.5
70歳以上	271	30.6	28.0	19.6	18.1	10.0
男性計	877	30.7	35.7	30.1	21.3	10.8
18～29歳	86	25.6	36.0	31.4	14.0	20.9
30代	123	35.0	35.8	36.6	15.4	12.2
40代	147	35.4	33.3	33.3	17.7	9.5
50代	129	22.5	32.6	31.0	24.8	13.2
60代	178	33.7	36.5	27.5	23.6	8.4
70歳以上	187	30.5	40.1	25.7	26.7	6.4

家族 の理 解や 協力 が 得ら れな い	地 域の 整頓 が適 当で ない こと から （男 性の 意見 を まな まな とめ て ない から ）	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答	
11.5	9.3	1.8	10.5	4.8	全体
12.3	8.9	1.2	10.2	4.4	女性計
11.3	2.1	-	7.1	3.5	18～29歳
10.6	6.5	0.5	7.9	2.8	30代
12.6	8.6	3.0	12.6	3.0	40代
15.7	9.2	1.3	9.6	3.1	50代
14.3	9.0	1.2	5.7	5.3	60代
9.2	14.8	0.4	15.1	8.1	70歳以上
10.6	9.9	2.9	10.7	4.8	男性計
5.8	5.8	4.7	15.1	2.3	18～29歳
7.3	10.6	4.1	9.8	1.6	30代
9.5	6.1	4.1	13.6	2.7	40代
15.5	10.1	3.9	8.5	3.9	50代
15.7	9.0	0.6	9.6	6.2	60代
8.0	15.0	0.5	8.0	9.1	70歳以上

過去の調査結果と比較すると、男女ともに「女性は家事や仕事で忙しいから」の割合が増加し、「これまでの慣習で、リーダーには、男性が就任してきたから」「男性中心の組織運営になっているから（役割や仕事分担、活動時間帯など）」は減少している。

図表 地域活動において女性のリーダーが少ない理由

【過去の調査との比較】 ※複数回答



(23) 災害時に必要な男女共同参画の視点による対策・対応

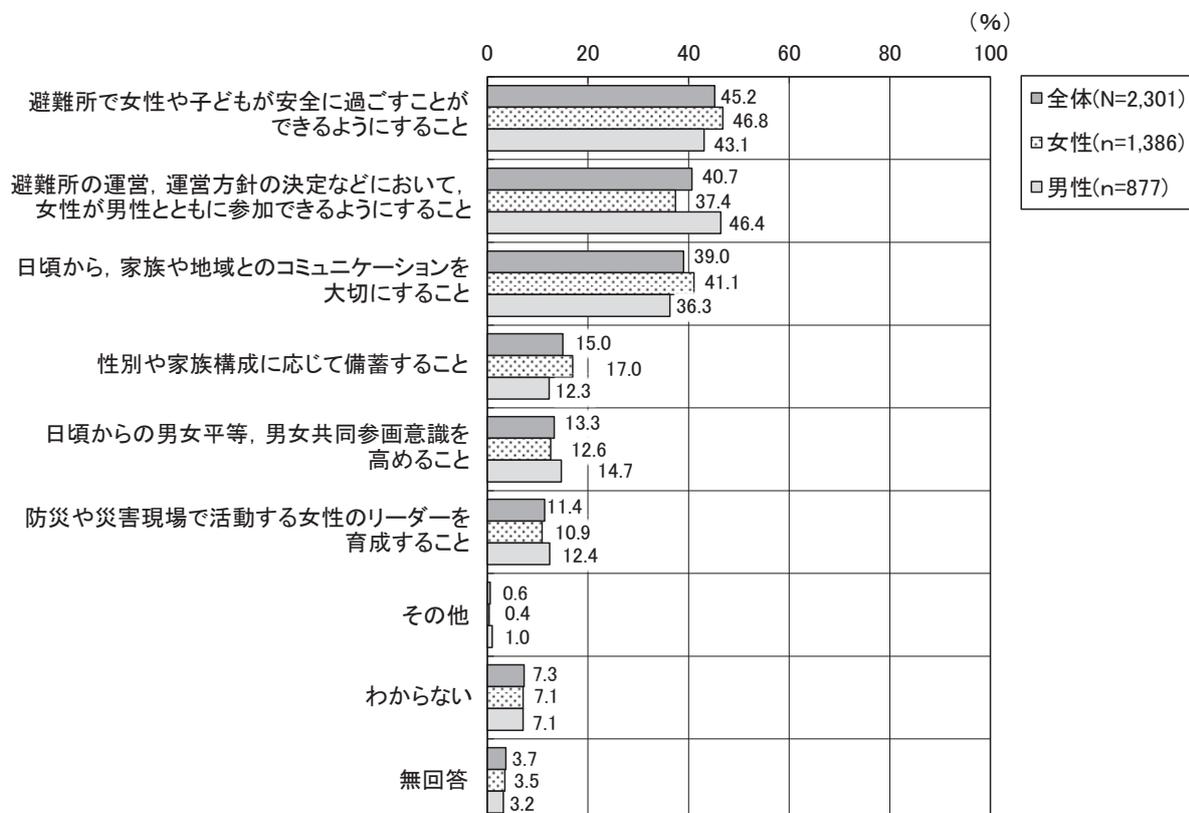
問38 東日本大震災や熊本地震など、これまでの大規模災害時における経験から、男女共同参画の視点による対策や対応が課題となっています。あなたは、この課題に備えるために、どのようなことが必要だと思いますか。特にあてはまるものを**2つまで**選び、番号に○をつけてください。

災害時に必要な男女共同参画の視点による対策・対応について聞いたところ、「避難所で女性や子どもが安全に過ごすことができるようにすること」と回答した人が45.2%と最も多く、次いで「避難所の運営、運営方針の決定などにおいて、女性が男性とともに参加できるようにすること」(40.7%)、「日頃から、家族や地域とのコミュニケーションを大切にすること」(39.0%)となっている。

性別にみると、男性では「避難所の運営、運営方針の決定などにおいて、女性が男性とともに参加できるようにすること」(46.4%)の割合が女性(37.4%)に比べて9.0ポイント高くなっている。

図表 災害時に必要な男女共同参画の視点による対策・対応

【性別】※複数回答(2つまで)



性・年代別にみると、女性18歳～60代、男性40代以下では「避難所で女性や子どもが安全に過ごすことができるようにすること」の回答が最も多くなっている。男性50代以上では「避難所の運営、運営方針の決定などにおいて、女性が男性とともに参加できるようにすること」の回答が最も多くなっている。また、女性60代以上では「日頃から、家族や地域とのコミュニケーションを大切にすること」の割合も高くなっている。

図表 災害時に必要な男女共同参画の視点による対策・対応

【性・年代別】※複数回答（2つまで）

単位：%

調査数	よ安全に過ごすこと	避難所で女性や子どもができる	避難所での運営、運営方針の	決定などにおいて、女性	男性とともに参加できる	日頃から、家族や地域との	コミュニケーションを大切	にすること	日頃からの家族構成に	備蓄すること	性別や家族構成に応じて	共同参画意識を高めるこ	日頃からの男女平等、男	女性とのリーダーを育成す	防災や災害現場で活動す	こと	その他	わからない	無回答
全体	2,301	45.2	40.7	39.0	39.0	15.0	13.3	11.4	0.6	7.3	3.7								
女性計	1,386	46.8	37.4	41.1	17.0	12.6	10.9	0.4	7.1	3.5									
18～29歳	141	51.1	29.8	38.3	20.6	17.7	9.9	-	7.8	0.7									
30代	216	57.9	32.9	35.6	19.9	12.5	11.6	0.5	7.4	1.9									
40代	269	48.7	33.8	37.5	20.4	12.6	10.4	0.7	7.4	2.2									
50代	229	45.0	42.4	38.9	17.9	12.7	10.5	0.4	7.0	1.7									
60代	244	46.3	42.6	46.3	13.1	11.1	11.9	0.4	4.9	4.5									
70歳以上	271	36.5	40.2	47.6	12.9	10.7	10.3	-	8.1	8.1									
男性計	877	43.1	46.4	36.3	12.3	14.7	12.4	1.0	7.1	3.2									
18～29歳	86	44.2	33.7	34.9	16.3	14.0	11.6	-	11.6	3.5									
30代	123	53.7	36.6	39.0	17.1	8.1	10.6	1.6	8.1	0.8									
40代	147	44.2	40.8	38.8	15.6	17.0	9.5	0.7	8.2	1.4									
50代	129	48.1	49.6	28.7	14.0	13.2	11.6	3.9	3.9	2.3									
60代	178	42.7	57.3	36.5	6.7	12.4	15.2	-	6.2	3.9									
70歳以上	187	33.2	51.3	39.6	8.0	18.2	13.4	0.5	7.0	5.9									

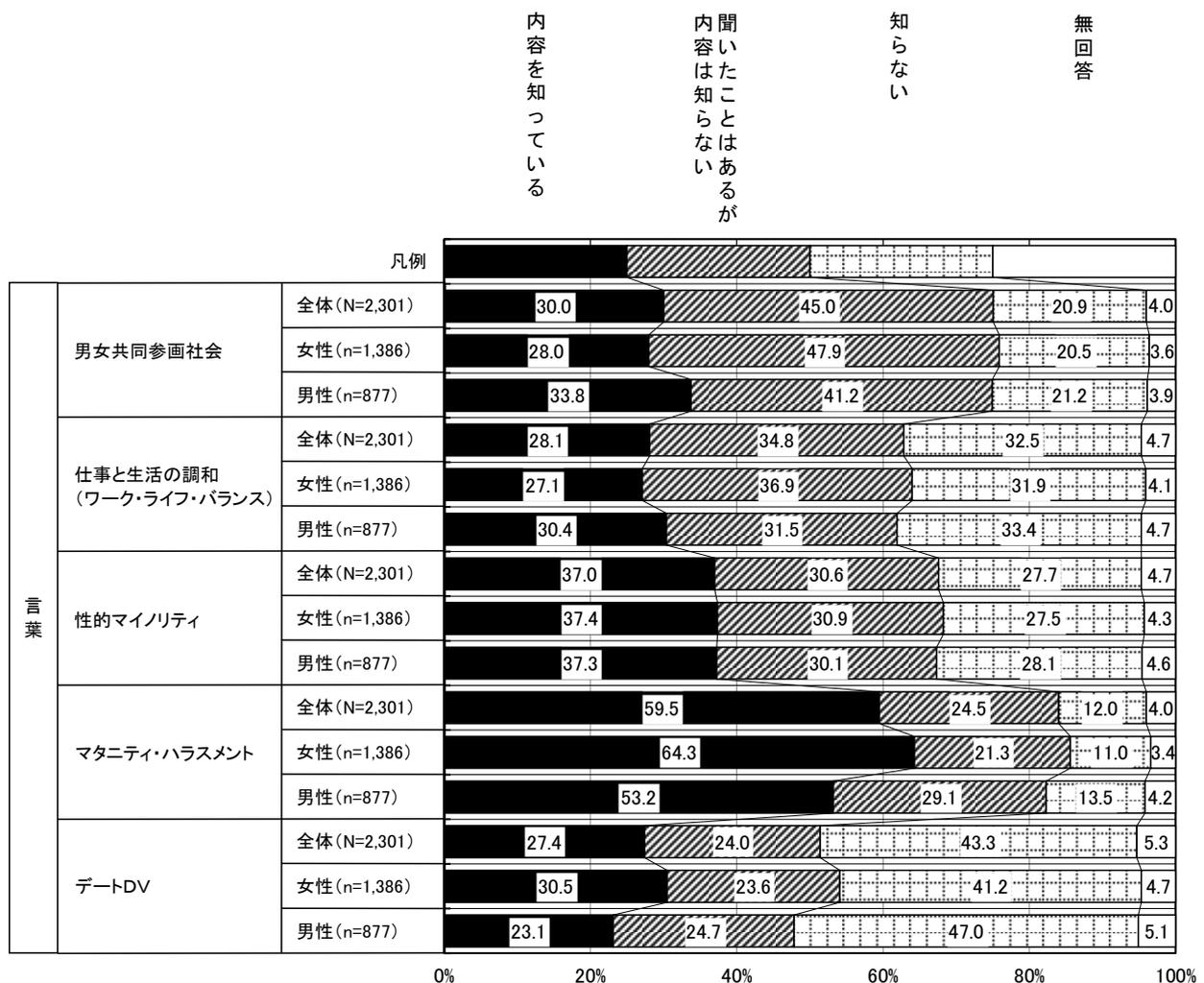
(24) 男女共同参画に関する言葉や施策の認知度

問39 下記の(1)～(11)の言葉や施策について、あなたはどの程度知っていますか。
 (1)～(11)のそれぞれの項目についてあてはまるものを1つずつ選び、番号
 に○をつけてください。

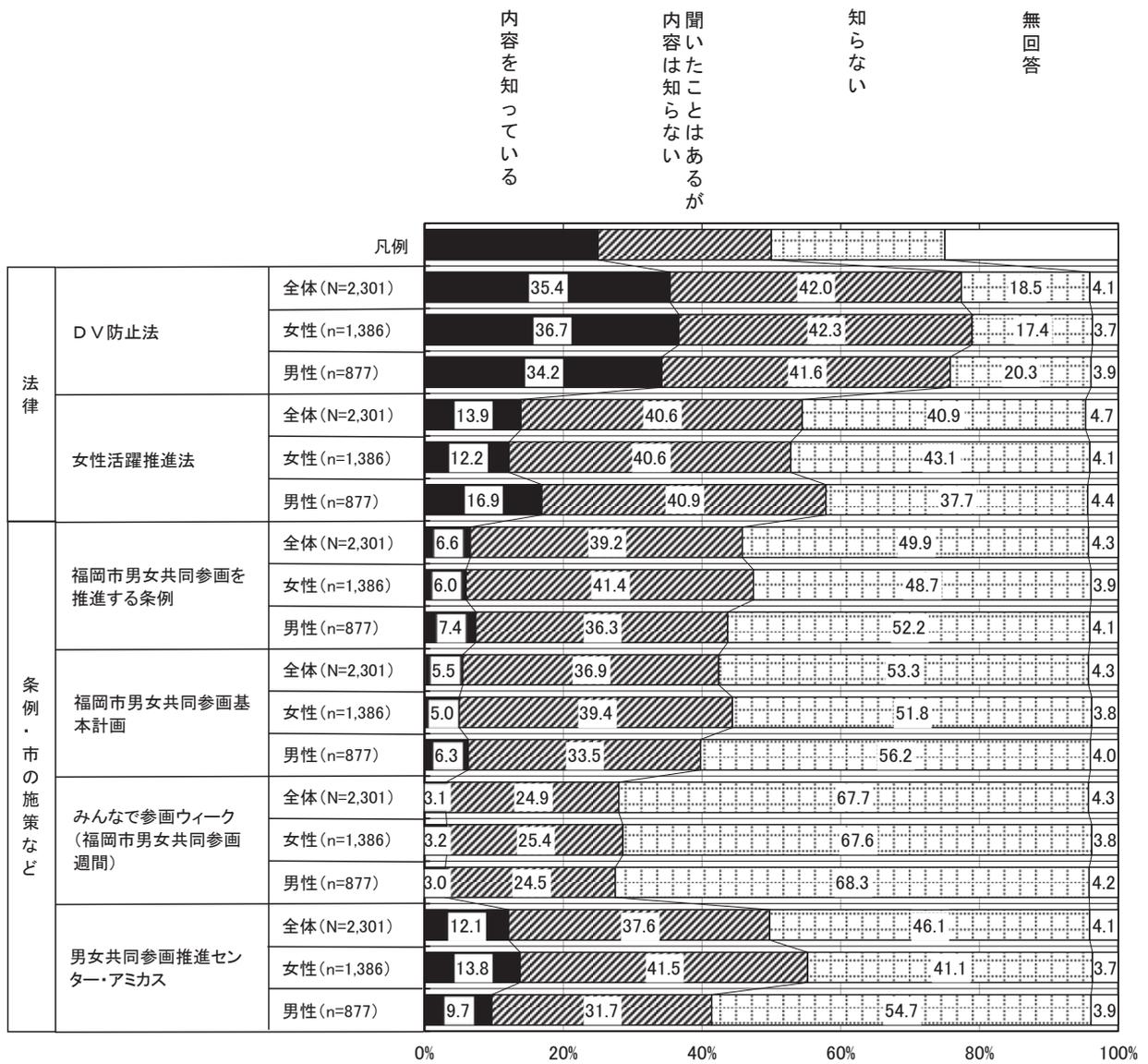
男女共同参画に関する言葉や施策の認知度について聞いたところ、「内容を知っている」と回答した人の割合は、「マタニティ・ハラスメント」が59.5%と最も高く、次いで「性的マイノリティ」(37.0%)、「DV防止法」(35.4%)となっている。

性別にみると「マタニティ・ハラスメント」では「内容を知っている」と回答した人の割合は、男性(53.2%)に比べて女性(64.3%)が11.1ポイント高くなっている。また、「デートDV」では「内容を知っている」の割合は、男性(23.1%)に比べて女性(30.5%)が7.4ポイント高くなっている。

図表 男女共同参画に関する言葉や施策の認知度【性別】



図表 男女共同参画に関する言葉や施策の認知度【性別】



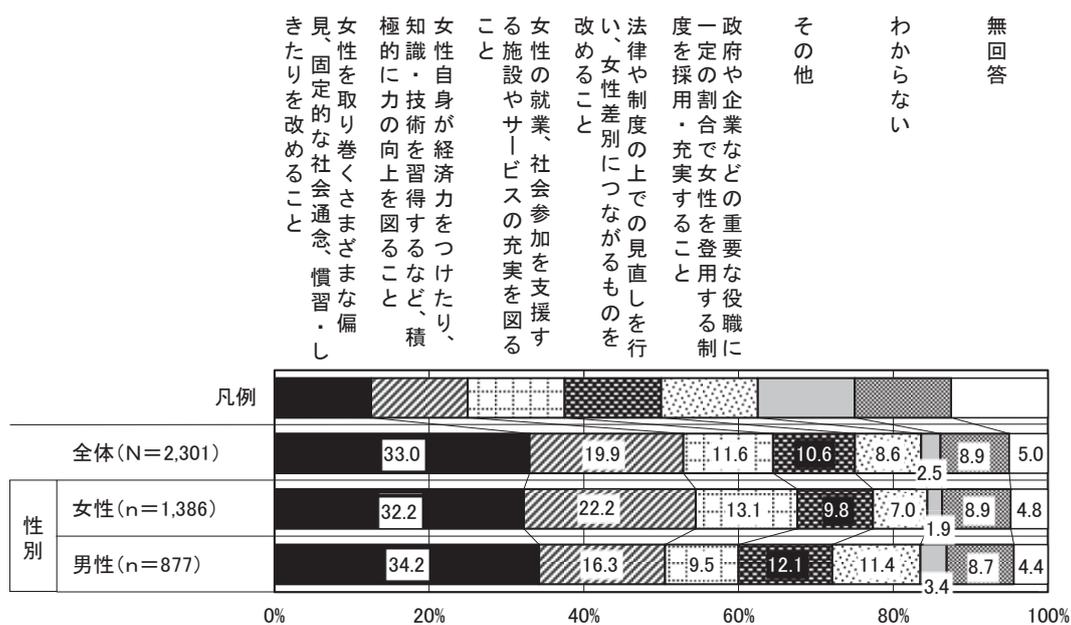
(25) 男女が社会のあらゆる分野で平等になるために重要なこと

問40 あなたが、今後、男女が社会のあらゆる分野で平等になるために最も重要と思うことは何ですか。あなたの考えに最も近いものを**1つだけ**選び、番号に○をつけてください。

男女が社会のあらゆる分野で平等になるために重要なことについて聞いたところ、「女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」と回答した人が33.0%と最も多く、次いで「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」(19.9%)、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」(11.6%)となっている。

性別にみると、女性では「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」(22.2%)の割合が男性(16.3%)に比べて5.9ポイント高くなっている。

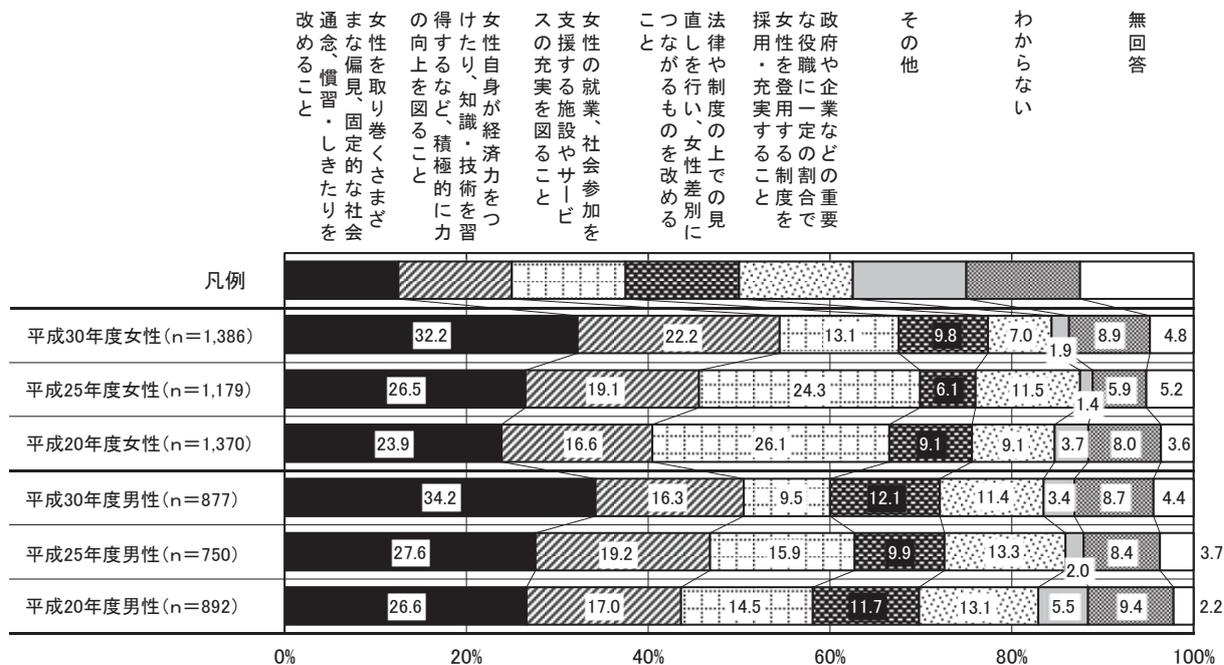
図表 男女が社会のあらゆる分野で平等になるために重要なこと【性別】



過去の調査結果と比較すると、男女ともに「女性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」の割合は増加している。また、男女ともに「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」の割合は、平成25年度から減少している。

図表 男女が社会のあらゆる分野で平等になるために重要なこと

【過去の調査との比較】



(26) 「男女共同参画社会」実現のために、市が力を入れていくべきこと

問41 「男女共同参画社会」とは、男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会です。あなたは、「男女共同参画社会」を実現するために、今後、福岡市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。あてはまるものを**5つまで**選び、番号に○をつけてください。

「男女共同参画社会」実現のために、市が力を入れていくべきことについて聞いたところ、「保育の施設・サービスを充実し、子育て中でも働き続けられるよう支援する」と回答した人が57.8%と最も多くなっている。

性別にみると、男性では「学校や職場、地域などで、男女平等と相互の理解についての学習機会を充実する」(45.2%)の割合が女性(35.6%)に比べて9.6ポイント高くなっている。女性では「介護の施設・サービスを充実し、介護をしながらでも働き続けられるよう支援する」(57.1%)の割合が男性(49.4%)に比べて7.7ポイント高くなっている。

図表 「男女共同参画社会」実現のために、市が力を入れていくべきこと

